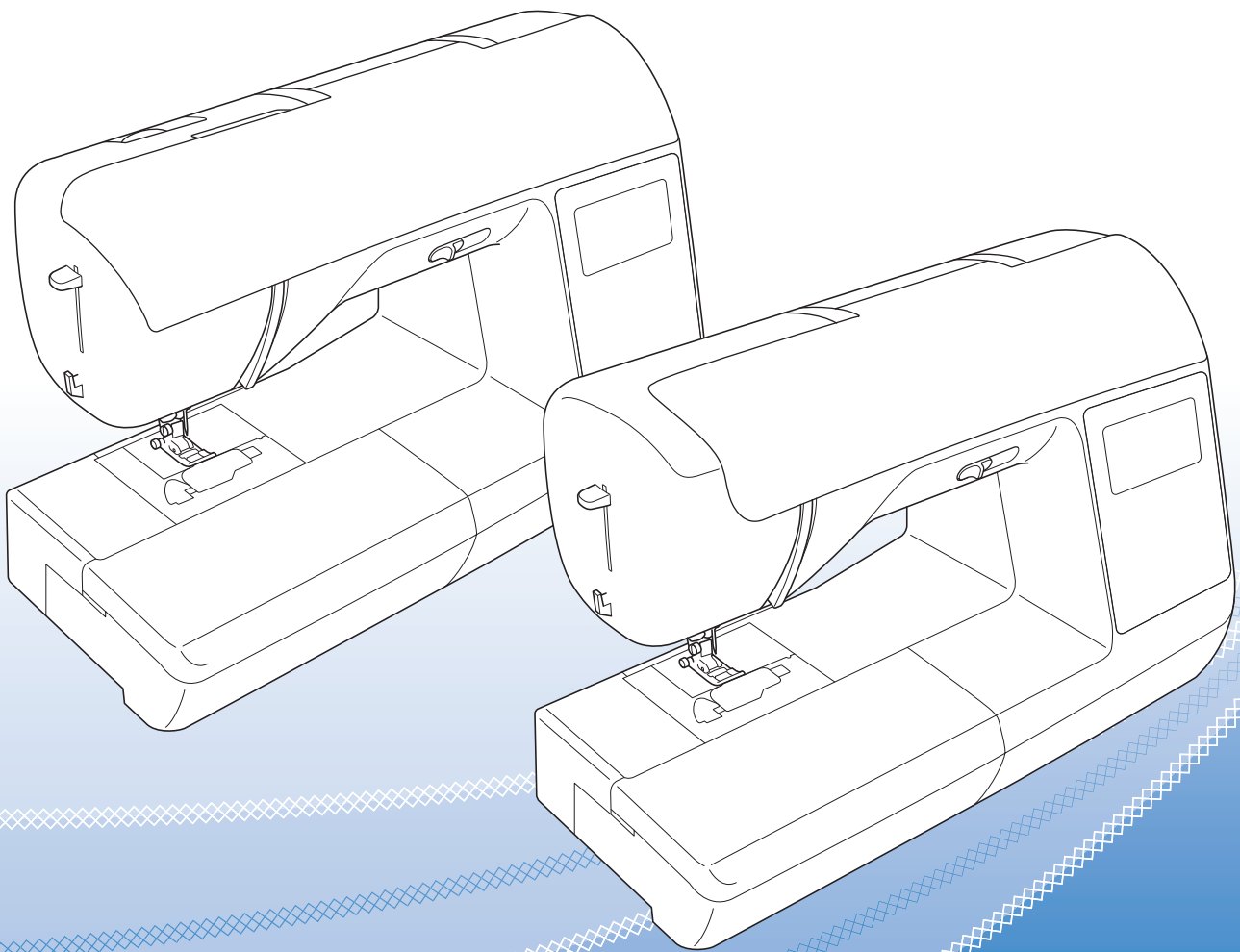


取扱説明書

コンピューターミシン

CPH03 / CPH13 / CPJ13 / CPJ16 シリーズ



- ご使用になる前に必ず取扱説明書をお読みにになり、正しくお使いください。
- 取扱説明書はなくさないように大切に保管し、いつでも手にとって見られるようにしてください。

はじめに

この度は、本製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。
 お使いになる前に「安全にお使いいただくために」をよくお読みいただき、本取扱説明書で機能や使い方を十分にご理解のうえ、末永くご愛用ください。
 また、お読みになった後はいつでもご覧になれるところに保管してください。

安全にお使いいただくために

本取扱説明書およびミシンで使用されている表示や絵文字は、製品を安全に正しくお使いいただき、お使いになる方や他の人々への危害や損害を未然に防ぐためのものです。
 その表示や意味は次のとおりです。

 警告	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が死亡または重傷を負う危険が想定される内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った使い方をすると、人が傷害を負う危険が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

取扱説明書で使用されている絵文字の意味は次のとおりです。



特定しない
禁止事項



特定しない
義務行為



感電の危険が
あります



分解しては
いけません



電源プラグを
抜いてください



火災の危険が
あります



水に濡らしては
いけません



特定しない
危険通告



針の下に指を入れない
でください

本製品を安全にお使いいただくために、以下の事柄を守ってください。

 警告	
 	一般家庭用電源 AC100V の電源以外では、絶対に使用しないでください。 火災・感電・故障の原因となります。
	以下のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。 火災・感電・故障の原因となります。 ・ミシンのそばを離れるとき ・ミシンを使用したあと ・使用中に停電したとき ・接触不良、断線などで正常に動作しないとき ・雷が鳴りはじめたとき
 注意	
 	延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
 	濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
	電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

！ 注意	
	電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
 	電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物をのせたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。 電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	電源コードは、赤い印以上に引き出さないでください。（CPH03、CPH13 シリーズのみ）
	長期間ご使用にならないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。
 	直射日光の当たる場所や、ストーブ、アイロンのそばなど温度の高い場所では使用しないでください。ミシンの使用温度は 0 ～ 40 ℃ です。ミシン内部の温度が上がったり、ミシン本体や電源コードの被膜が溶けて火災・感電の原因となります。
 	火の気のあるもののそばでは使用しないでください。（火の消えていないたばこ、ろうそくなど）火災の原因となります。
 	野外でのご使用は避けてください。雨などが降り、本体が濡れて感電の原因となります。また濡れたときはお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	温度や湿度の高い所でのご使用や保管は避けてください。
 	スプレー製品などを使用する部屋では使用しないでください。スプレーへの引火によるやけどや火災の原因となります。
 	ぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所には置かないでください。バランスが崩れて倒れたり、落下などしてけがをする原因となります。 ミシンは安定した平らなテーブルや机の上でご使用ください。
 	ミシン本体の換気口をふさがないでください。換気口は、必ず壁から 30cm 以上離して使用してください。また、換気口やフットコントローラーに糸くずやほこりがたまらないようにしてください。火災の原因となります。
   	ミシン本体の上に花瓶や水の入った容器を置くなどして、ミシン本体に水をこぼさないでください。万一、内部に水などが入った場合は、電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
  	ミシン本体の換気口や内部に異物を入れたり、ドライバーなどを差し込まないでください。高圧部に触れて感電のおそれがあります。万一、異物が入った場合は、使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
	ミシン本体の重さは約 9kg あります。ミシン本体を持ち運ぶ際は急激または、不用意な動作をしないでください。腰や膝を痛める原因となります。
	以下の場所に設置、保管をしないでください。故障の原因になります。 ・ 温度が著しく高くなる場所 ・ 温度が著しく低くなる場所 ・ 急激に温度が変化する場所 ・ 湿気、湯気の多い場所 ・ 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所 ・ 屋外や直射日光の当たる場所 ・ ほこり、油煙の多い場所
	ミシン本体は、必ずハンドルを持って持ち運びをしてください。他の部分を持つとこわれたりすべて落したりして、けがの原因となります。

注意

	ミシン本体には取扱説明書に記載されている付属品を使用してください。他の部品を使用するとけが・故障の原因となります。
	お客様ご自身での分解・修理および改造は行わないでください。火災・感電およびけがの原因となります。指定以外の内部の点検・調整・掃除・修理は、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご依頼ください。
	本製品のお手入れには、シンナー・ベンジン・アルコールなどの有機溶剤、洗剤を使わないでください。塗装がはがれたり、傷がついたりすることがあります。
	取扱説明書に記載されている整備は、必ず電源プラグをコンセントから抜いて行ってください。けが・感電の原因となります。
	<u>ミシン操作中は、針の動きに十分ご注意ください。また、針、プーリー、てんびんなどすべての動いている部品に手を近づけないでください。</u> けがの原因となります。
	リッパーで穴を開ける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。本来の使用目的以外での使用はしないでください。
	針や押えなどの交換およびそのほかの機能に関する使用については、取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。
	縫製中、布地を無理に引っ張ったり、押しったりしないでください。けが・針折れの原因となります。
	<u>針の下などに指を入れないでください。</u> けがをするおそれがあります。
	上糸、下糸などに関する操作については、取扱説明書の指示通りに正しく行ってください。取り扱いを誤ると、縫製中に糸がらみなどが発生し、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。
	曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
	万一、ミシン本体を落したり、破損したり、故障したりした場合は、ただちに使用をやめてお買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。
 	万一、煙が出ている、異臭がする、異常音がするなどの状態のときはすぐに電源プラグをコンセントから抜いて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。お客様による修理は危険ですから絶対にしないでください。
	本製品が入っていた袋は、お子様がかぶって遊ばないように、お子様の手の届かないところに保管するか廃棄してください。かぶって遊ぶと窒息のおそれがあります。
 	お子様の玩具として使用しないでください。お子様が使用するときや、お子様の近くで使用するとき、お子様がけがをしないよう十分注意してください。
	フットコントローラーの上に物をのせないでください。けが・故障の原因となります。

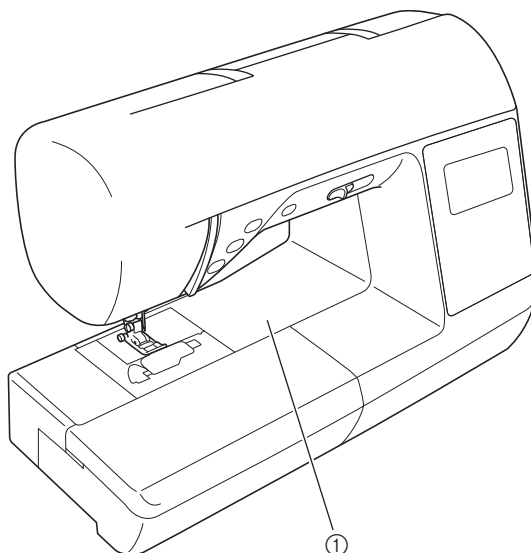
- このミシンは日本国内向け、家庭用です。外国では使用できません。
This sewing machine can not be used in a foreign country as designed for Japan.
職業用としてご使用になった場合の保証はいたしかねますので、ご了承ください。
- 仕様および外観は品質改良のため、予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容を許可なく無断で複製することは禁じられておりますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。
- 取扱説明書の内容について、万一不審な点や誤りなどお気づきの点がありましたら「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 本機をご使用になる方（お子様を含む）が、身体／知覚／精神的能力になんらかの障がいを持つ場合、あるいは経験や知識が十分でない場合には安全を保証できる責任者の監視の下でのみ本機を使用してください。
- お子様が使用するときは、玩具として使用しないよう、十分な監視の下で使用してください。

警告ラベルについて

ミシン本体には下記の警告ラベルが表示されています。

警告表示の注意事項を守って作業を行ってください。

また、警告ラベルは、はがれたり、傷ついたりしないよう十分注意してください。



① ラベルの場所

この説明書について

この取扱説明書は、CPH03、CPH13、CPJ13 および CPJ16 シリーズについて記載されています。
シリーズによって製品の仕様が異なりますので、本書を読むときにご注意ください。

このミシンでできること

B 基本機能編

本機をご使用になる前に、「基本機能編」をお読みください。ここでは、基本的な準備の手順や、基本的なぬい方、本機の便利な機能を説明しています。

第1章 めう前の準備

[B-2 ページ](#)

ミシンの基本的な操作方法を説明します。

第2章 基本のぬい方

[B-26 ページ](#)

めう前に必要な準備と基本的なぬい方を説明します。

S 実用ぬい編

ここでは実用ぬいのさまざまな機能をご紹介します。基本的な縫製だけでなく、筒ものぬいやボタン穴かがりなど、本機をもっと活用したいときの詳しい操作方法を知ることができます。

第1章 きれいに仕上げるために

[S-2 ページ](#)

上手にめうコツやさまざまな布地をめうコツなどを説明します。

第2章 いろいろなぬい方

[S-6 ページ](#)

内蔵模様の使い方を紹介します。

A 付録

ここでは、本機の操作をする上で重要な情報をご紹介します。

第1章 お手入れ／困ったときには

[A-2 ページ](#)

ミシンのお手入れ、困ったときの対処方法などを紹介します。

目次

安全にお使いいただくために	i
警告ラベルについて	iv
この説明書について	v
このミシンでできること	v

B 基本機能編

第1章 めう前の準備 2

各部の名称とはたらき	2
主要部	2
針と押え部分	3
操作スイッチ	3
操作パネルと操作キー	4
補助テーブル	4
付属品	5
別売品	5
電源の入れ方	6
電源を入れる	7
電源を切る	7
液晶画面	8
液晶画面の見方	8
操作キーの感度を調節する	9
下糸の準備	10
下糸を巻く	10
下糸をセットする	13
上糸通し	16
上糸を通す	16
針に糸を通す	18
手で針に糸を通すとき	19
下糸を引き出す	20
針の交換	21
布地と糸の種類による針の種類と使い分け	21
正しい針の見分け方	22
針の交換	22
押えの交換	24
押えを交換する	24
押えホルダーを取り外す／取り付ける	25

第2章 基本のめい方 26

めってみましょう	26
模様を選択する	26
模様をぬう	26
返しぬい／止めぬいをする	29
自動で返しぬい／止めぬいをする	29
止めぬい優先の設定	30
自動で糸を切る (CPH13/CPJ13/CPJ16 シリーズのみ)	31
模様の設定	32
振り幅を調節する	32
ぬい目の長さを調節する	32
糸調子を調節する	33
ぬい方早見表	34

S 実用ぬい編

第1章 きれいに仕上げるために 2

上手にぬうコツ	2
試しぬいをする	2
ぬう方向を変える	2
カーブをぬう	2
筒ものをぬう	2
ぬいしろの幅をそろえる	3

押え圧を調節する (CPJ16 シリーズのみ)	3
いろいろな素材をぬう	4
厚い布地をぬう	4
薄い布地をぬう	4
伸びる布地をぬう	5
ビニールや皮革をぬう	5
面ファスナー (マジックテープ®) をぬう	5

第2章 いろいろなぬい方 6

布をぬい合わせる	6
すそ上げをする	7
布端を始末する	10
たち目かがり押え<G>を使うたち目かがり	10
ジグザグ押え<J>を使うたち目かがり	11
ボタン穴かがり	12
ファスナーつけ	15
つき合わせ	15
片返し	16
伸びる布地やゴムテープをぬう	19
伸縮ぬい	19
ゴムテープつけ	19
アップリケ／パッチワーク／キルトぬい	21
アップリケ	21
パッチワーク (クレイジーキルト)	22
ピーシング	22
キルティング	23
フリーモーションキルト	24
振り幅コントロールを使用したサテンぬい	25
丈夫にしたいところをぬう	26
3重ぬい	26
飾りぬいをする	27
ファゴティング	27
スモッキング	27

A 付録

第1章 お手入れ／困ったときには 2

お手入れのしかた	2
注油に関して	2
ミシンを保管するときのご注意	2
画面の汚れの掃除	2
ミシンの汚れの掃除	2
かまの掃除	2
困ったとき	4
よくあるご相談	4
上糸がつる	4
布裏で糸がからまる	5
糸調子が合わない	6
布がミシンに入り込んでとれなくなった	7
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	10
液晶画面に「E06」が表示される	11
こんなときは	14
エラーメッセージ	18
電子音	20
仕様	20
索引	21



基本機能編

ここでは、基本的な準備の手順や、基本的なぬい方、本機の便利な機能を説明します。
ページ数は、「B」の記号で始まります。

第 1 章 むう前の準備.....B-2

第 2 章 基本のぬい方.....B-26

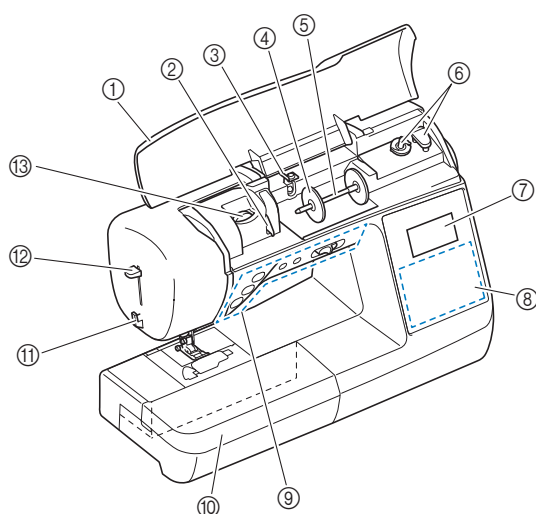
第1章 めう前の準備

各部の名称とはたらき

ここでは、ミシンの各部の名称とはたらきを説明します。ミシンをお使いになる前に、よく読んで覚えておきましょう。

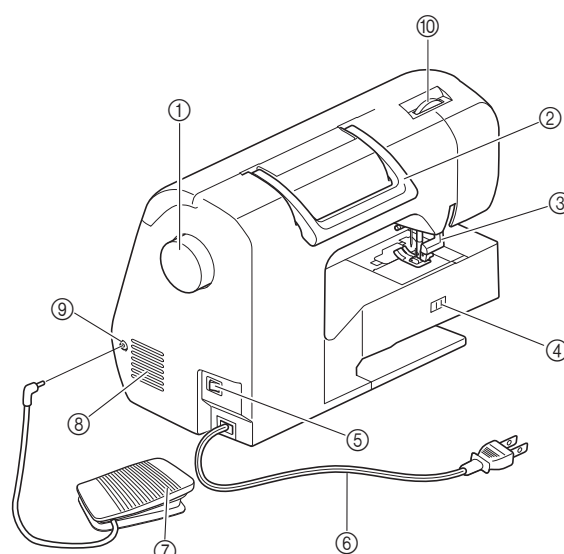
主要部

■ 正面



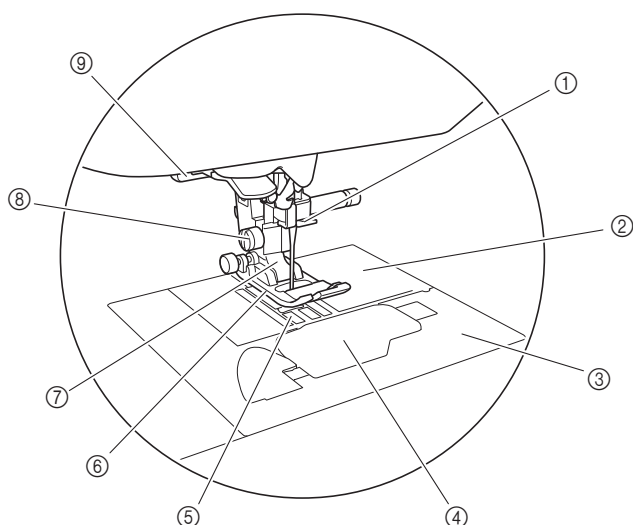
- ① **上ふた**
上糸を通すときや下糸を巻くときに開けます。
- ② **糸案内板**
上糸を通すときに糸をかけます。
- ③ **下糸巻き案内**
下糸を巻くときに糸をかけます。
- ④ **糸こま押え**
糸こまが抜けないように押さえます。
- ⑤ **糸たて棒**
糸こまを差し込みます。
- ⑥ **下糸巻き装置**
下糸をボビンに巻くときに使用します。
- ⑦ **液晶画面**
選択した模様の設定やエラーメッセージが表示されます。
(B-8 参照)
- ⑧ **操作パネル**
模様の選択をするとき、ミシンの設定をするときなどに使用します。
(B-4 参照)
- ⑨ **操作スイッチとスピードコントロールレバー**
ミシンのさまざまな操作に使用します。
(B-3 参照)
- ⑩ **補助テーブル**
中に押えやボビンなどを収納します。袖口などの筒ものをぬうときには外します。
- ⑪ **糸切り**
糸を引っかけて切ります。
- ⑫ **糸通しレバー**
針穴に糸を通すときに使用します。
- ⑬ **糸調子ダイヤル**
上糸調子を調節します。
(B-33 参照)

■ 右側面・背面



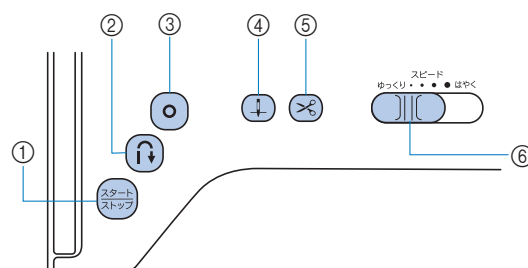
- ① **プーリー**
ぬい目を1針ずつ送ったり、針を上げ下げするときに手前に回します。
- ② **ハンドル**
ミシンの持ち運びに使用します。
- ③ **押えレバー**
押えを上げ下げします。
- ④ **ドロップレバー**
送り歯を下げるのと元に戻すときに使用します。
(S-24 参照)
- ⑤ **電源スイッチ**
ミシンの電源を「入」や「切」にするスイッチです。
- ⑥ **電源コード**
家庭用電源コンセント (AC100V) に接続します。
CPJ13/CPJ16 シリーズの電源コードは、付属品として同梱されています。
- ⑦ **フットコントローラー (別売)**
ミシンを足で操作したいときに使用します。
- ⑧ **換気口**
モーターの換気用の穴です。ミシンを使用しているときはふさがらないでください。
- ⑨ **フットコントローラージャック**
別売のフットコントローラーのプラグを差し込みます。
- ⑩ **押え圧ダイヤル (CPJ16 シリーズのみ)**
押え圧を調節します。

針と押え部分



- ① 針棒糸かけ
上糸をかけます。
- ② 針板
まっすぐにぬうための目盛りがついています。
- ③ 針板カバー
かまの掃除をするときに取り外します。
- ④ 針板ふた／内かま
針板ふたを開けて、中の内かまにボビンをセットします。
- ⑤ 送り歯
ぬう方向に布地を送ります。
- ⑥ 押え
布地を押さえます。ぬい方に合った押えを取り付けてください。
- ⑦ 押えホルダー
ここに押えを取り付けます。
- ⑧ 押えホルダーのネジ
押えホルダーを固定します。（B-25 参照）
- ⑨ ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりをするときに使用します。

操作スイッチ



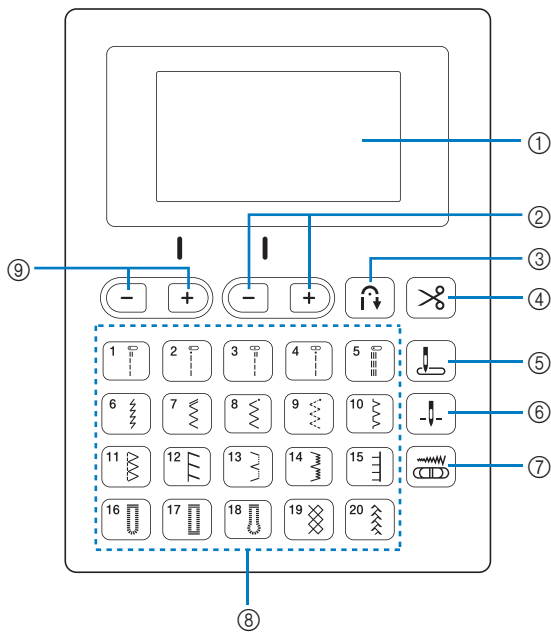
- ① スタート/ストップスイッチ  スタート/ストップ
ミシンをスタートまたは停止します。ぬい始めとスイッチを押している間はゆっくりとぬいます。停止すると、針は下がった（布地に刺さった）状態で止まります。詳細は、B-26の「基本のぬい方」で説明します。
スイッチはミシンの状態によって色が変わります。
緑： スタートできる状態のとき／縫製中
赤： スタートできない状態のとき
橙： 下糸を巻いているとき／下糸巻き軸が右側に入っているとき
- ② 返しぬいスイッチ 
返しぬいを行う直線またはジグザグ模様の場合、このスイッチを押している間だけ低速で返しぬいをします（逆方向にぬいます）。
そのほかの模様では、ぬい始めやぬい終わりの止めぬいをするときに使います。このスイッチを押し続けると、同じ場所で3針重ねてぬって止まります。（B-29 参照）
- ③ 止めぬいスイッチ 
このスイッチを押すと1針ぬいを繰り返した後で、止めぬいします。（B-29 参照）
- ④ 針上下スイッチ 
このスイッチを押すと、針の位置が上下に切り換わります。繰り返し押すと、1針ぬいができます。
- ⑤ 糸切りスイッチ （CPH13/CPJ13/CPJ16シリーズのみ）
ぬい終わった後にこのスイッチを押すと、上糸と下糸を切ります。詳細は、B-26の「模様をぬう」の手順 ⑩ を参照してください。
- ⑥ スピードコントロールレバー
このレバーを左右に動かして、ぬう速さを調節します。

！ 注意



- （CPH13/CPJ13/CPJ16シリーズのみ）
糸を切った後に （糸切りスイッチ）を押さないでください。針が折れたり糸がからんだりするおそれがあります。また、故障の原因になります。

操作パネルと操作キー



- ① **液晶画面**
選択した模様の設定値や、操作を誤ったときのエラーメッセージが表示されます。
詳細は、B-8の「液晶画面」を参照してください。
- ② **ぬい目の長さ調節キー** (− +)
ぬい目の長さを調節するときに押します。
- ③ **自動返しぬい／止めぬいキー** (↺)
自動返しぬい／止めぬいを設定するときに押します。
- ④ **自動糸切りキー** (✂) (CPH13/CPJ13/CPJ16シリーズのみ)
自動糸切りを設定するときに押します。
- ⑤ **基線切り替えキー** (↕)
電源スイッチを入れたときに自動的に選択される模様として、「1直線（左基線）」または「3直線（中基線）」のいずれかを選択します。
- ⑥ **針位置上下キー** (↓↑)
ミシンが停止したときの針位置（下／上）を選択するときに押します。
- ⑦ **振り幅コントロールキー** (C/D)
スピードコントロールレバーをジグザグの振り幅調節レバーに切り替えるときに押します。詳細は、「実用ぬい編」の「振り幅コントロールを使用したサテンぬい」を参照してください。
- ⑧ **模様選択キー**
模様を選択するときに押します。
- ⑨ **振り幅調節キー** (− +)
模様の振り幅を調節するときに押します。

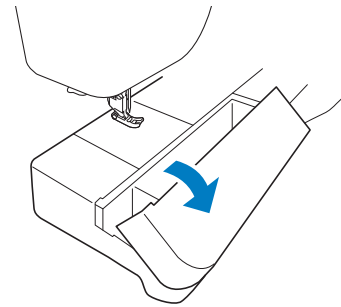


お願い

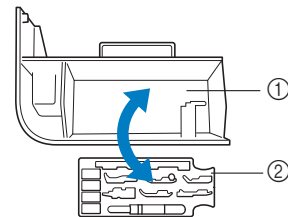
- 操作キーは静電容量式タッチセンサーです。指で直接触れて操作してください。操作する人によって反応が異なりますが、キーを押す強さによって反応が変わるわけではありません。
- 操作キーは操作する人によって反応が異なりますので、感度設定を調節して使用してください。（B-9 参照）
- 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、タッチペンの先が8mm以上のものを使用してください。先の細いタッチペン、特殊な形状のタッチペンは使用しないでください。

補助テーブル

補助テーブルの中に付属品を収納することができます。図のようにふたを開いてください。



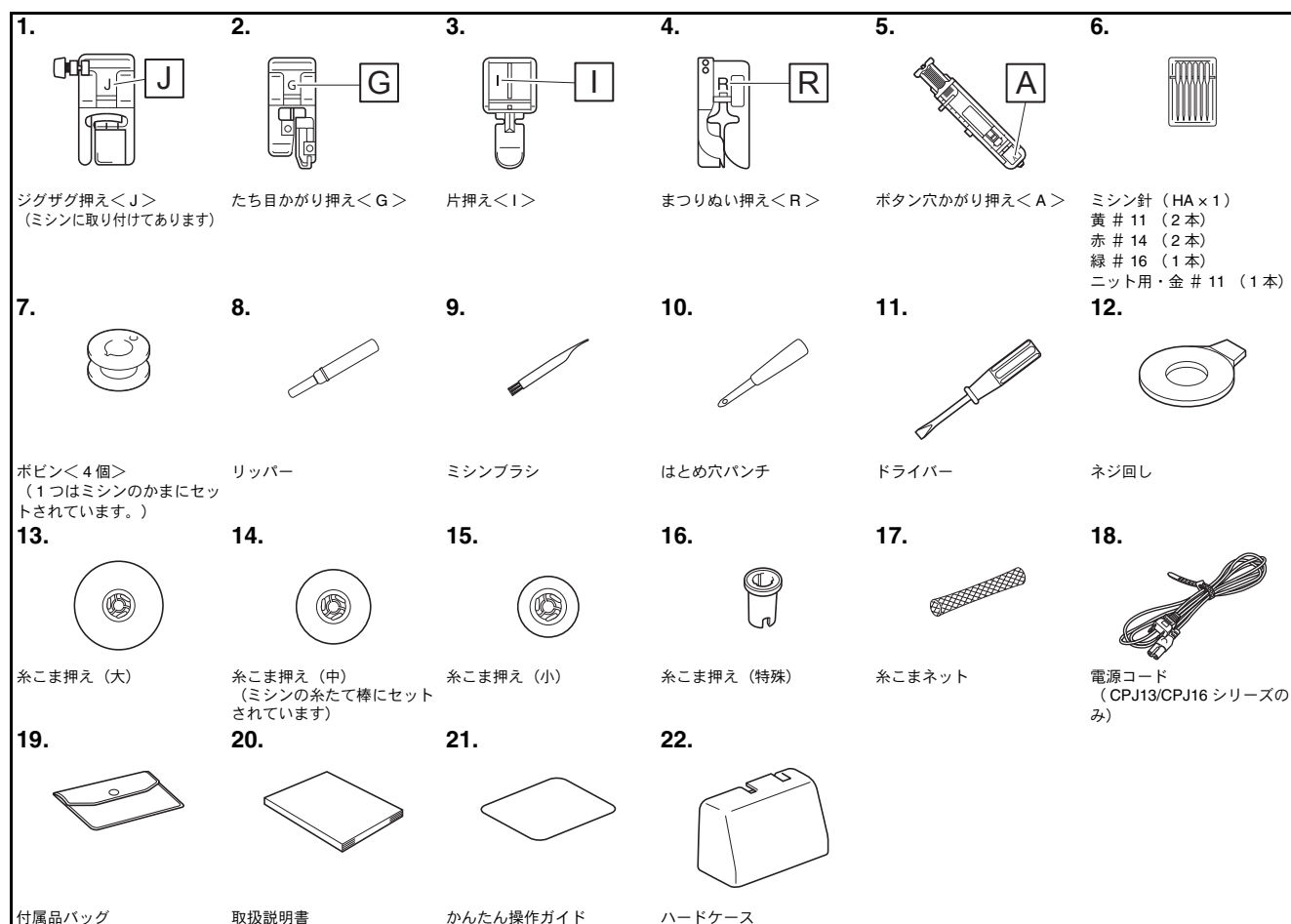
補助テーブルの付属品収納スペースの中には、押え収納トレイが入っています。



- ① 補助テーブルの中の付属品収納スペース
- ② 押え収納トレイ
押え収納トレイは複数のシリーズで共通の部品のため、本製品に付属しない押えのスペースがあります。

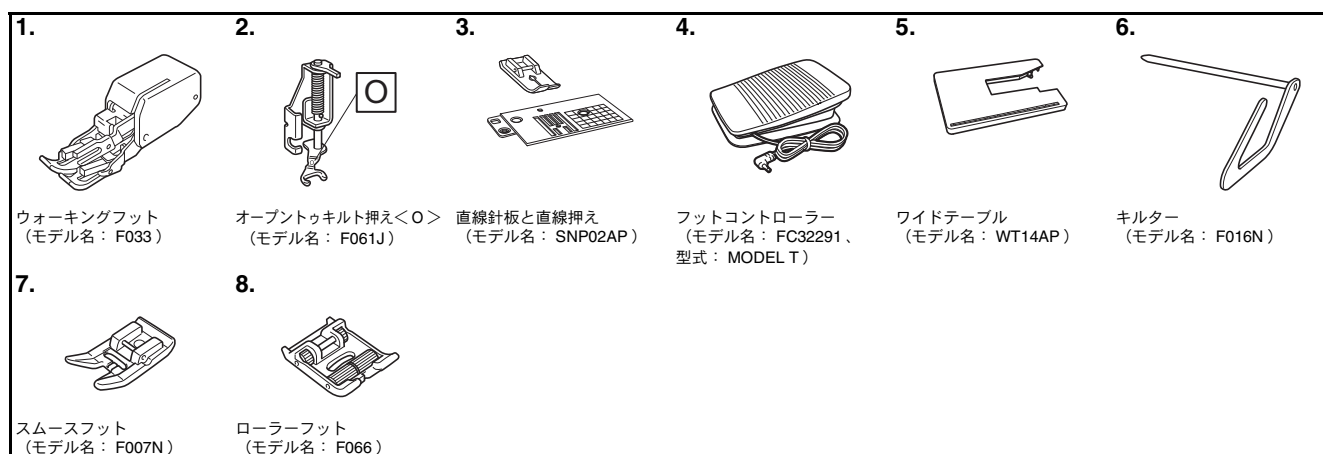
付属品

箱を開けたら、付属品が揃っていることを確認してください。不足しているときや破損しているときは、お買い上げの販売店にお問い合わせください。



別売品

別売品・部品についてはお買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にお問い合わせください。



美しい仕上がりとは快適な縫製のために各種押えを取り揃えております。ブラザーホームページをご覧ください。

電源の入れ方

警告

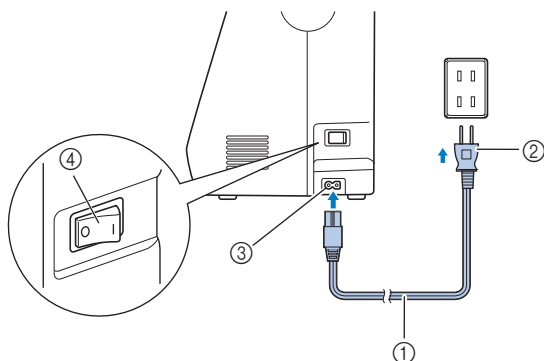
- 一般家庭用電源 **AC100V** の電源以外では、絶対に使用しないでください。火災・感電・故障の原因となります。
- 次のようなときは電源スイッチを切り、電源プラグを抜いてください。火災・感電・故障の原因となります。
 - ミシンのそばを離れるとき
 - ミシンを使用したあと
 - 使用中に停電したとき
 - 接触不良、断線などで正常に動作しないとき
 - 雷が鳴りはじめたとき
- 電源プラグは根元まで確実に差し込んでください。差し込みが不完全ですと、感電や発熱による火災の原因となります。傷んだプラグ・ゆるんだコンセントは使用しないでください。

注意

- 延長コードや分岐コンセントを使用した、たこ足配線はしないでください。火災・感電の原因となります。
- 濡れた手で電源プラグを抜き差ししないでください。感電の原因となります。
- 電源プラグを抜くときはまず電源スイッチを切り、必ずプラグの部分を持って抜いてください。電源コードを引っ張って抜くとコードが傷つき、火災・感電の原因となります。
- 電源コードを傷つけたり、破損したり、加工したり、無理に曲げたり、引っ張ったり、ねじったり、たばねたりしないでください。また、重い物を載せたり、加熱したりすると電源コードが破損し、火災・感電の原因となります。電源コードまたは電源プラグが破損したときはミシンの使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご連絡ください。
- 長期間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となります。

電源を入れる

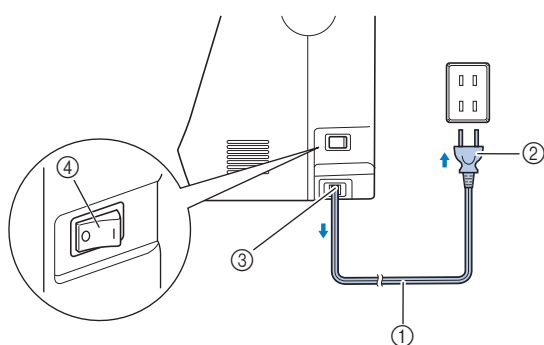
- 1 電源スイッチが「切」になっている（「○」側を押してある）ことを確認します。
- 2 <CPJ13/CPJ16シリーズをお使いの場合>
本体右側の電源ジャックに電源コードを差し込み、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



- ① 電源コード
- ② 電源プラグ
- ③ 電源ジャック
- ④ 電源スイッチ

<CPH03/CPH13シリーズをお使いの場合>

電源コードを引き出し、電源プラグを家庭用電源コンセント（AC100V）に差し込みます。



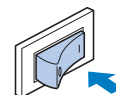
- ① 電源コード
- ② 電源プラグ
- ③ 赤い印
- ④ 電源スイッチ



お願い

- 電源コードは、赤い印以上引き出さないでください。

- 3 ミシン本体右側面の電源スイッチの右側（「I」側）を押して「入」にします。



→ 電源が入り、ライトと液晶画面、スタート/ストップスイッチが点灯します。



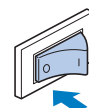
お知らせ

- 電源が入ると針や送り歯が動く音がしますが、故障ではありません。
- 縫製中に電源が切れると、再度電源を入れなおしても、ミシンは縫製の中断点を記憶していません。もう一度初めから縫製の手順を行ってください。

電源を切る

ミシンを使い終わったら、電源を切ります。また、ミシンを移動するときは、必ず電源を切ってから移動してください。

- 1 ミシンが動いていないことを確認します。
- 2 ミシン本体右側面の電源スイッチの左側（「○」側）を押して「切」にします。

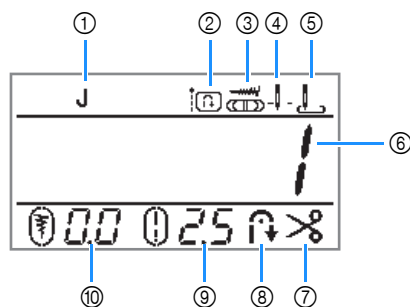


- 3 電源プラグをコンセントから抜きます。
電源プラグを持って抜いてください。
- 4 電源コードを少し引っ張って手を離し、収納します。（CPH03/CPH13シリーズのみ）

液晶画面

液晶画面の見方

電源を入れると、液晶画面が点灯し、以下のような画面が表示されます。
表示されている内容を変更するには、画面の下にある操作キーを使います。

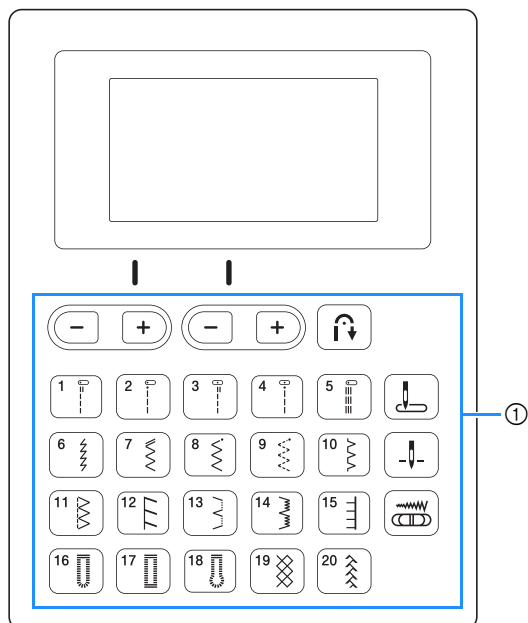


No.	表示	名称	はたらき	参照ページ
①	J	押え表示	選択中の模様に対し、使用する押えを表示します。 * 片押え<I>やキルト押えなど、液晶画面に表示されない押えもあります。	B-24
②	□	止めぬい優先表示	止めぬい優先が「ON」に設定されているかを表示します。	B-30
③	⌋	振振幅コントロール表示	スピードコントロールレバーがジグザグの振振幅調節レバーに切り替わっているかを表示します。	S-25
④	↓	針位置設定表示	針位置が上下どちらに設定されているかを表示します。 ↓ : 針位置下 ↑ : 針位置上	B-4
⑤	↓	基線切替え表示	電源スイッチを入れたときに自動的に選択される模様として、「1 直線（左基線）」または「3 直線（中基線）」のどちらが設定されているかを表示します。 ↓ : 直線（左基線） ↓ : 直線（中基線）	B-4
⑥	-	模様番号表示	選択中の模様番号を表示します。	B-34
⑦*	✂	自動糸切り表示	縫製後、上糸と下糸の両方を自動で糸切りする設定になっている場合、表示されます。	B-31
⑧	↺	自動返しぬい／止めぬい表示	自動返しぬい／止めぬいが設定されている場合、表示されます。	B-29
⑨	0 2.5	ぬい目の長さ設定表示	選択中の模様設定されているぬい目の長さを表示します。	B-32
⑩	00	振振幅設定表示	選択中の模様設定されている振振幅を表示します。	B-32

* 自動糸切り表示は、CPH13/CPJ13/CPJ16シリーズのみ対応しています。

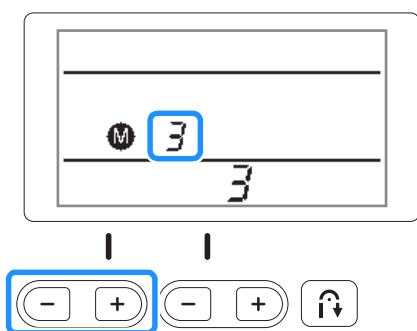
操作キーの感度を調節する

操作キーの感度は、5段階から選択することができます。設定画面で、使いやすい感度を選択してください。



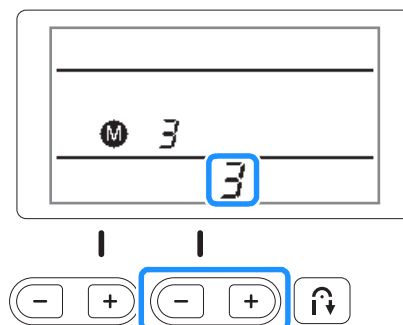
① 操作キー

- 1 電源を切ります。
- 2 (止めぬいスイッチ) を押しながらミシンの電源を入れます。
- 3 $\ominus$ $\oplus$ を押して、「M 3」を選択します。



- 4 $\ominus$ $\oplus$ を押して、感度を調節します。

- 数値が低いほど感度は低くなり、数値が高いほど感度は高くなります。初期設定値は、3です。



お願い

- 市販の静電容量式に対応したタッチペンを使用する場合は、感度を最高に設定することをお勧めします。

- 5 $\ominus$ $\oplus$ 以外の操作キーを押すことで、キーの感度を確認できます。キーが反応すると、「ON」が点滅します。

- 6 電源を切って、もう一度電源を入れなおします。



お願い

- 電源を切る前に、 $\ominus$ $\oplus$ 以外の操作キーを押してください。そのまま電源を切ると設定が保存されません。

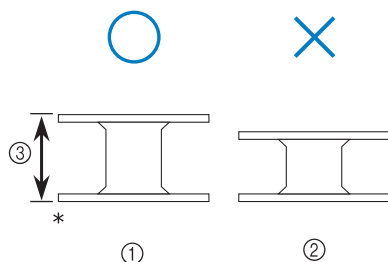
■ 操作キーを押してもミシンが動かないときは

いったん電源を切り、 $\updownarrow$ (針上下スイッチ) を押しながらミシンの電源を入れてください。キーの感度の設定がリセットされます。その後、再度電源を切り、もう一度感度の調節をしてください。

下糸の準備

⚠ 注意

- 付属のボピンは本機純正品です。純正ボピン（モデル名：B051）をご使用ください。純正品以外の部品使用による故障は、保証期間中でも有償修理となります。
※ 純正品以外のものすべてが必ず不具合を起こすわけではありません。



* プラスチック製

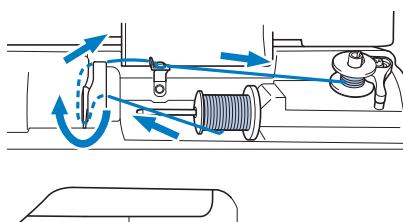
- ① 純正品
- ② 厚みの違うボピン
- ③ 11.5mm

📖 お知らせ

- 別売のフットコントローラーが接続されている場合は、下糸巻きのスタートとストップはフットコントローラーで操作します。フットコントローラーの使い方については、B-28の「フットコントローラー（別売）を使う」を参照してください。

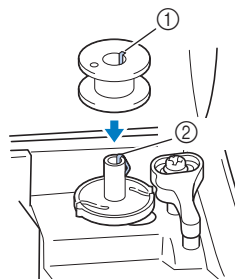
下糸を巻く

下糸用の糸をボピンに巻きます。



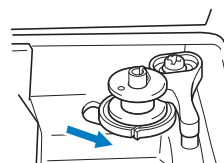
1 上ふたを開けます。

2 ボピンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置に合わせて、ボピンを下糸巻き軸にカチッとはまるまで差し込みます。

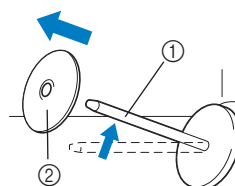


- ① ミゾ
- ② 下糸巻き軸のバネ

3 ボピンを右側へカチッと音がするまで押します。

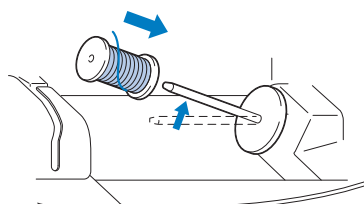


4 糸たて棒を起し、糸たて棒から糸こま押えを抜きます。



- ① 糸たて棒
- ② 糸こま押え

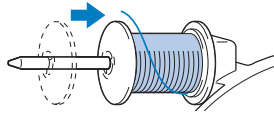
5 下糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。
糸が手前から出るように差し込みます。



- 糸こまを正しい向きにセットしないと、糸が糸たて棒にからまるおそれがあります。

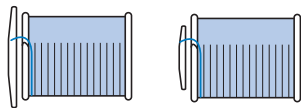
6 糸こま押えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの平行の位置に戻します。

糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。



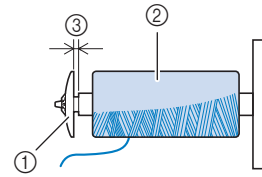
⚠ 注意

- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、故障の原因となります。
- 糸こま押え（大）（中）（小）は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。また、使用する糸こまによっては、糸こま押え（特殊）を使用します。糸こま押え（特殊）についての詳細は、B-11の「お知らせ」を参照してください。



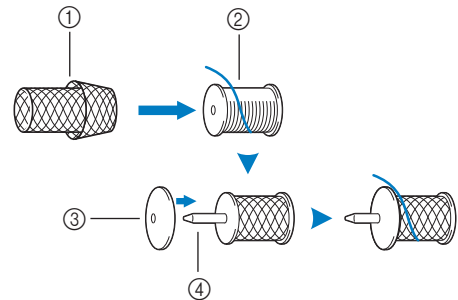
📖 お知らせ

- 下図のような糸こまを使用するときは、糸こま押え（小）を使用し、糸こま押えと糸こまとの間に少しすきまを残してください。



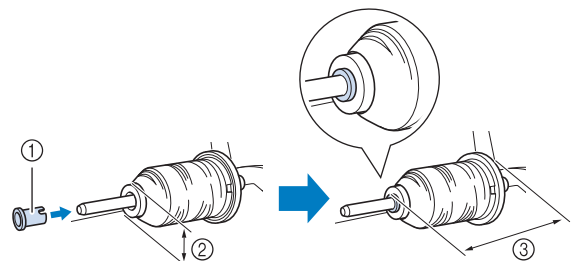
- ① 糸こま押え（小）
- ② 糸こま
- ③ すきま

- ナイロン透明糸やメタリック糸などの張りが強い糸を使用する場合は、付属の糸こまネットを糸こまに付けてから糸たて棒にセットしてください。ネットが長い場合は、糸こまの大きさに合わせて折って使用します。



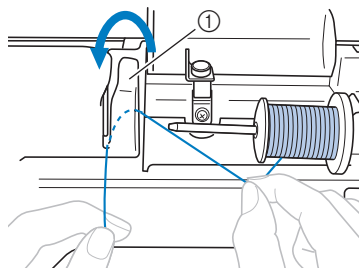
- ① 糸こまネット
- ② 糸こま
- ③ 糸こま押え
- ④ 糸たて棒

- 高さ 75mm、芯の直径が 12mm の糸こまを使用する場合は、付属の糸こま押え（特殊）を使用してください。



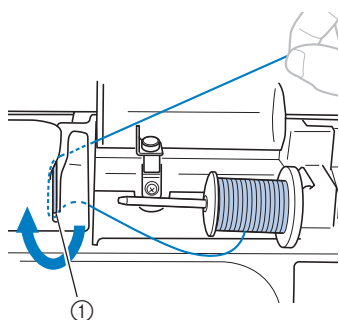
- ① 糸こま押え（特殊）
- ② 12mm
- ③ 75mm

- 7** 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



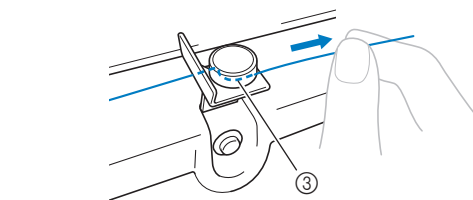
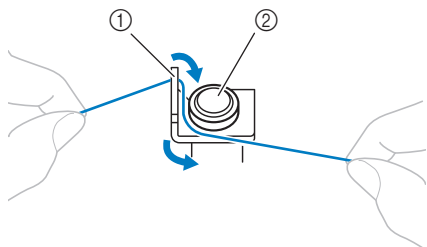
① 糸案内カバー

- 8** 糸案内板の下から上へ糸をかけます。



① 糸案内板

- 9** 下糸巻き案内の凸部の下から糸をかけて、皿の下に通します。



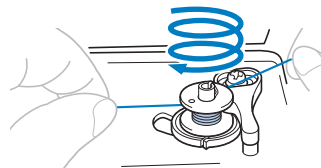
- ① 下糸巻き案内
② 皿
③ しっかり奥まで入れるようにひっぱります。



お願い

- 糸が皿の下を確実に通っていることを確認してください。

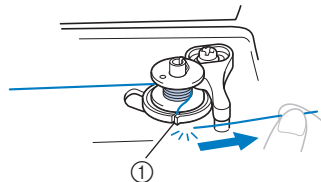
- 10** 糸を時計回りに 5 ～ 6 回ボビンに巻きつけます。引き出した糸がたるまないように左手で糸を持ち、右手で糸端をボビンに巻きつけます。



お願い

- 糸は、必ずピンと張った状態にしてください。
- 糸は、必ず時計回りに巻いてください。逆方向に巻くと、下糸巻き軸に糸が巻きつくことがあります。

- 11** 糸端をボビン受け座のガイドミゾに引っかけて右へ引き、カッターで糸を切ります。



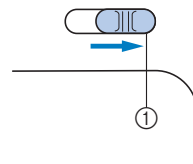
① ガイドミゾ (カッター付)

⚠ 注意



- 必ずガイドミゾのカッターで糸を切ってください。正しく糸を切らずに下糸を巻くと、糸量が少なくなったときにボビンに糸がからまり、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 12** スピードコントロールレバーを右側 (はやく) へ動かします。



① スピードコントロールレバー

- 13** 電源を入れます。

- 14 スタート/ストップスイッチを1回押して、下糸巻きをスタートします。
別売のフットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーを踏み込みます。

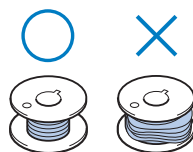


① スタート/ストップスイッチ



お願い

- ナイロン透明糸をボビンに巻くときは、1/2 ~ 2/3 程度巻いたところで止めてください。ナイロン透明糸をボビンいっぱいまで巻くと、巻きくずれや縫製不良の原因となります。また、ボビンに圧力がかかり、ボビンが下糸巻き軸から抜けなくなったりボビンが破損したりする原因となります。



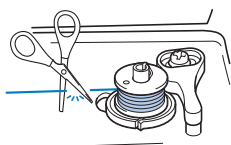
- 15 ボビンの回転がゆっくりになったら、スタート/ストップスイッチを1回押して、下糸巻きをストップします。
フットコントローラーを接続している場合は、フットコントローラーから足を離します。



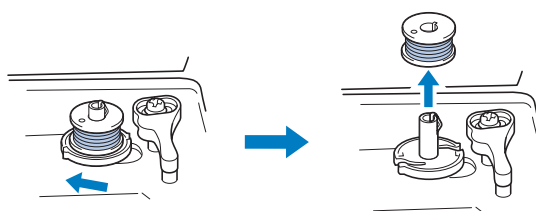
⚠ 注意

- ボビンの回転がゆっくりになったら、必ず下糸巻きをストップさせてください。無理に続けると故障の原因となります。

- 16 巻き終わりの糸をはさみで切ります。



- 17 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビンを抜きます。



お知らせ

- ボビンが右側になっている状態では、針が動かず、縫製できません。

- 18 スピードコントローラーをもとの位置に戻します。

- 19 糸こまを糸たて棒から外します。



お知らせ

- 下糸を巻いた後にミシンをスタートさせたりプーリーを回したりすると、ガチャッという音がすることがありますが、故障ではありません。

下糸をセットする

下糸を巻いたボビンをかまにセットします。

ボビンをかまに入れ、針板カバーのミゾにそって糸を通してセットするだけで、すぐにぬい始めることができます（下糸を引き出す必要はありません）。



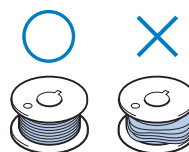
お知らせ

- ギャザーなどをぬうとき、フリーモーションキルトをするときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。詳細は、B-20の「下糸を引き出す」を参照してください。



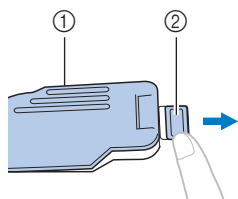
⚠ 注意

- 必ず正しく巻かれた下糸を使用してください。巻き方が悪い下糸を使用すると、針折れや糸調子不良の原因となります。



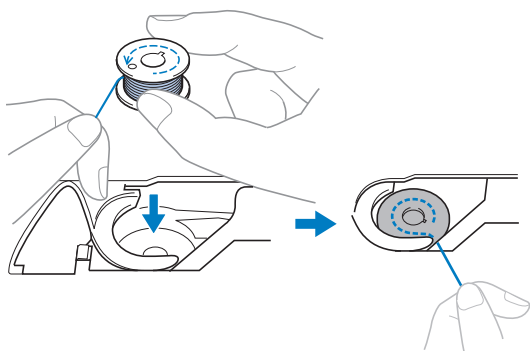
- 下糸をセットするときや交換するときには、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

- 1 ④（針上下スイッチ）を1回または2回押して、針を上げます。
- 2 電源を切ります。
- 3 押えレバーを上げます。
- 4 針板ふたの横のつまみを右側へスライドさせます。

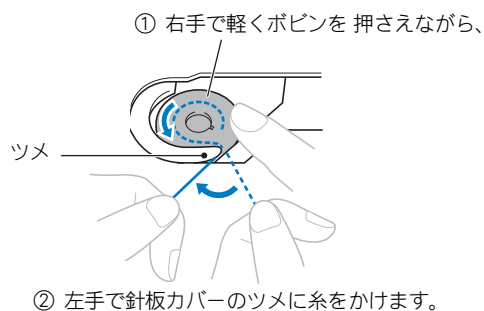


- ① 針板ふた
② つまみ

- 5 針板ふたを取り外します。
- 6 糸が左巻きになるように右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま、右手でボビンをかまに入れます。



- 7 右手でボビンを軽く押さえながら ①、左手で巻き終わりの糸を針板カバーのツメにかけます ②。

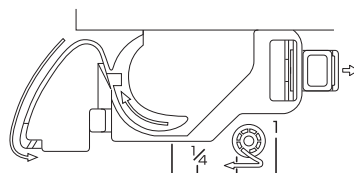


！ 注意

- ボビンは必ず指で押さえ、正しい方向から糸が出るようにセットしてください。万一、ボビンを逆の方向にセットすると、針折れや糸調子不良の原因となります。

！ お知らせ

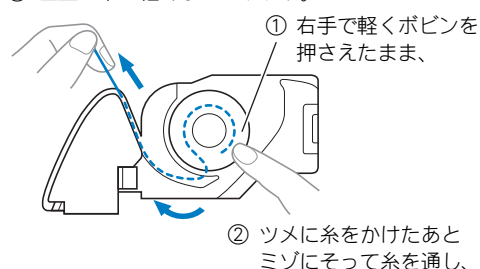
- ボビンのセットのしかたは、針板カバーにも表示されています。必ず、表示されているとおりに糸を通してください。



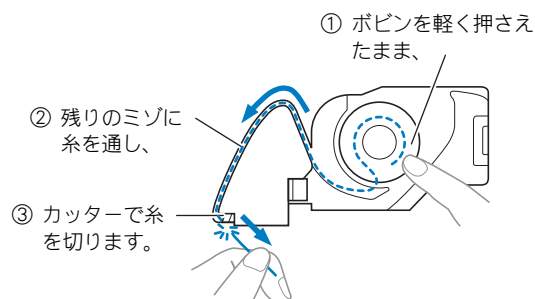
- 8 右手でボビンを軽く押さえたまま ①、ツメにかけた糸を針板カバーのミゾにそって通し ②、左上で糸を軽くひっぱりまます ③。

- 内かまの板バネに糸が入ります。

- ③ 左上で糸を軽くひっぱりまます。



- 9 右手でボビンを軽く押さえたまま ①、左手で残りのミゾに糸を通します ②。最後に手前に引いてカッターで糸を切りまます ③。

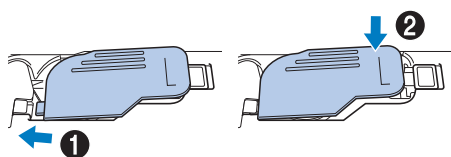


💡 お願い

- 必ずこの手順に従って正しく下糸をセットしてください。針板カバーのミゾに糸をはめこむだけでは、下糸が正しくセットできず、縫製不良・糸調子不良の原因となります。

10 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの突起部を針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



→ 下系のセットが完了します。

次に、上系を通します。引き続き B-16 の「上系通し」をご覧ください。



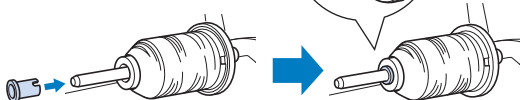
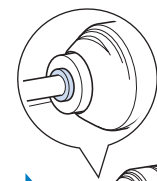
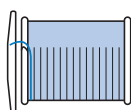
お知らせ

- 下糸は引き出さずにぬい始めることができます。下糸を引き出してからぬう場合は、B-20 の「下糸を引き出す」を参照してください。

上糸通し

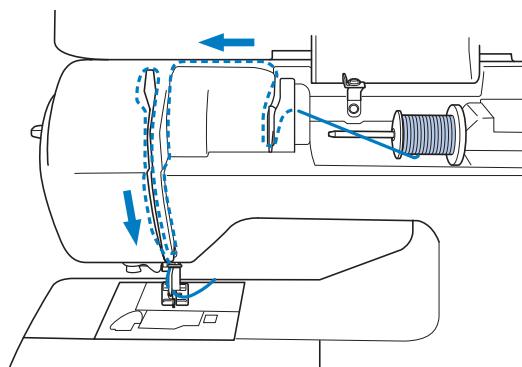
！ 注意

- 糸こま押え（大）（中）（小）は糸こまの大きさに合わせて使用してください。糸こまより小さい糸こま押えを使用すると、糸こまの切り欠きなどに糸が引っかかり、故障の原因となります。また、使用する糸こまによっては、糸こま押え（特殊）を使用します。適切な糸こま押えの選び方については、B-11 を参照してください。



- 上糸は、手順に従って正しく通してください。上糸を正しく通していない場合、糸がからんで針が折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
- 針と糸は、B-21 の「布地と糸の種類による針の種類と使い分け」を参照して、適切な組み合わせでお使いください。

上糸を通す



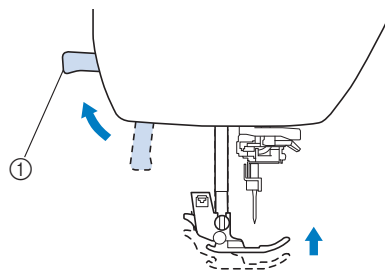
→ 上糸は、手順に従って正しく通してください。

1

電源を入れます。

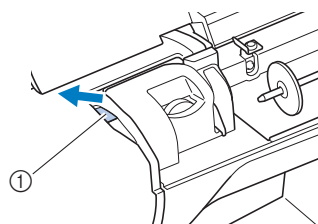
2

押えレバーで押えを上げます。



① 押えレバー

→ シャッターが開いて、糸通しできるようになります。



① シャッター

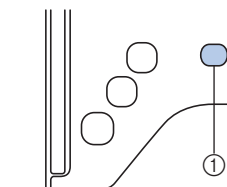


お知らせ

- 押えが下がった状態で上糸を通すことはできません。

3

①（針上下スイッチ）を 1 回または 2 回押して、針を上げます。

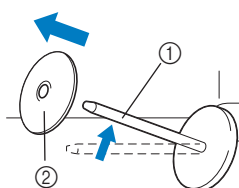


① 針上下スイッチ

4

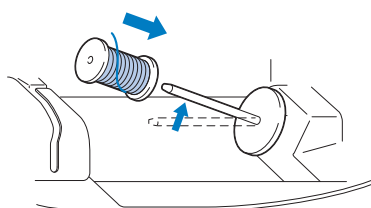
電源を切ります。

- 5 糸たて棒を起し、糸たて棒から糸こま押えを抜きます。



- ① 糸たて棒
② 糸こま押え

- 6 上糸用の糸こまを糸たて棒に差し込みます。
糸が手前から出るように差し込みます。

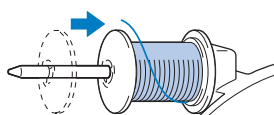


注意

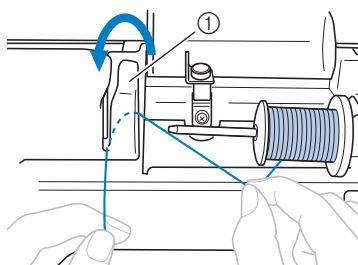
- 糸こまや糸こま押えが正しくセットされていないと、糸たて棒に糸がからまり、糸切れや針折れの原因となります。

- 7 糸こま押えを糸たて棒に差し込み、糸たて棒をもとの平行の位置に戻します。

糸こま押えの丸みをおびている面を外側にして、奥までしっかりと差し込みます。

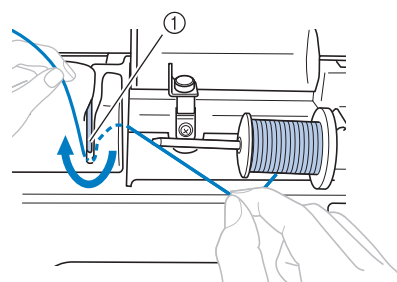


- 8 糸を糸案内カバーの奥から手前へかけます。
引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



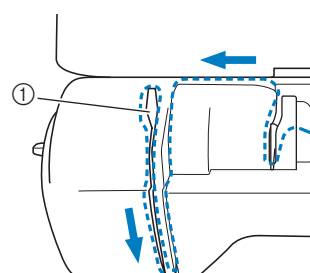
- ① 糸案内カバー

- 9 引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、糸案内板の下から上へ糸をかけます。



- ① 糸案内板

- 10 矢印のように、ミゾに沿って糸を通します。

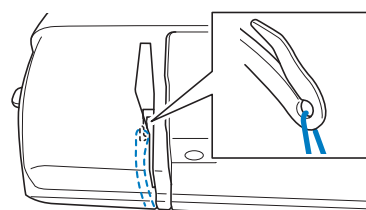


- ① シャッター



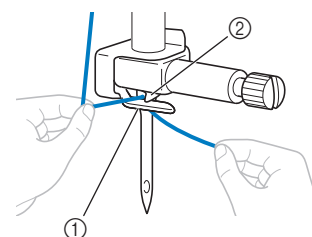
お願い

- 押えを上げるとシャッターが開きます。上糸を通すときや通した上糸を外すときは、必ず押えを上げてください。
- このミシンには、てんびんの位置を確認する窓があります。てんびん確認窓から、糸が確実にてんびんに通っていることを確認してください。



- 11 針棒系かけに糸をかけます。

左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけます。
糸が針棒系かけの突起の内側に入っていることを確認してください。



- ① 針棒系かけ
② 突起

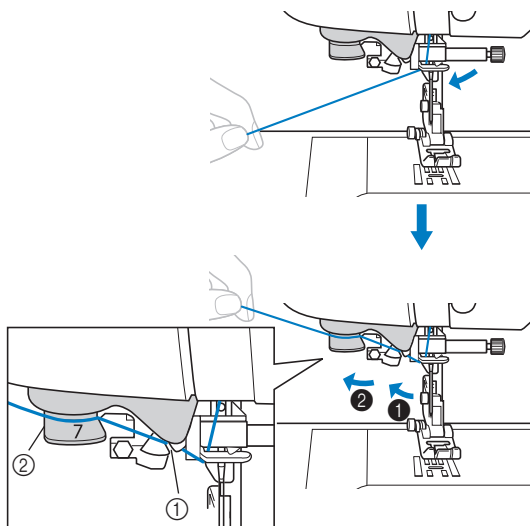
針に糸を通す

お知らせ

- 糸通し装置は、11～16番のミシン針のみに使用できます。
- ウイングニードルを取り付けているときは、糸通し装置は使用できません。
- ナイロン透明糸や特殊な糸を使用するときは、糸通し装置は使用できません。
- 糸通し装置が使用できない場合は、B-19の「手で針に糸を通すとき」を参照してください。

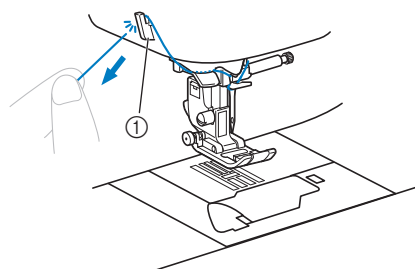
1 糸を左へ引いて、糸ガイドのミゾに通し（①）、糸案内皿（7のしるし）に糸をかけます（②）。

- 糸が糸ガイドのミゾを確実に通っていることを確認してください。



- ① 糸ガイドのミゾ
② 糸案内皿

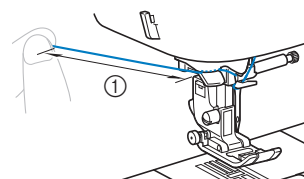
2 ミシン本体左側面の糸切りで糸を切ります。



① 糸切り

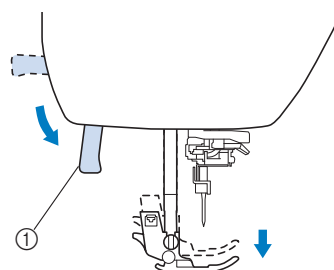
お願い

- 糸切りで糸がうまく切れないときは、押えを下げてから切ってください。糸が固定されて切りやすくなります。糸を切った後は④に進んでください。
- メタリック糸など、糸こまからほどけやすい糸を使用する場合、糸切りで糸を切ると糸通しができないことがあります。このようなときは、糸案内皿（7のしるし）に糸をかけた後、糸切りを使用せずに、糸を8cm以上引き出してください。



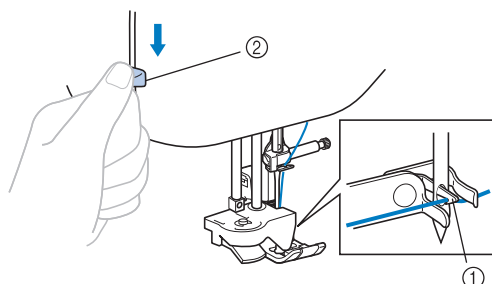
① 8cm 以上

3 押えレバーで押えを下げます。



① 押えレバー

- 4 ミシン本体左側面の糸通しレバーをカチャッと音がするまで下げ、ゆっくりともとへ戻します。



- ① フック
② 糸通しレバー

→ フックが回転し、針穴に糸が通ります。

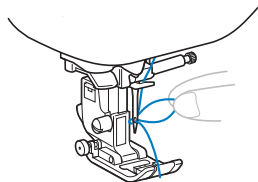


お願い

- 針が一番上の位置にないと、糸通し装置が正常に作動しません。一番上の位置にないときは、プーリーを手前に回し、一番上まで上げてください。針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが上になります。B-16の「上糸を通す」の手順③を参照してください。

- 5 針穴を通った糸をゆっくり引っ張ります。

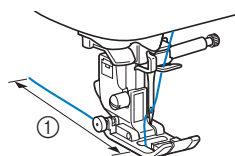
針穴を通った糸が輪になった場合は、輪をゆっくり引っ張り、針穴から糸を引き出します。



⚠ 注意

- 糸の輪を針穴から引き出すときは、ゆっくり引き出してください。強く引くと、針折れの原因となります。

- 6 押えを上げ、上糸を押えの穴から押えの下に通して、後ろ側へ5cmほど引き出します。



① 5cm

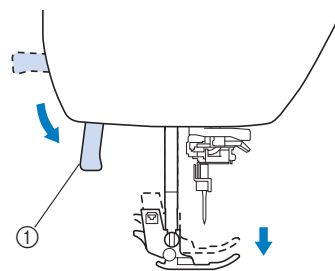
手で針に糸を通すとき

糸通し装置が使用できないナイロン透明糸や特殊な糸、ウィングニードルなどを使用するときは、次の手順で針に糸を通します。

- 1 針棒糸かけまで上糸を通します。

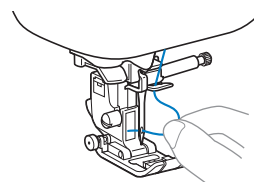
- 詳細は、B-16の「上糸を通す」を参照してください。

- 2 押えレバーで押えを下げます。



① 押えレバー

- 3 手で糸を持ち、針穴の手前から後ろへ糸を通します。



⚠ 注意

- 手で糸を針に通すときは、必ず電源スイッチを切ってから行ってください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがの原因となります。

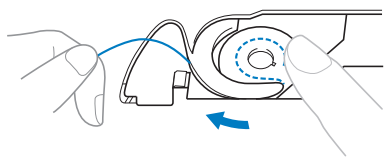
- 4 押えを上げ、上糸を押えの穴から押えの下に通して、後ろ側へ5cmほど引き出します。

下糸を引き出す

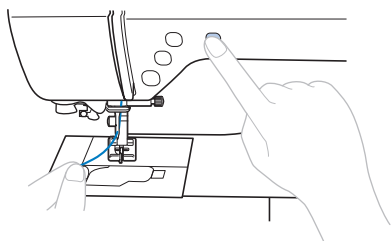
糸を引いてギャザーを寄せたいとき、フリーモーションキルトなどぬい始めの糸の始末をしたいときは、あらかじめ下糸を引き出しておきます。

- ① B-16の「上糸を通す」を参照して、針に糸を通します。
- ② B-13の「下糸をセットする」の④～⑥を参照して、ボビンをかまに入れます。
- ③ 引き出した糸をミゾに沿って途中まで通します。

カッターで糸を切らないでください。

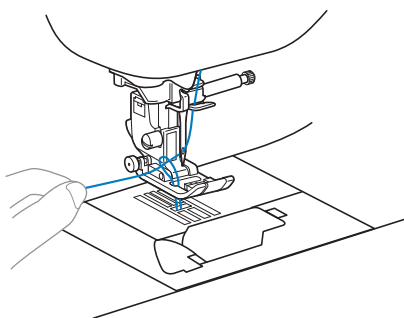


- ④ 左手で上糸の端を軽く持ち、⓪（針上下スイッチ）を2回押して、針を上げます。

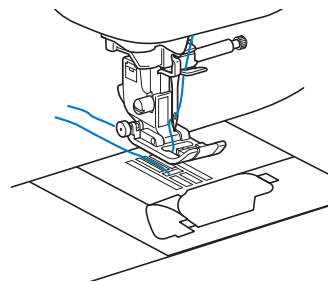


→ 下糸が針板から輪になって引き出されます。

- ⑤ 上糸をゆっくりと上へ引き、下糸の糸端を引き出します。

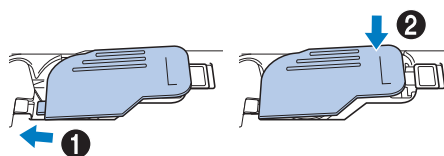


- ⑥ 上糸を押えの穴から押えの下に通して、下糸とそろえて押えの下から後ろ側へ10cmほど引き出します。



- ⑦ 針板ふたをもとに戻します。

針板ふたの突起部を針板カバーに差し込んでから、針板ふたの右側を上から押して取り付けます。



針の交換

針の取り扱いには十分注意してください。針が折れ、破片が散らばるなど、非常に危険です。以下の注意をよく読んで、必ず守ってください。



⚠ 注意

- 針は必ず家庭用ミシン針（「HAx1」と型番の先頭についている針）を使用してください。そのほかの針を使用すると、針が曲がったり、折れてけがをするおそれがあります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。けがをするおそれがあります。

布地と糸の種類による針の種類と使い分け

- このミシンで利用できる針：家庭用ミシン針（HAx1 シリーズの太さ 9 ～ 16 番） 例） HAx1、HAx1SP 等
- このミシンで利用できる糸：30 ～ 90 番
* 20 番以下の太い糸は使用しないでください。故障の原因となります。
- 布地により、ミシン針や糸を使い分けます。次の表を参考にして、布地に適した糸と針を選んでください。
 - 表は目安です。必ず試しぬいをしてください。使用する布地を、実際にぬう枚数分重ねてぬってください。
 - ミシン針は消耗品です。美しい仕上がりと安全のために、折れる前の早めの針交換をおすすめします。針交換の目安は B-22 の「正しい針の見分け方」を参照してください。

* 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。
* 薄い布地をぬうときはぬい目を細かく、厚い布地をぬうときは粗くします。（B-32 参照）

* 基本として、薄い布地には細い針と細い糸、厚い布地には太い針と太い糸を使用します。 * 薄い布地をぬうときはぬい目を細かく、厚い布地をぬうときは粗くします。（B-32 参照）		数字が小さいほど太い糸です。  細い←90～60～30→太い	数字が大きいほど太い針です。  細い←9～11～14～16→太い	布地に適した模様を選び、ぬい目の長さを調節してください。	
布地の特徴・種類		ミシン糸		針の太さ	ぬい目の長さ [mm]
		種類	太さ		
薄地	ローン、ジョーゼット、ポーラ、オーガンジー、シフォン、ボイル、ガーゼ、チュール、綿サテン、裏地 など	ポリエステル系	60～90	9～11	細かいぬい目 (1.8～2.5)
		綿系、絹系	50～80		
普通地	ブロード、タフタ、ギャバジン、フラノ、サッカー、ダブルガーゼ、リネン（麻布）、ちりめん、タオル地、ワッフル、シーチング、ポプリン、シャンプレー、ダンガリー、サテン、サージ など	ポリエステル系	60～90	11～14	普通のぬい目 (2.0～3.0)
		綿系、絹系	50～60		
厚地	デニム（12オンス以上）、帆布 など	ポリエステル系、綿系	30	16	粗いぬい目 (2.5～4.0)
	デニム（12オンス以上）、帆布、ツイード、コーデュロイ、ペロア、キルティング、メルトン、モッサ、ビニールコーティング地 など	ポリエステル系	60	14～16	
		綿系、絹系	30～50		
のびる布地 （ニット素材など）	ジャージー、トリコット、Tシャツ地、フリース、スムース など	ニット用糸	50	ニット用針（金） 11～14	布地の厚みに応じて設定 * 伸びる布地に適した模様の選択をおすすめします。 （「実用ぬい編」の「伸びる布地をぬう」参照）
ステッチをかける場合 * 20番以下の太い糸（ステッチ糸）を使用しないでください。 糸通し装置の故障や、針折れの原因となります。		ポリエステル系	30	14～16	布地の厚みに応じて設定
			50～60	11～14	

■ ナイロン透明糸

布地や糸にかかわらず 14 ～ 16 番の針を使用します。

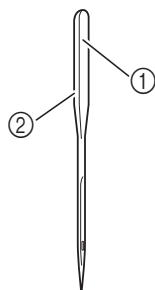
⚠ 注意



- 布地と糸と針の組み合わせは、上記に従ってください。組み合わせが適切でない場合、ぬい目がふぞろいになり、ぬいじわや目とびの原因になります。特に、厚い布地（デニムなど）を細い針（9 ～ 11 番）でぬうと、針が折れたり、曲がったりするおそれがあります。

正しい針の見分け方

曲がった針は、使用中に折れるおそれがあり大変危険です。使用する前に、針の平らな面を平らな板などに合わせて確認し、すき間が平行にならない針は使用しないでください。



- ① 平らな面
- ② 針の種類の刻印

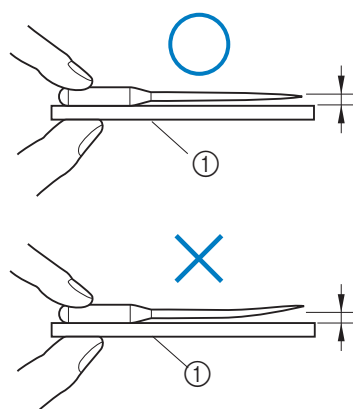


お願い

- 以下の①～④を目安に、針を交換してください。
- ① 低速で試しぬいをして、針が生地に刺さる際に通常と異なる音（パツパツやバスッパスなど）が出るとき（針先がつぶれている可能性があります。）
- ② ぬい目が目飛びしてしまうとき（針が曲がっている可能性があります。）
- ③ 洋服などを1作品ぬい終えたとき
- ④ ポビン3個分の下糸を使いきったとき

⚠ 注意

- 針と平らな板のすき間が平行でない場合は、針が曲がっています。曲がった針は使用しないでください。



① 平らな板

針の交換

「正しい針の見分け方」で確認した正しい針と、付属のドライバーを用意します。

- 1 ④（針上下スイッチ）を1回または2回押して、針を上げます。

- 2 電源を切ります。

⚠ 注意



- 針は、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

- 3 押えの下に布または紙を置いて、針板の穴をふさぎます。



お願い

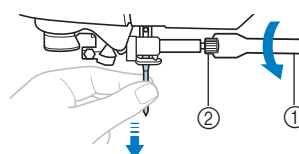
- 針を交換する前に、押えの下に布や紙を置いて、針が針板の穴から下へ落ちないようにしてください。

- 4 押えを下げます。

- 5 付属のドライバーで針のとめネジをゆるめ、針を抜きます。

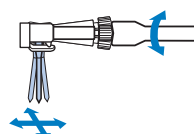
左手で針を持ち、右手でドライバーを手前（時計と反対回り）に回します。

- 針のとめネジは、ネジ回しでも回すことができます。

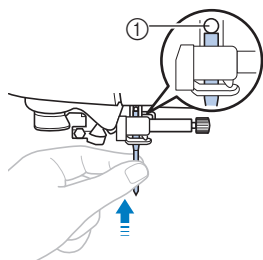


- ① ドライバー
- ② 針のとめネジ

- とめネジをしめたりゆるめたりするときに、無理に力を加えないでください。故障の原因となります。

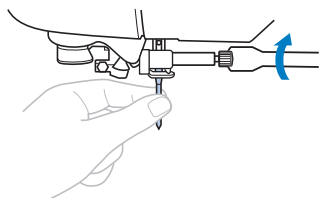


- 6 平らな面が後ろ側になるように、新しい針を針棒に差し込みます。
針が針棒のストッパーに当たるまで差し込みます。



① 針棒のストッパー

- 7 針のとめネジをしめます。
左手で針を支え、右手でドライバーを奥側（時計回り）に回します。



⚠ 注意



- 針は必ずストッパーに当たるまで差し込み、付属のドライバーでとめネジを確実にしめてください。針が正しく取り付けられていないと、針折れや故障の原因となります。

押えの交換

⚠ 注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 押えは純正品を使用してください。純正品以外の部品使用による故障は、保証期間中でも有償修理となります。
※ 純正品以外のものすべてが必ず不具合を起こすわけではありません。

押えを交換する

① (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。

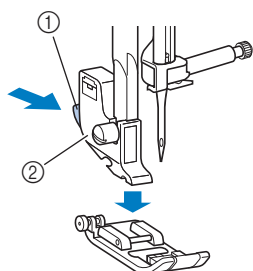
② 電源を切ります。

⚠ 注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは、他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

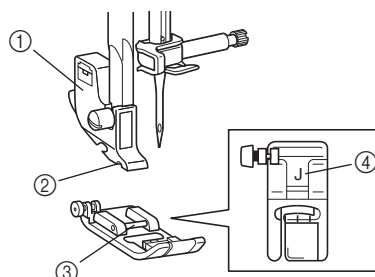
③ 押えレバーを上げます。

④ 押えホルダーの後ろ側の黒いボタンを押します。



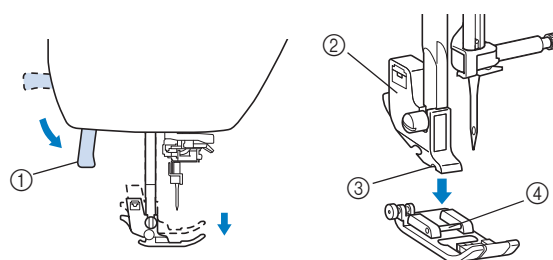
- ① 黒いボタン
- ② 押えホルダー

⑤ 取り付ける押えのピンと押えホルダーのミゾが合う位置に押えを置きます。



- ① 押えホルダー
- ② ミゾ
- ③ ピン
- ④ 押え記号

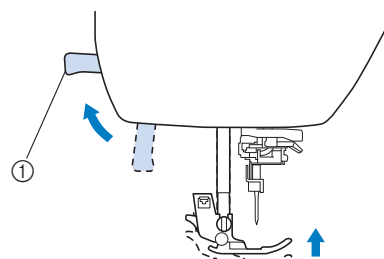
⑥ 押えレバーをゆっくり下げて、押えホルダーのミゾを押えのピンにはめます。



- ① 押えレバー
- ② 押えホルダー
- ③ ミゾ
- ④ ピン

→ 押えが押えホルダーに取り付けられます。

⑦ 押えレバーを上げて、押えが確実に取り付けられていることを確認します。

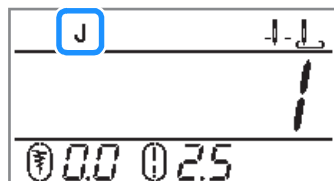


- ① 押えレバー



お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。他の押えが取り付けられている場合は、一旦ミシンの電源を切り、正しい押えを取り付けてから電源を入れ、ぬいたい模様をもう一度選択してください。



J	ジグザグ押え< J >
G	たち目かがり押え< G >
A	ボタン穴かがり押え< A >
R	まつりぬい押え< R >

- 各模様で使用する押えについては、B-34の「ぬい方早見表」を参照してください。

押えホルダーを取り外す／取り付ける

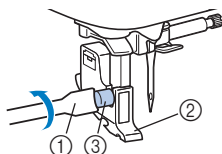
お手入れをするとき、また、別売のウォーキングフットなど、押えホルダーを使わない押えを使用するときは、押えホルダーを取り外します。付属のドライバーを用意します。

■ 押えホルダーを取り外すとき

- 電源を切ります。
- 押えを取り外します。
 - 詳細は、B-24の「押えを交換する」を参照してください。
- 押えホルダーのネジをゆるめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを奥側（時計と反対回り）に回します。

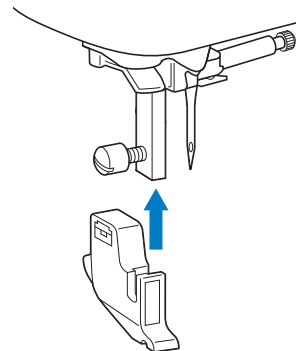
 - 押えホルダーのネジは、ネジ回しでも回すことができます。



- ① ドライバー
② 押えホルダー
③ 押えホルダーのネジ

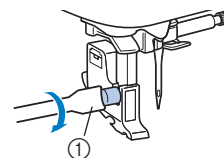
■ 押えホルダーを取り付けるとき

- 電源を切ります。
- 押えレバーを上げます。
- 押えホルダーを押え棒に合わせます。



- 押えホルダーのネジをしめます。

右手で押えホルダーを支え、左手でドライバーを手前（時計回り）に回します。



① ドライバー

⚠ 注意

- 押えホルダーのネジは、確実にしめてください。しめ方がゆるいと、押えホルダーが落ちて針に当たり、針が曲がったり折れたりするおそれがあります。

📖 お知らせ

- 押えホルダーが正しく取り付けられていないと、正しい糸調子にならないことがあります。

第2章 基本のぬい方

ぬってみましょう



⚠ 注意

- ミシン操作中は、針の動きに十分注意してください。また、針やプーリーなど、動いているすべての部品に手を近づけないでください。けがの原因となります。
- 縫製中は、布地を無理に引っ張ったり押したりしないでください。けがや針折れの原因となります。
- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因となります。
- 縫製中は、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

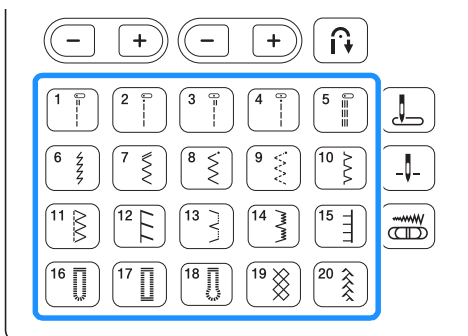
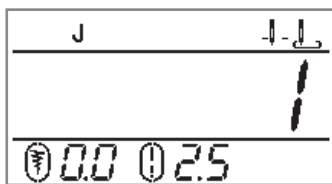
模様を選択する



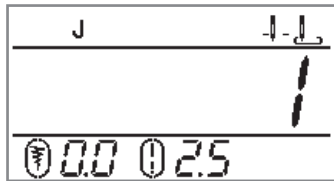
お知らせ

- 内蔵模様の詳細は、B-34の「ぬい方早見表」を参照してください。

模様選択キーを押して、目的に応じた模様を選択します。



模様をぬう

- 1 ミシンの電源を入れ、 (針上下スイッチ) を1回または2回押して、針を上げます。
 - 2 ぬいたい模様を選択します。
- 
- 3 必要に応じて、自動返しぬい／止めぬいやぬい目の長さなどを設定します。
 - 振り幅とぬい目の長さの調節については、B-32の「振り幅を調節する」とB-32の「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。
 - 4 押えを取り付けます。
 - 押えの交換の詳細については、B-24の「押えの交換」を参照してください。



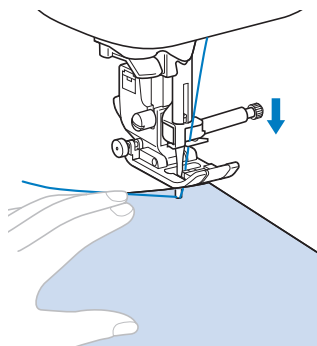
お願い

- 模様を選択すると、使用する押えが液晶画面に表示されます。ぬい始める前に押えを確認してください。他の押えが取り付けられている場合は、電源を切り、正しい押えを取り付けてから電源を入れ、ぬいたい模様をもう一度選択してください。

⚠ 注意

- 模様に適した押えを使用してください。誤った押えを使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。模様に適した押えについては、B-34を参照してください。

- 5 布地を押えの下に置き、左手で布地と糸端を押さえ、プーリーを回してぬい始め位置に針を刺します。



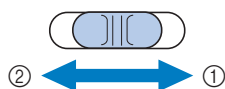
お知らせ

- ジグザグ押え<J>の左側の黒いボタンは、布地を送らないときや布地に段差があるときに使用します。(詳細は、「実用ぬい編」の「厚い布地をぬう」を参照してください。) 通常は黒いボタンを使わずにぬいます。

- 6 押えを下げます。
下糸を引き出す必要はありません。

- 7 スピードコントロールレバーでぬう速さを調節します。

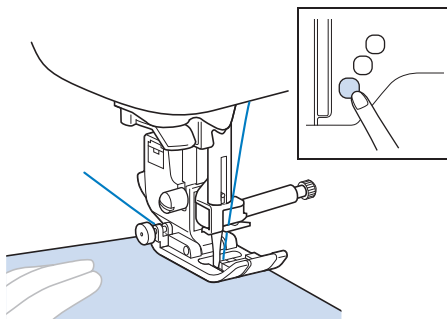
ぬっている途中でも、ぬう速さを調節することができます。



- ① はやく
② ゆっくり

- 8 スタート/ストップスイッチを押して、ぬい始めます。

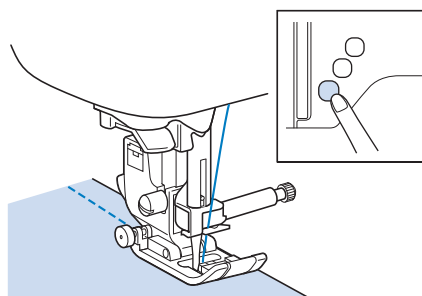
布地に軽く手を添えます。



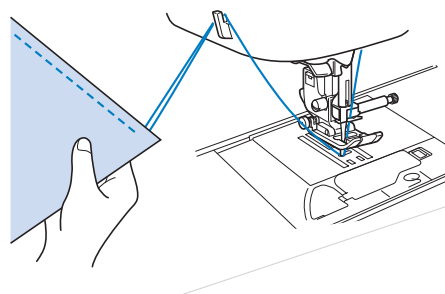
お知らせ

- フットコントローラージャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。

- 9 ぬい終わったら、もう一度スタート/ストップスイッチを押します。

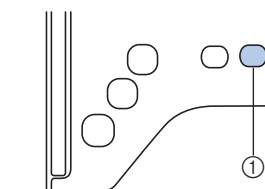


- 10 < CPH03 シリーズをお使いの場合 >
布地を左に引き、本体左側面の糸切りに上糸と下糸を引っかけて切ります。



< CPH13/CPJ13/CPJ16 シリーズをお使いの場合 >

⊗ (糸切りスイッチ) を押して糸を切ります。



① 糸切りスイッチ

→ 針が自動的に上がります。

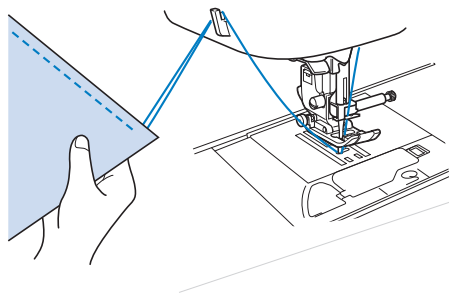
! 注意

- 糸を切った後は、⊗ (糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がからまったり、針が折れたり、ミシンが故障する原因となります。
- 押えの下に布地がないときや、ミシンが動いているときは、⊗ (糸切りスイッチ) を押さないでください。糸がらみや故障の原因となります。



お願い

- ナイロン糸・メタリック糸など特殊な糸を切る場合は、本体左側面の糸切りを使用してください。



- 11** 針が完全に止まったら、押えを上げて布地を取り出します。

■ フットコントローラー（別売）を使う

別売のフットコントローラーを使って、ミシンを操作することもできます。

⚠ 注意



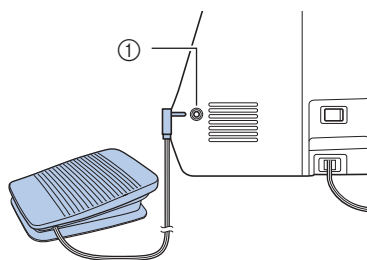
- フットコントローラーに糸くずやほこりなどがたまらないようにしてください。火災や感電の原因となります。



お知らせ

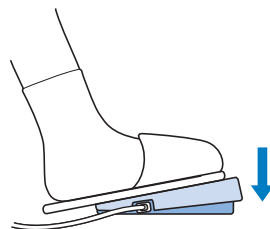
- フットコントローラー・ジャックにフットコントローラーのプラグが差し込まれているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。下糸巻きも、フットコントローラーで操作します。

- 1** 電源を切ります。
- 2** ミシン本体右側面のフットコントローラー・ジャックに、フットコントローラーのプラグを差し込みます。



① フットコントローラー・ジャック

- 3** 電源を入れます。
- 4** フットコントローラーをゆっくり踏み込みます。



お知らせ

- スピードコントロールレバーを左右に動かして、フットコントローラーの最高速度を調整することができます。

- 5** ぬい終わりの位置まできたら、フットコントローラーから足を離します。

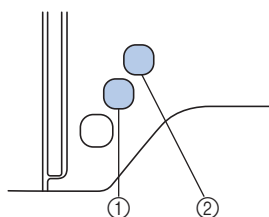
返しぬい／止めぬいをする

ぬい始めとぬい終わりは、糸の端がほつれないように、返しぬいまたは止めぬいをします。

① (返しぬいスイッチ) を押している間、模様によって返しぬいまたは止めぬいをします。

(B-34 の表の「返しぬいスイッチ」の欄を参照してください。)

② (止めぬいスイッチ) を長押しすると、同じ場所で 3 ～ 5 針ぬってから止まります。

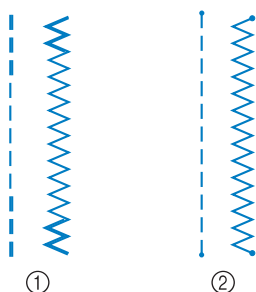


① 返しぬいスイッチ

② 止めぬいスイッチ

自動止めぬいが設定されているときは、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めるときに自動的に返しぬい (または止めぬい) がぬわれます。

ぬい終わりは、① (返しぬいスイッチ) または ② (止めぬいスイッチ) を押すと、返しぬいまたは止めぬいができます。



① 返しぬい

② 止めぬい

ミシンの動きは、選択している模様によって異なります。

次項「自動で返しぬい／止めぬいをする」を参照してください。

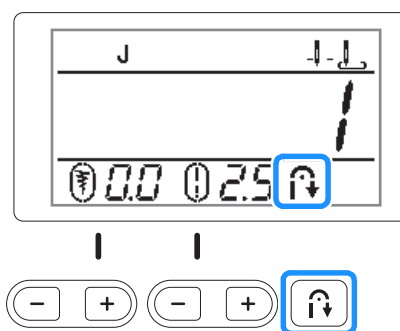
自動で返しぬい／止めぬいをする

模様を選んだときに自動返しぬい／止めぬいを設定しておく、ぬい始めとぬい終わりに自動的に止めぬい (模様によっては返しぬい) をします。

B-30 の表を参照してください。

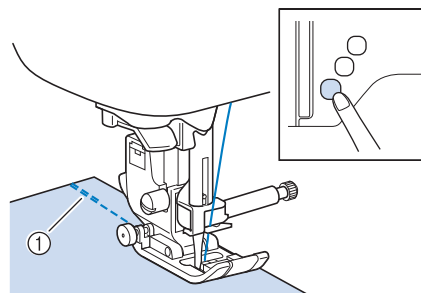
1 模様を選択します。

2 ① を押して、自動返しぬい／止めぬいを設定します。



→ 液晶画面上に ① が表示されます。

3 布地をぬい始めの位置に置き、スタート／ストップスイッチを押してぬい始めます。



① 返しぬい (または止めぬい)

→ 自動的に返しぬい (または止めぬい) をしてぬい始めます。



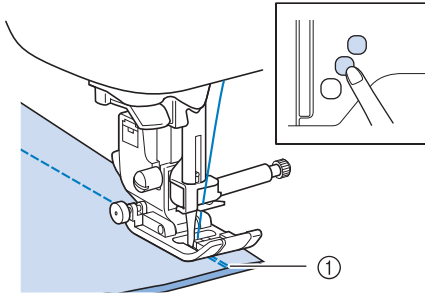
お知らせ

- 以下の模様を選んだ場合は、ぬい始めは自動的に返しぬいをします。



- ぬっている途中でスタート/ストップスイッチを押すと、縫製を一時停止/再開できます。

4 (返しぬいスイッチ) または (止めぬいスイッチ) を押します。



① 返しぬい (または止めぬい)

→ 自動的に返しぬい (または止めぬい) をして止まります。



お知らせ

- 自動止めぬいを解除するときは、もう一度 (返しぬいスイッチ) を押します。解除されると、液晶画面上の (返しぬいスイッチ) の表示が消えます。

それぞれのスイッチを押したときのミシンの動きは、そのとき選択している模様によって異なります。スイッチを押したときのミシンの動きについては、次の表の説明を参照してください。

	返しぬいスイッチ (返しぬいスイッチ)	止めぬいスイッチ (止めぬいスイッチ)
自動返しぬい/止めぬい=OFFで、以下のような模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間3～5針の止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい=OFFで、以下のような模様を選択している場合 	返しぬいスイッチを押している間だけ返しぬいをします。*	止めぬいスイッチを押している間3～5針の止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい=OFFで、直線、ジグザグ以外の模様を選択している場合	返しぬいスイッチを押している間3～5針の止めぬいをします。	止めぬいスイッチを押している間3～5針の止めぬいをします。

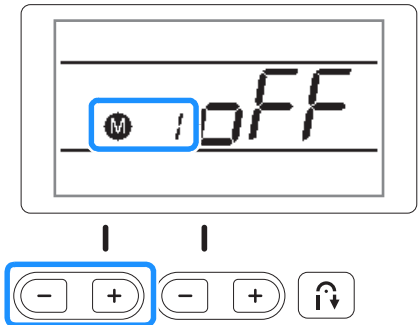
	返しぬいスイッチ (返しぬいスイッチ)	止めぬいスイッチ (止めぬいスイッチ)
自動返しぬい/止めぬい=ONで、以下のような模様を選択している場合 	ぬい始めとぬい終わりに返しぬいをします。	ぬい始めに返しぬい、ぬい終わりに止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい=ONで、以下のような模様を選択している場合 	ぬい始めに止めぬい、ぬい終わりに返しぬいをします。*	ぬい始めとぬい終わりに止めぬいをします。
自動返しぬい/止めぬい=ONで、直線、ジグザグ以外の模様を選択している場合	ぬい始めとぬい終わりに止めぬいをします。	ぬい始めとぬい終わりに止めぬいをします。

* 設定画面で (止めぬい優先) を「ON」にしている場合は、返しぬいの代わりに止めぬいを行います。詳細は、B-30の「止めぬい優先の設定」を参照してください。

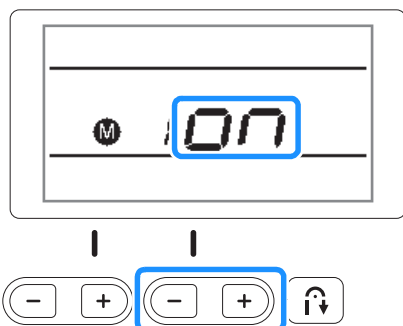
止めぬい優先の設定

設定画面で止めぬい優先設定の設定を「ON」にすると、(返しぬいスイッチ) を押しても、止めぬい模様のぬい始め、またはぬい終わりに止めぬいをします。詳細は、B-29の「自動で返しぬい/止めぬいをする」を参照してください。

- 電源を切ります。
- (止めぬいスイッチ) を押しながらミシンの電源を入れます。
- (-) (+) を押して、「M /」を選択します。



- 4 を押して、「ON」に設定します。



- 5 電源を切って、もう一度電源を入れなおします。

自動で糸を切る (CPH13/CPJ13/CPJ16 シリーズのみ)

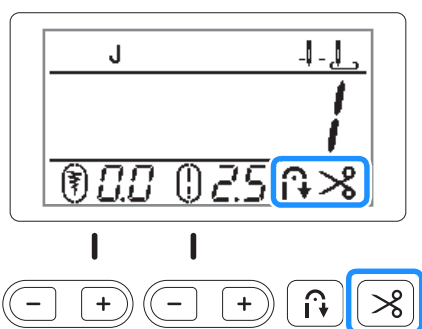
ぬい終わりに自動で糸を切るように設定します。
自動糸切りを設定すると、自動返しぬい／止めぬいも一緒に設定されます。

- 1 電源を入れます。

- 2 模様を選択します。

- 模様の選択についての詳細は、B-26の「模様を選択する」を参照してください。

- 3 を押します。



→ 液晶画面上に と が表示され、自動糸切りと自動返しぬい／止めぬいが設定されます。

- 自動糸切りを解除するときは、 を押します。

- 4 布地をセットし、スタート／ストップスイッチを1回押します。

→ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、ぬい始めます。

- 5 ぬい終わりの位置まできたら、 (返しぬいスイッチ) または (止めぬいスイッチ) を1回押します。

ボタン穴かがりなど、止めぬいが含まれている模様を選択したときは、この操作は必要ありません。

→ 返しぬいまたは止めぬいをしてから、自動で糸を切ります。



- ① スタート／ストップスイッチを押した地点
- ② (返しぬいスイッチ) または (止めぬいスイッチ) を押した地点
- ③ ここで糸が切れる

お知らせ

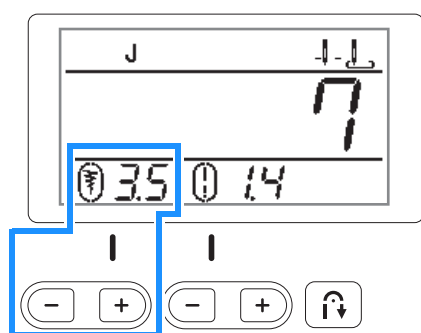
- ぬっている途中で、スタート／ストップスイッチを押したときは、自動糸切りは行われません。ぬい終わりで (返しぬいスイッチ) または (止めぬいスイッチ) を押してください。
- 電源を切ると、自動糸切りの設定は解除されます。

模様の設定

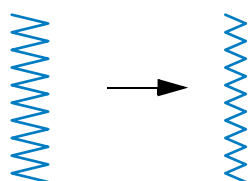
模様の振り幅（ジグザグの振り幅）やぬい目の長さは、あらかじめ模様ごとの標準値に設定されています。この設定は、必要に応じて変更することができます。

振り幅を調節する

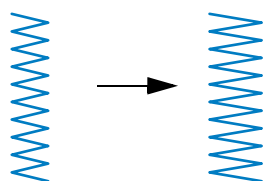
模様の振り幅（ジグザグの振り幅）を広くしたりせまくしたりすることができます。



⊖を押すごとに、ジグザグの幅がせまくなります。



⊕を押すごとに、ジグザグの幅が広がります。



お知らせ

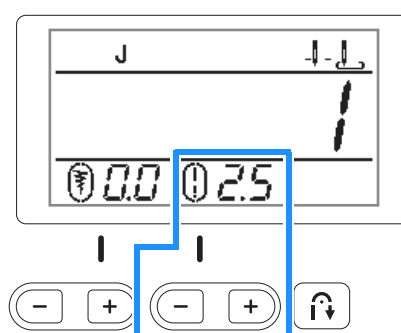
- 直線ぬいまたは3重ぬいを選択している場合は、ジグザグの振り幅を調節すると針の基線も変わります。振り幅を大きくすると針は右に移動し、振り幅を小さくすると針は左へ移動します。
- ジグザグの振り幅を標準値から変更すると、④のQが消えます。ジグザグの振り幅を標準値に戻すと、④のQが再表示されます。

注意

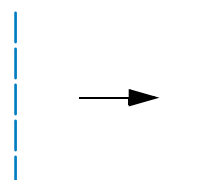
- 振り幅を調節したときは、プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

ぬい目の長さを調節する

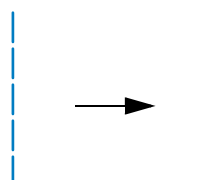
ぬい目の長さを調節して、ぬい目をあらく（長く）したり細かく（短く）したりすることができます。



⊖を押すごとに、ぬい目が細かく（短く）なります。



⊕を押すごとに、ぬい目があらく（長く）なります。



お知らせ

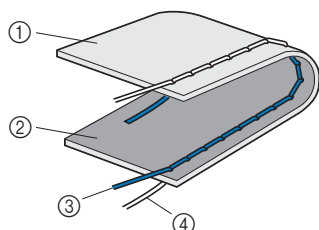
- ぬい目の長さを標準値から変更すると、④のQが消えます。ぬい目の長さを標準値に戻すと、④のQが再表示されます。

糸調子を調節する

布や糸の種類によって、糸調子を調節します。

■ 正しい糸調子

上糸と下糸が布のほぼ中央でまじわります。布地の表に出るのは上糸だけで、布地の裏に出るのは下糸だけになります。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 上糸
- ④ 下糸

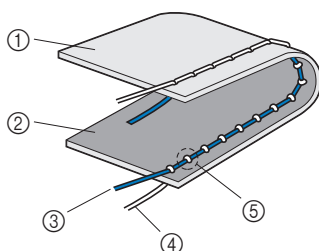
■ 上糸が強すぎる時

布地の表に下糸が見える場合は、上糸が強すぎます。糸調子を弱くしてください。



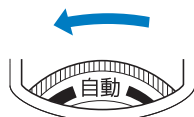
お願い

- 下糸が正しくセットされていないと、上糸が強くなる場合があります。上糸が強いときは、下糸のセットを再度行ってください。B-13の「下糸をセットする」を参照してください。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 上糸
- ④ 下糸
- ⑤ 上糸が強いと上糸と下糸の重なりが表にできません。

糸調子ダイヤルを左に回し、上糸調子を弱くします。



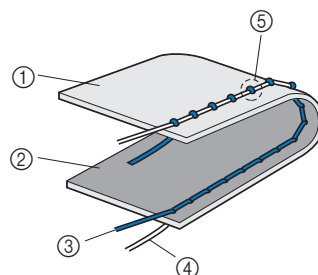
■ 上糸が弱すぎる時

上糸が布地の裏に出る場合は、上糸が弱すぎます。糸調子を強くしてください。



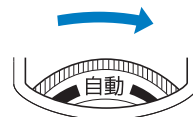
お願い

- 上糸が正しくセットされていないと、上糸が弱くなる場合があります。上糸が弱いときは、上糸のセットを再度行ってください。B-16の「上糸通し」を参照してください。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 上糸
- ④ 下糸
- ⑤ 上糸が弱いと上糸と下糸の重なりが裏にできません。

糸調子ダイヤルを右に回し、上糸調子を強くします。



お願い

- 下糸セットと上糸通しが正しく行われていない場合、糸調子が合わない場合があります。糸調子を調節しても糸調子が合わないときは、下糸セットと上糸通しをやり直してください。

B

基本のぬい方

ぬい方早見表

この表では、それぞれの模様について、用途、使用する押え、振り幅やぬい目の長さの設定などを紹介しています。

「返しぬいスイッチ」欄に*のある模様について：

（自動返しぬい／止めぬいキー）で自動返しぬい／止めぬいを設定しているときは、ぬい始めに止めぬいを行います。

設定画面で「止めぬい優先」を **ON** にしている場合は、ぬい終わりにも止めぬいを行います。



お願い

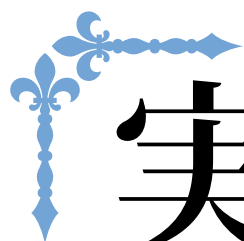
- ウォーキングフットを使用できるのは、直線ぬいかジグザグぬいの模様を選択したときだけです。
- ウォーキングフット（別売）を使用するときは、返しぬいをしないでください。

ぬい方	番号	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]	ぬい目の長さ [mm]	返しぬい スイッチ
					自動 手動	自動 手動	
	1	直線（左基線）	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	返しぬい
	2	直線（左基線）	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	返しぬい*
	3	直線（中基線）	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	返しぬい
	4	直線（中基線）	J	地ぬい、ギャザー、ピンタックなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.2 - 5.0	返しぬい*
	5	3重ぬい	J	丈夫なぬい目なので、袖つけや股下をぬうときに便利です。また、伸びる布地をぬうときやステッチをかけるときに使用します。	0.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0	止めぬい
	6	伸縮ぬい	J	伸縮性のあるぬい目なので、伸びる布地をぬうときに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	1.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 5.0	止めぬい
	7	ジグザグ（中基線）	J	たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0	返しぬい
	8	ジグザグ（中基線）	J	たち目かがりやアップリケなどに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	1.4 0.0 - 5.0	返しぬい*
	9	3点ジグザグ	J	普通地、厚地、伸びる布地のたち目かがりやゴムひもつけ、つくろいぬいなど幅広い用途に使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.0 0.2 - 5.0	返しぬい*
	10	たち目かがり	G	薄地、普通地のたち目かがりに使用します。	3.5 2.5 - 5.0	2.0 0.4 - 5.0	止めぬい
	11	たち目かがり	G	厚地のたち目かがりに使用します。	5.0 2.5 - 5.0	2.5 0.4 - 4.0	止めぬい
	12	たち目かがり	J	伸びる布地のたち目かがりに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0	止めぬい
	13	まつりぬい	R	普通地のまつりぬいに使用します。	00 3← - →3	2.0 0.4 - 5.0	止めぬい
	14	まつりぬい	R	伸びる布地のまつりぬいに使用します。	00 3← - →3	2.0 0.4 - 5.0	止めぬい
	15	アップリケ	J	アップリケに使用します。	3.5 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0	止めぬい
	16	ボタン穴かがり	A	ねむり穴、横穴用。薄地から普通地のボタン穴かがりに使用します。ブラウス、シャツなどに使用します。	5.0 3.0 - 5.0	0.4 0.2 - 1.0	自動 止めぬい

ぬい方	番号	名前	押え	主な用途	振り幅 [mm]	ぬい目の長さ [mm]	返しぬい スイッチ
					自動 手動	自動 手動	
	17	ボタン穴かがり	A	両止めボタン穴かがり。麻、木綿など、ある程度腰のある素材に適しています。ホームウェアやブラウスなど手軽にぬえるものに使用します。	5.0 3.0 - 5.0	0.4 0.2 - 1.0	自動 止めぬい
	18	ボタン穴かがり	A	はとめ穴。厚地や毛足の長い布のボタン穴かがりに使用します。ブレザー、スーツ、コートなどに使用します。	7.0 3.0 - 7.0	0.5 0.3 - 1.0	自動 止めぬい
	19	スモッキング	J	スモッキングや飾りぬいに使用します。	5.0 0.0 - 7.0	1.6 0.4 - 4.0	止めぬい
	20	ファゴティング	J	ファゴティングは布地と布地の間を離して糸でかがる方法をいい、ブラウスや子供服などに使用します。また、飾りぬいとしても使用します。	5.0 0.0 - 7.0	2.5 0.4 - 4.0	止めぬい

B

基本のぬい方



実用ぬい編

ここでは、実用ぬいのさまざまな機能を紹介しています。基本的な縫製だけでなく、筒ものぬいやボタン穴かがりなど、本機をもっと活用したいときの詳しい操作方法を知ることができます。

ページ数は、「S」の記号で始まります。

第 1 章 きれいに仕上げるために S-2

第 2 章 いろいろなぬい方 S-6



⚠ 注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。
押えの交換については、「基本機能編」を参照してください。

第1章 きれいに仕上げるために

上手にぬうコツ

試しぬいをする

本製品は、ぬう布地に適した糸と針をセットし、模様を選択すると、自動的に適切な糸調子や模様の振り幅（ジグザグの振り幅）・ぬい目の長さが設定されるようになっています。しかし、布地の種類やぬい方によっては必ずしも思い通りにならないことがあるので、試しぬいをするようにしましょう。

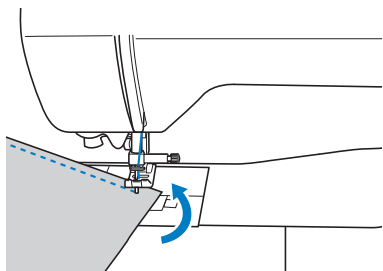
試しぬいをするときは、実際に使用する布地のはぎれと糸を使用して、糸調子や模様の振り幅（ジグザグの振り幅）・ぬい目の長さを確認します。ぬい方や、布地を何枚重ねてぬうかによってもぬった結果は異なるので、実際にぬうときと同じ状態で試しぬいをします。

ぬう方向を変える

- 1 角までぬったら、ミシンをストップさせます。

このとき、針が下がった（布地に刺さった）状態にしておきます。もし針が上がっている場合は、
④（針上下スイッチ）を押して針を下げます。

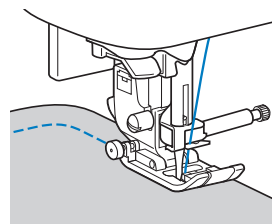
- 2 押えを上げ、布地を持って回転させます。
針位置を基点に回転させます。



- 3 押えを下げ、続きをぬいます。

カーブをぬう

途中でミシンをストップさせながら、少しずつ向きを変えてぬいます。S-3の「ぬいしろの幅をそろえる」を参考にして、ぬいしろと平行になるようにぬいます。

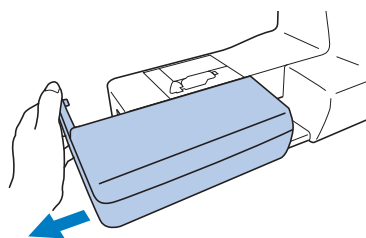


ジグザグ模様をぬうときは、ぬい目の長さを短めにするときれいに仕上がります。

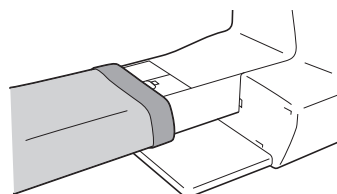
筒ものをぬう

そで口やズボンのすそなどの小さな筒ものをぬうときは、補助テーブルを取り外してフリーアームにします。

- 1 補助テーブルを左へ引いて取り外します。



- 2 下図のように布地をアームにセットし、布地を回しながらぬっていきます。



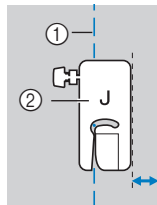
- 3 ぬい終わったら、補助テーブルをもとに戻します。

ぬいしろの幅をそろえる

布端と平行に一定の幅でぬうときは、ぬいしろの端が右側になるようにぬい始め、押えの右端が針板の目盛りを基準にしてぬいます。

■ 押えを基準にする

押えの右端と布端が一定の幅で平行になるようにぬいます。

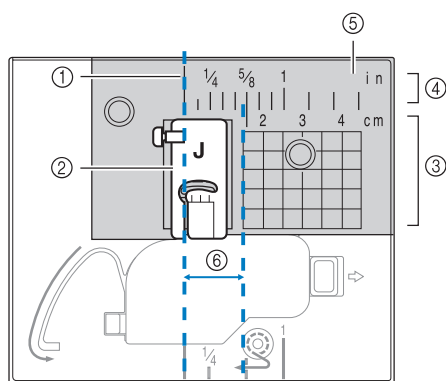


- ① ぬい目
- ② 押え

■ 針板を基準にする

針板には、直線 [左] の針位置からの長さが表示されています。針板に刻まれている目盛りと布端を合わせてぬいます。上側の目盛りは 1/8 インチ (約 3mm) 単位、下側の目盛りは 5mm 単位になっています。

左基線の模様の場合 (振り幅: 0.0mm)

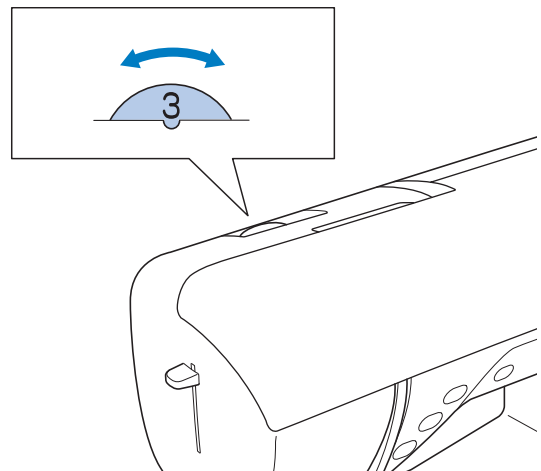


- ① ぬい目
- ② 押え
- ③ cm 目盛り
- ④ インチ目盛り
- ⑤ 針板
- ⑥ 1.5cm

押え圧を調節する (CPJ16 シリーズのみ)

押え圧 (押えが布地を押さえる強さ) を調節することができます。

- 1 押えレバーを下げます。
- 2 ミシン本体背面の押え圧ダイヤルを回して、押え圧を調節します。
押え圧は 1 ~ 4 の 4 段階で調節します。
数字が小さいほど弱く、大きいほど強くなります。



- 3 ぬい終わったら、ダイヤルを 3 (標準) に戻します。

S

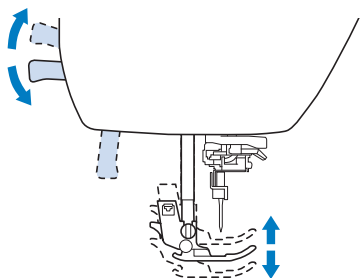
きれいに仕上げるために

いろいろな素材をぬう

厚い布地をぬう

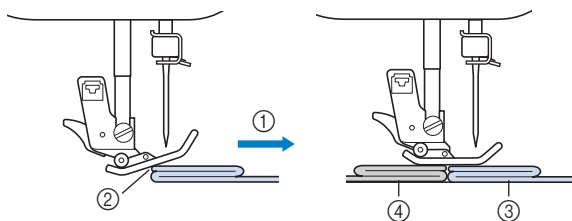
■ 押えの下に布地が入らない場合

押えレバーは2段階に上がります。厚地を重ねてぬう場合など布地を入れにくいときは、レバーをさらに押し上げると、押えがもう一段上がり布地を入れやすくなります。



■ 布地が送られない場合

デニム、キルティングなどの厚い布地をぬうとき、下図のように、押えが水平にならず、ぬい始めに布地が送られないことがあります。そのようなときは、ジグザグ押え<J>の左側の黒いボタンを使うと、押えを水平に保ち、スムーズに布地を送ることができます。
段差が大きい場合は、押えの下に使用する布地と同じ厚さの布地または厚紙をおいてぬうと、スムーズにぬい始めることができます。

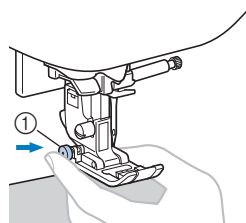


- ① ぬう方向
- ② 段差
- ③ ぬう布地
- ④ 布地または厚紙

1 押えを上げます。

2 ぬい始めの位置に合わせて、布地をおきます。

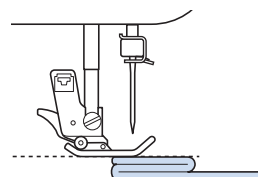
3 ジグザグ押え<J>を水平に保持して、左側の押え固定ピン（黒いボタン）を押したまま、押えを下げます。



① 押え固定ピン（黒いボタン）

4 押え固定ピン（黒いボタン）から手を離します。

→ 押えが水平に保たれ、布が送られます。



→ ぬい進めると押えはもとに戻ります。

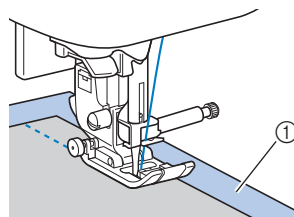
！ 注意

- 6mm以上の厚地をぬったり、無理に布地を押しこんだりすると、針が折れ、けがをするおそれがあります。

薄い布地をぬう

シフォンなどの薄い布地をぬうと、ぬい目がつれてしまったり、布がうまく送られないことがあります。

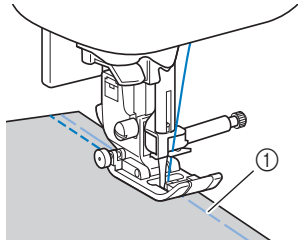
状態の良い針を使い、針位置をいちばん左か右に設定すると、布地が送り歯の中に巻き込まれるのを防ぎやすくなります。ぬい縮みする場合や、布が巻きこまれてしまう場合は、布地の下に刺しゅう用水溶性シート（不織布タイプ）などをしいて、布地と一緒にぬいます。別売の直線針板と直線押えを使用するのも効果的です。



① 刺しゅう用水溶性シート（不織布タイプ）

伸びる布地をぬう

あらかじめしつけをして、布地を引っ張らないようにぬいます。模様がくずれるときは、布地の下に刺しゅう用水溶性シート（不織布タイプ）などをして、布地と一緒にぬいます。



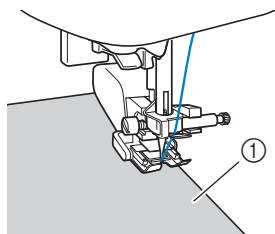
① しつけ

ニット生地をぬうときは、伸縮ぬいを使用すると、きれいにぬうことができます。また、ニット用針を使用してください。推奨する模様は以下の模様です。



ビニールや皮革をぬう

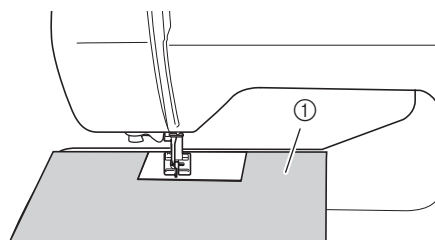
ビニールコーティングや皮革など、押えに貼りついてぬいにくい素材や滑りにくい素材には別売のウォーキングフット、スムーズフット、ローラーフットを使用します。



① 皮革

テーブル面にビニールコーティングや皮革などが貼りつく場合は、テーブルの上にコピー用紙やトレーシングペーパーをしいてぬうと、滑りやすくなります。

このとき、針板にかからないように紙を置くと、紙が布と一緒にぬわれません。



① コピー用紙またはトレーシングペーパー

お願い

- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみを使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないでください。
- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- ウォーキングフットを使用するときは、あらかじめ実際に使用する生地のはぎれで試しぬいをして、生地に押えのあとが残らないことを確認してください。

面ファスナー（マジックテープ®）をぬう

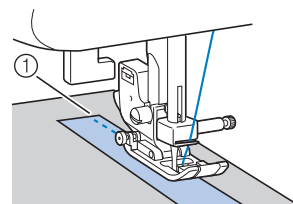
注意

- 面ファスナーは、のりが付いていない縫製用のものを使用してください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。
- 面ファスナーを細い針（9～11番）でぬうと、針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

お願い

- ミシンでぬう前に、しつけをして面ファスナーと布地をぬい合わせておいてください。

プリーを手で回して面ファスナーに針を刺し、針がスムーズに通ることを確認してから、面ファスナーの端を低速でぬいます。針が通らない場合は、厚地用の針と糸に交換してください。（「基本機能編」の「布地と糸の種類による針の種類と使い分け」参照）



① 面ファスナーの端

お知らせ

- “マジックテープ®”は、株式会社クラレの、面ファスナーの登録商標です。

第2章 いろいろなぬい方

布をぬい合わせる

基本となる直線ぬいをします。

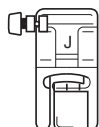
名前	ぬい方	模様番号	押え
直線（左基線）		1	J
		2	
直線（中基線）		3	
直線（中基線）		4	
3重ぬい		5	

⚠ 注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

① ぬい合わせるところを、しつけまたはまち針で留めます。

② ジグザグ押え<J>を取り付けます。



③ 模様を選択します。

④ ぬい始めの位置に針を刺します。

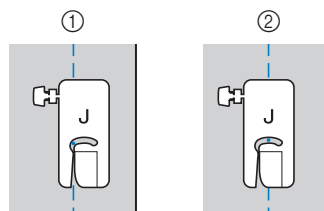
⑤ 押えを下げ、ミシンをスタートさせます。

⑥ ぬい終わったら、糸を切ります。



■ 針位置を変えるとき

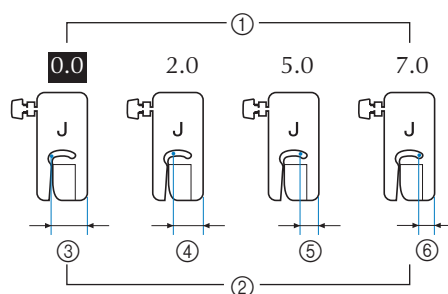
直線 [左] と直線 [中] は、基線となる針位置が異なります。



① 直線 [左]

② 直線 [中]

直線 [左] は、ジグザグの振り幅が標準の設定 (0.0mm) のときに、針位置から押えの右端まで 12mm あります。振り幅を変更 (0.0 ~ 7.0mm) すると、針位置が変わります。押えの右端に布端を合わせてぬうと、一定の幅でぬうことができます。



① 振り幅

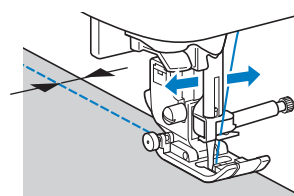
② 針位置から押え右端までの幅

③ 12.0mm

④ 10.0mm

⑤ 7.0mm

⑥ 5.0mm



- 詳細は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」を参照してください。

すそ上げをする

スカートやズボンのすそをまつります。

名前	ぬい方	模様番号	押え
まつりぬい		13	R
		14	

注意



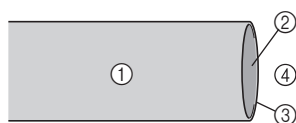
- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。



お知らせ

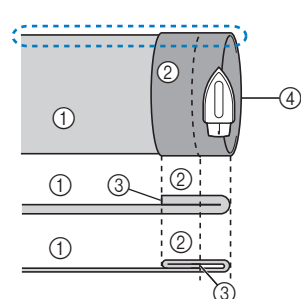
- 筒の大きさがアームに入らないほど小さいときや、筒の長さが短いときは、布地がうまく送られず、きれいに仕上がらないことがあります。

- 1** すそ上げをするスカートやズボンを裏返します。



- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ すそ側

- 2** できあがり線で布を表に返し、アイロンをかけます。



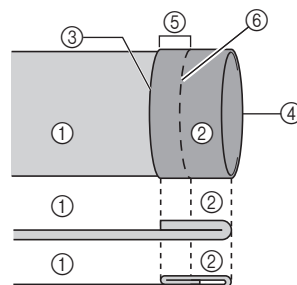
- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線

< 厚い布地 >

< 普通地 >

<  を横から見た図 >

- 3** 布端から約 5mm のところにチャコペンで印をつけ、しつけをします。



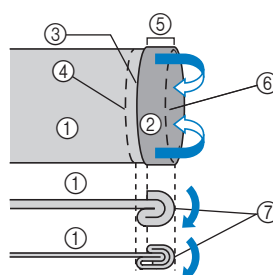
- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5mm
- ⑥ しつけ

< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

- 4** しつけをしたところから、内側へ折り込みます。



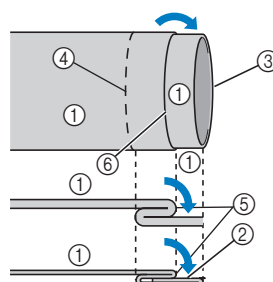
- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ 5mm
- ⑥ しつけ
- ⑦ しつけの位置

< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

- 5** 布端を開いて裏返します。



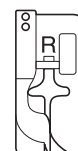
- ① 裏
- ② 表
- ③ 布端
- ④ できあがり線
- ⑤ しつけの位置
- ⑥ しつけ

< 厚い布地 >

< 普通地 >

< 横から見た図 >

- 6** まつりぬい押え< R >を取り付けます。



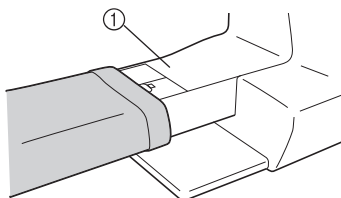
S

いろいろぬい方

7 模様  または  を選択します。

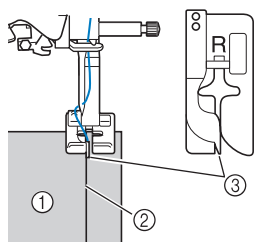
8 補助テーブルを外して、ミシンをフリーアームにします。

9 下図のように布地をアームにセットし、布地を回せることを確認して、ミシンをスタートさせます。



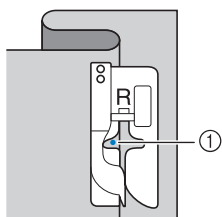
① アーム

10 押えのガイドと布地の折り山が合うように布地をセットし、押えを下げます。



① 裏
② 折り山
③ ガイド

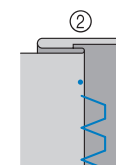
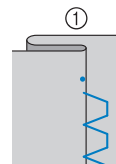
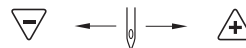
11 プーリーをゆっくり手前に回して針を下げ、針が折り山に少しかかる位置にあるか確認します。



① 針落ち位置

針落ち位置を変更するときは、針を上げてから振り幅を変更します。

* 振り幅を調整することで針の落ち位置の微調整ができます。(振り幅の設定の数値の単位は mm ではありません。)



① 厚い布地
② 普通地

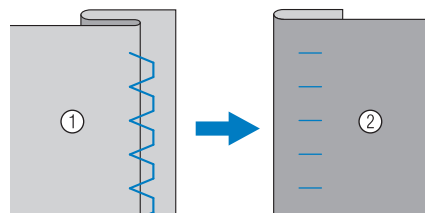
お知らせ

- 左側の針落ち位置が折り山にかかっていないと、まつりぬいをすることができません。また、針があまり折り山のほうにかかりすぎると、折りを広げることができず布地の表側にぬい目が大きく出て、きれいに仕上がりにません。うまくまつりぬいをできないときは、以下の解決方法を参照してください。

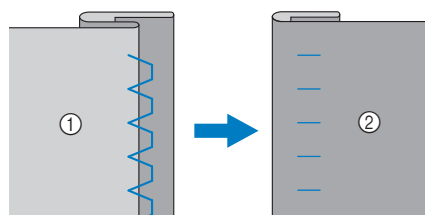
■ 針がかかりすぎているとき

針が左側にいきすぎています。振り幅を小さくして、針が折り山に少しかかるように調節します。

□ 例：厚地



□ 例：普通地

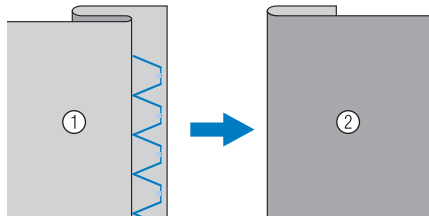


① 裏
② 表

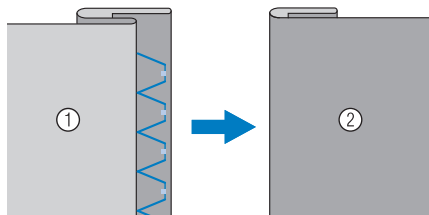
■ 針がかかっていないとき

針が右側にいきすぎています。
振り幅を大きくして、針が折り山に少しかかるように調節します。

□ 例：厚地



□ 例：普通地



① 裏

② 表

12 折り山に押えのガイドを沿わせてぬいます。

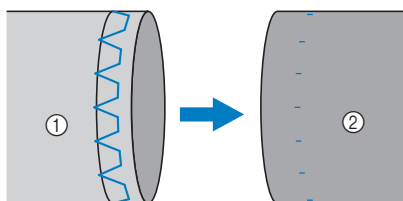
13 めい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。



お願い

- めい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えが破損するおそれがあります。

14 しつけをほどき、布地を表に返します。



① 裏

② 表

布端を始末する

裁断した布端がほつれないように、たち目かがりをします。

たち目かがり押え< G >を使う たち目かがり

名前	ぬい方	模様番号	押え
たち目かがり		10	G
		11	

⚠ 注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをすることがあります。

1 たち目かがり押え< G >を取り付けます。

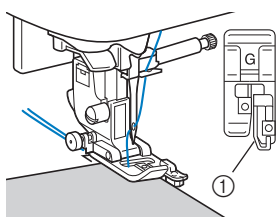


2 模様を選択します。

⚠ 注意

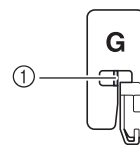
- たち目かがり押え< G >を使用するときは、必ずたち目かがり押え< G >用の模様を選んでください。間違った模様でぬうと、針が押えに当たり、針が折れたり、押えが破損したりするおそれがあります。

3 押えのガイドに布端を当て、押えを下げます。



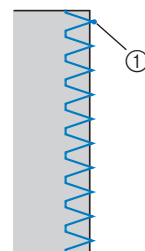
① ガイド

4 プーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認します。



① 針が当たらないように注意してください。

5 布端をガイドに当てながら、ガイドにそってぬいます。

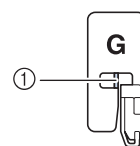


① 針落ち位置

6 ぬい終わったらミシンを止め、針と押えを上げて、布地を後ろに引いて取り出します。

💡 お願い

- ぬい終わった後は、布地を後ろに引いてください。前方向や横方向に布地を引っ張ると、押えのピンが破損するおそれがあります。



① ピン

- 押えに糸がからみついた場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えレバーを上げると、押えが破損するおそれがあります。

ジグザグ押え<J>を使うたち目かがり

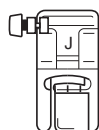
名前	ぬい方	模様番号	押え
ジグザグ (中基線)		7	J
3点ジグザグ		9	
たち目かがり		12	

⚠ 注意



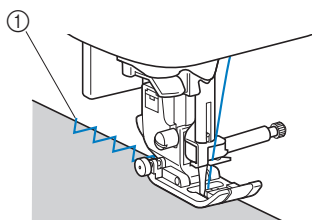
- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

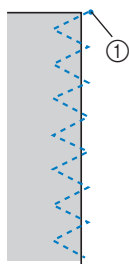


- 2 模様を選択します。

- 3 針が布端よりわずかに外側に落ちるようにぬいます。



① 針落ち位置



① 針落ち位置

ボタン穴かがり

名前	ぬい方	模様番号	押え
ボタン穴かがり		16	A
		17	
		18	

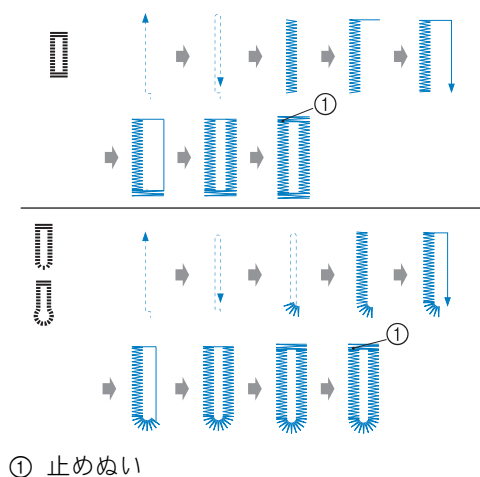
⚠ 注意



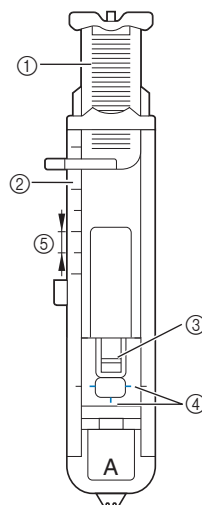
- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

「ボタンの直径+厚み」が 28mm までのボタン穴を作ることができます。

ボタン穴かがりは、図のように押えの手前から後ろに向かってぬいます。

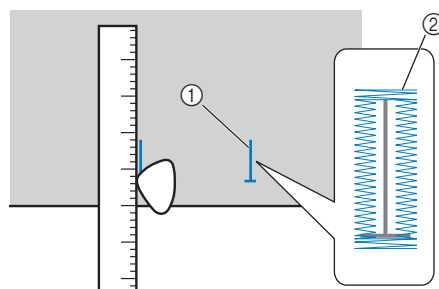


ボタン穴かがりで使用するボタン穴かがり押え< A >の各部の名称は以下のとおりです。



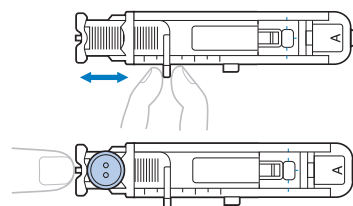
- ① 台皿
- ② 押えスケール
- ③ ピン
- ④ しるし
- ⑤ 5mm

- 1 布地の穴かがりをする位置に、ボタンの直径と厚みを合わせた長さのしるしをつけます。



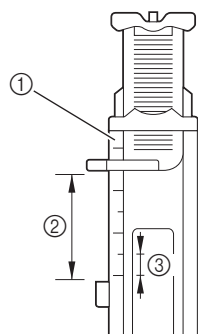
- ① しるし
- ② 出来上がり

- 2 押えの台皿を引き出し、ボタンをのせてはさみます。



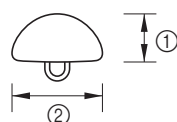
■ ボタンが台皿にのらない場合

押えスケールの目盛りを使用して、穴かがりの大きさを設定します。押えスケールは1目盛り5mmです。
押えスケールの目盛りをボタンの直径+厚みの寸法に合わせてください。



- ① 押えスケール
- ② でき上がり寸法 (直径+厚み)
- ③ 5mm

例) 直径 1.5cm 厚み 1cm のボタンの場合、2.5cm の目盛りに合うように、台皿を引き出します。



- ① 厚み 1cm
- ② 直径 1.5cm

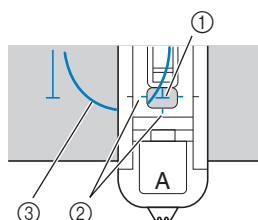
→ ボタン穴かがりの大きさが決まります。

3 ボタン穴かがり押え< A > を取り付けます。

ボタン穴かがり押え< A >をミシンに取り付ける前に、上糸を押えの穴から押えの下に通しておきます。

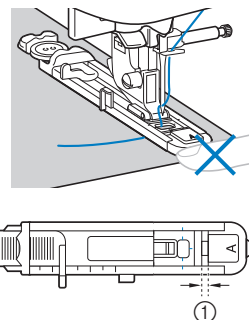
4 模様を選択します。

5 押えの赤のしるしと布地のしるしの手前側を合わせ、押えを下げます。



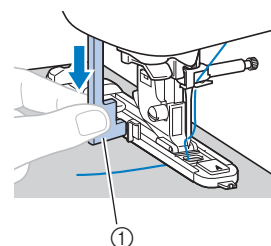
- ① 布地のしるし (手前)
- ② 赤のしるし
- ③ 上糸

- 押えを下げるときに、押えの手前部分を押さないでください。

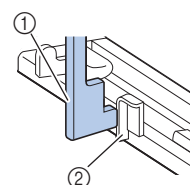


- ① すきまをなくさない

6 ミシン本体のボタン穴かがりレバーを一番下まで引き下げます。

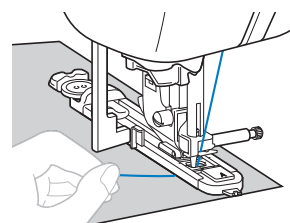


- ① ボタン穴かがりレバー
ボタン穴かがりレバーが、押えの突起部の後ろ側になるようにします。



- ① ボタン穴かがりレバー
- ② 突起部

7 左手で上糸を軽く持ち、ミシンをスタートさせます。



→ ぬい終わると、自動的に止めぬいをしてストップします。

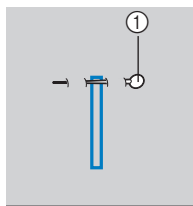
- 8 針と押えを上げてから、布を引き出し、ミシン左側の糸切りやはさみを使って糸を切ります。

お知らせ

- (CPH13/CPJ13/CPJ16 シリーズのみ)
糸切りやはさみの代わりに、自動糸切りで糸をきることができます。
⊗ (糸きりスイッチ) を 1 回押して糸を切り、押えを上げて布地を取り出してください。
あらかじめ自動糸切りを設定しておくと、ぬい終わりに止めぬいをしてから自動的に上糸と下糸を切ります。
詳細は、「基本機能編」の「自動で糸を切る (CPH13/CPJ13/CPJ16 シリーズのみ)」を参照してください。

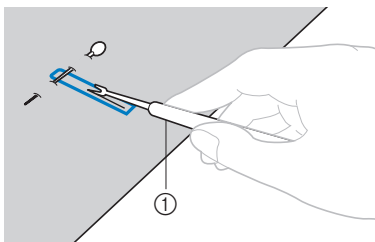
- 9 ボタン穴かがりレバーをもとに戻します。

- 10 ぬった部分を切らないように、かんぬき止めの内側にまち針を刺します。



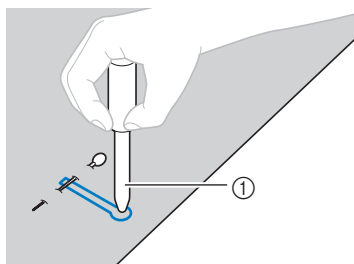
① まち針

- 11 付属のリッパーでボタン穴を切り開きます。



① リッパー

はとめ穴の場合は、付属のはとめ穴パンチで穴をあけてから、リッパーで切り開きます。



① はとめ穴パンチ

- はとめ穴パンチを使用するときは、布地の下に厚紙などを敷いてください。

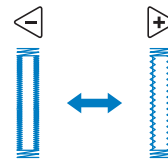
注意



- リッパーで穴をあける方向に、手や指を置かないでください。すべったときにけがをするおそれがあります。
- リッパーは、本来の使用目的以外での使用はしないでください。

ぬい目のあらさを変えるとき

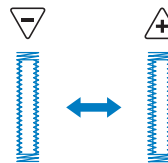
ぬい目の長さを調節します。



- 詳細は、「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。
- 厚地の場合などで布地が進まないときは、ぬい目をあらくします。

振り幅を変えるとき

ジグザグの振り幅を調節します。



- 詳細は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」を参照してください。



お願い

- ボタン穴かがりをする前に、模様の長さや幅を確認するために、はぎれを使って試しぬいをしてください。

ファスナーつけ

名前	ぬい方	模様番号	押え
直線（中基線）		3	J、I

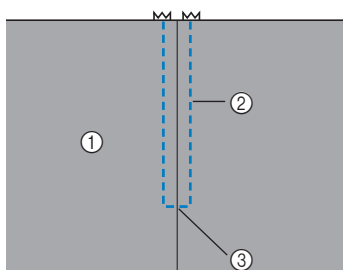
⚠ 注意



- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

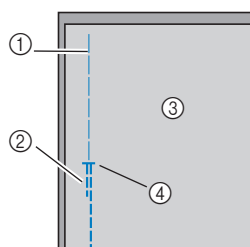
つき合わせ

つき合わせた布地の両方にステッチが入ります。



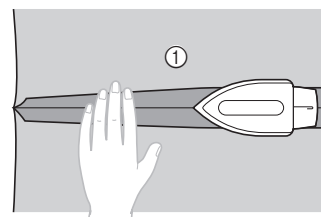
- ① 表
- ② ステッチ
- ③ あき止まり

- 1 ジグザグ押え< J >を取り付けます。
- 2 あき止まりから下側に地ぬいをします。
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。
- 3 ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



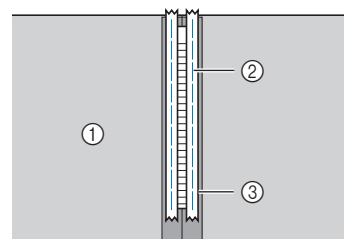
- ① しつけ
- ② 返しぬい
- ③ 裏
- ④ あき止まり

- 4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



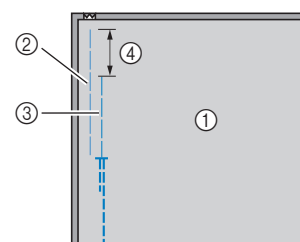
- ① 裏

- 5 ぬい目とファスナーの中央を合わせて、しつけをします。



- ① 裏
- ② しつけ
- ③ ファスナー

- 6 でき上がり線のしつけを布端から5cmの位置までほどきます。

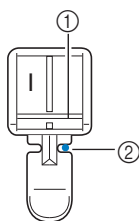


- ① 裏
- ② ファスナーのしつけ
- ③ でき上がり線のしつけ
- ④ 5 cm

S

いろいろぬい方

- 7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。



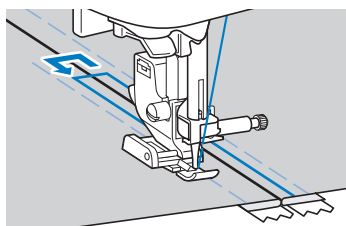
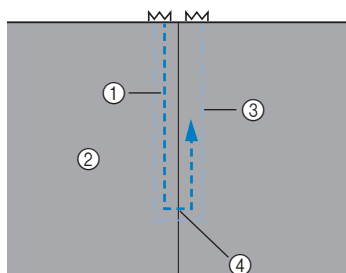
- ① ピン右側
② 針落ち位置

- 8 模様  を選択します。

！ 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線〔中〕を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 9 布地の表からステッチをかけます。



- ① ステッチ
② 表
③ しつけ
④ あき止まり

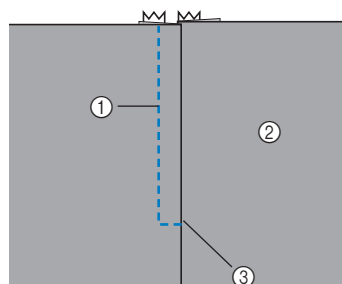
！ 注意

- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10 しつけをほどきます。

片返し

布地の片側にステッチが入ります。脇ファスナーや後ろファスナーの作品を作るときに使用します。



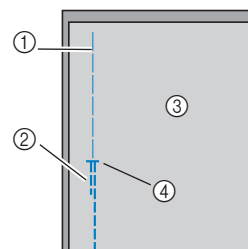
- ① ステッチ
② 表
③ あき止まり

ここでは、脇ファスナーの場合を例に説明します。

- 1 ジグザグ押え<J>を取り付けます。

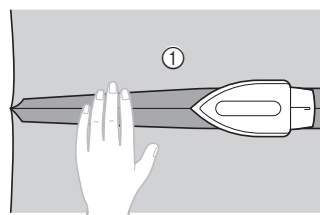
- 2 あき止まりから下側に地ぬいをします。
布地は中表にし、あき止まりは返しぬいをします。

- 3 ファスナーをつける部分のでき上がり線にしつけをします。



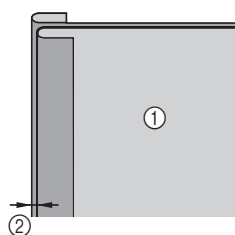
- ① しつけ
② 返しぬい
③ 裏
④ あき止まり

- 4 ぬいしろを割り、裏からアイロンをかけます。



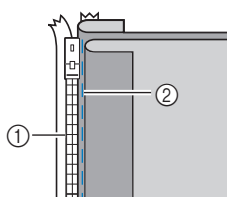
- ① 裏

- 5 右側（ステッチが入らない方）のぬいしろを 3mm 出してアイロンをかけます。



- ① 裏
② 3mm

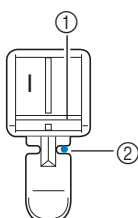
- 6 3mm 出した折り山とファスナーのむしの端を合わせて、しつけまたはまち針で留めます。



- ① むし
② しつけ

- 7 片押え<I>のピンの右側を押えホルダーに取り付けます。

例と反対側をぬう場合は、左側のピンを取り付けます。



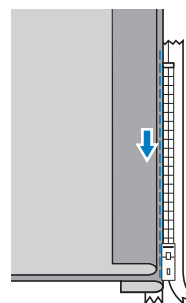
- ① ピン右側
② 針落ち位置

- 8 模様  を選択します。

！ 注意

- 片押え<I>を使用するときは、必ず直線 [中] を使用し、プーリーをゆっくりと手前に回して針が押えに当たらないことを確認してください。他の模様を使用すると、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 9 3mm 出した折り山部分を、あき止まりの方からぬいます。

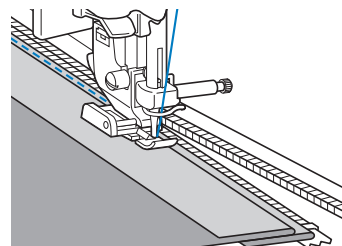


！ 注意

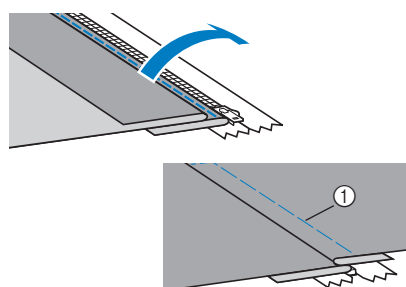
- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 10 残り 5cm の位置までぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 11 ファスナーを開いて続きをぬいます。



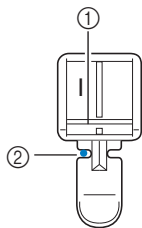
- 12 ファスナーをとじて表に返し、反対側をしつけします。



- ① しつけ

- 13** 片押え<1>のピンの逆側を押えホルダーに取り付けます。

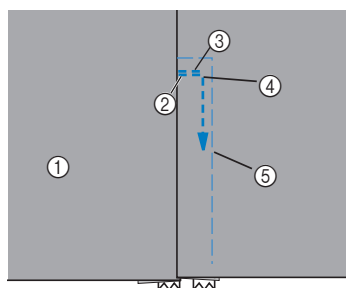
⑦で右側に取り付けた場合は、左側に取り付けます。



- ① ピン左側
② 針落ち位置

- 14** 布地の表からステッチをかけます。

あき止まり側から返しぬいをし、しつけをめやすにしてぬいます。



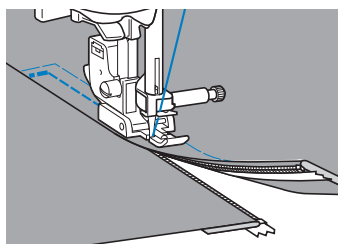
- ① 表
② あき止まり
③ 返しぬい
④ ぬい始め
⑤ しつけ

⚠ 注意

- ぬう際には、ファスナーに針が当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

- 15** 残り5cm ほどまでぬったらミシンをストップさせ、針を下げたまま押えを上げます。

- 16** でき上がり線のしつけをほどいてファスナーを開き、続きをぬいます。



伸びる布地やゴムテープをぬう

名前	ぬい方	模様番号	押え
伸縮ぬい		6	J
3点ジグザグ		9	

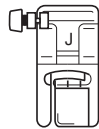
注意



- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

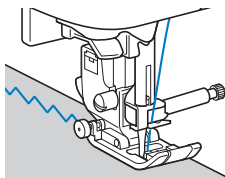
伸縮ぬい

- ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。



- 模様  を選択します。

- 布地を伸ばさないようにぬいます。

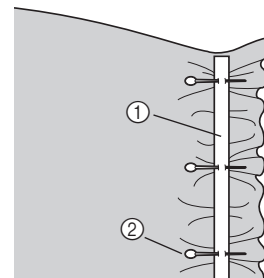


ゴムテープつけ

そで口やウエストなどにゴムテープをぬいつける場合、ゴムテープが縮んでいる状態ができ上がり寸法になります。必要な長さのゴムテープを用意します。

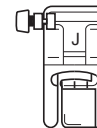
- まち針で布地の裏側にゴムテープを留めます。

布地とゴムテープが均等になるようにまち針で数か所留めます。



- ゴムテープ
- まち針

- ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。



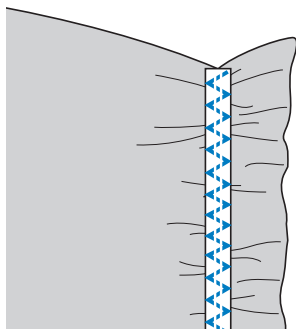
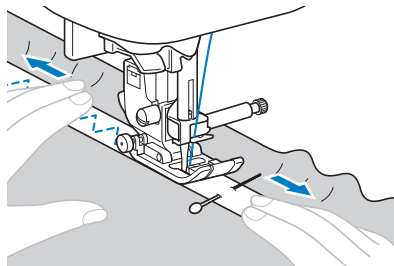
- 模様を選択します。

S

いろいろなぬい方

4 ゴムテープが布地と同じ長さになるように伸ばしながらぬいます。

左手で後ろ側の布地を引っ張り、右手で押えに一番近いまち針のところを引っ張ります。



⚠ 注意

- ぬう際には、まち針などが針に当たらないように注意してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

アップリケ／パッチワーク／キルトぬい

名前	ぬい方	模様番号	押え
ジグザグ (中基線)		7	J
アップリケ		15	

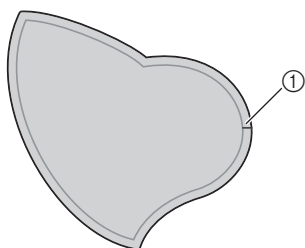


! 注意

- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

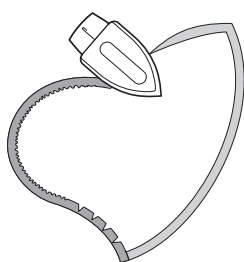
アップリケ

- アップリケ布は3～5mmのぬいしろをつけて裁断します。

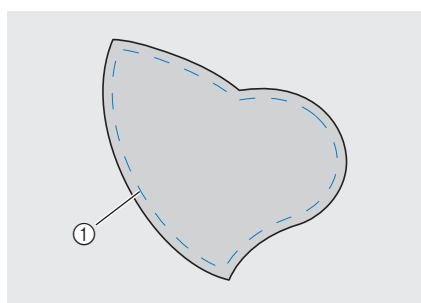


① ぬいしろ

- アップリケ布の裏に厚紙の型紙をあてて、アイロンででき上がり線を折ります。



- アップリケ布を表に返し、土台になる布地にしつけまたはのりでとめます。

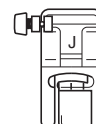


① しつけ

! 注意

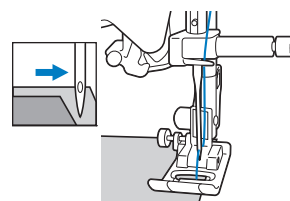
- のりでアップリケ布を土台になる布地にとめる場合は、ミシンでぬう部分にのりをつけないでください。のりが針やかまに付着すると、故障の原因となります。

- ジグザグ押え<J>を取り付けます。

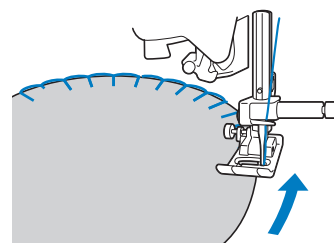


- 模様を選択します。

- プーリーを手前に回し、アップリケ布の端から少し外側に針が刺さるようにしてぬい始めます。

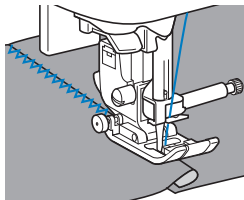


急な角度をぬうときは、アップリケ布の外側に針を刺したまま、押えを上げて少しずつ方向を変えながらぬいます。



パッチワーク (クレイジーキルト)

- ① 上側になる布地の端を折って下側の布地と重ねます。
- ② 両方の布地に模様がまたがるようにぬいます。

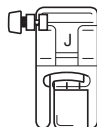


ピーシング

パッチワークで布と布（ピース）をぬい合わせることを、「ピーシング」といいます。布地は、すべて 7mm のぬいしろを付けて裁断します。

直線（中基線）で、押えの右端、または左端から 7mm のところをぬいます。

- ① ピーシングする布地のぬいしろを、しつけまたはまち針で留めます。
- ② ジグザグ押え< J >を取り付けます。



- ③ 模様  を選択します。



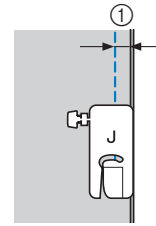
お願い

- ピーシングをするときは、ぬい目の長さを 1.6 mm に設定してください。

- ④ 押えの端に布端を合わせてぬいます。

■ぬいしろが右側のとき

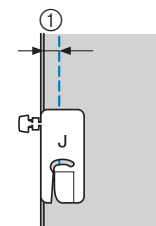
振り幅を 5.0mm に設定し、押えの右端に布端を合わせてぬいます。



① 7mm

■ぬいしろが左側のとき

振り幅を 2.0mm に設定し、押えの左端に布端を合わせてぬいます。



① 7mm



お知らせ

- ぬいしろの幅を変更する（針位置を変更する）方法は、「基本機能編」の「振り幅を調節する」を参照してください。

キルティング

表布と裏布の間にキルト綿をはさんでぬい合わせることを、「キルティング」といいます。
ウォーキングフット*やキルター*を使用すると、きれいにぬうことができます。

* ウォーキングフット、キルターは別売です。



お願い

- ウォーキングフットを使用するときは、手で針に糸を通してください。糸通しレバーを使用する場合は、糸を通した後ウォーキングフットを取り付けてください。
- ウォーキングフットを使用するときは、速さをゆっくり～中速でぬってください。
- ウォーキングフットは、直線模様またはジグザグ模様のみを使用できます。ウォーキングフット使用時は返しぬいをしないください。自動返しぬい／止めぬいを設定するときは、ぬい始めに返しぬいをしない直線またはジグザグ模様を選択してください。詳細は、「基本機能編」の「ぬい方早見表」を参照してください。

1

布地にしつけをします。

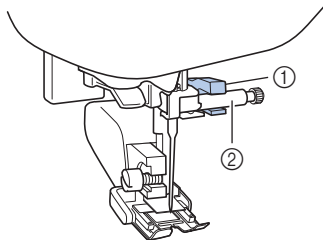
2

押えと押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「基本機能編」の「押えホルダーを取り外す／取り付ける」を参照してください。

3

ウォーキングフットのレバーのふたまた部分で、針のとめネジの棒をはさみます。

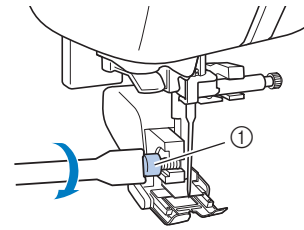


① ふたまた部

② 針のとめネジの棒

4

押えレバーを下げ、押えホルダーのネジを付属のドライバーで確実にしめます。



① 押えホルダーのネジ

注意

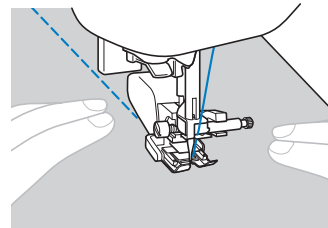
- ネジは付属のドライバーで確実にしめてください。ネジのしめ方がゆるいと、針が押えに当たり、折れたり曲がったりするおそれがあります。
- 必ず、ぬう前にブーリーをゆっくりと手前に回し、針が押えに当たらないことを確認してください。針が折れたり曲がったりするおそれがあります。

5

模様を選択します。

6

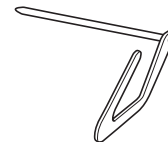
押えの両側に手を置き、布地をしっかりと張ってぬいます。



■キルター*を使う

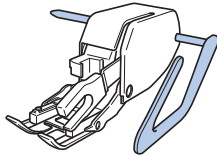
キルターを使用すると、ぬい目を平行にそろえて等間隔にぬうことができます。

* キルターは別売です。

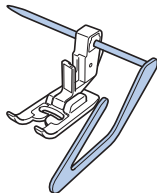


- 1 ウォーキングフットまたは押えホルダーの穴に、キルターの棒を差し込みます。

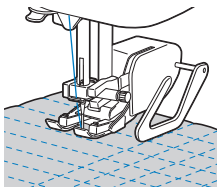
□ ウォーキングフット



□ 押えホルダー



- 2 ぬい終わったぬい目とキルターのガイドが合うように、棒の長さを調節します。



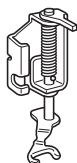
フリーモーションキルト

フリーモーションキルトでは、フットコントロールローラー（別売）を取り付けて、一定の速度でぬうことをお勧めします。ぬう速度は、ミシンのスピードコントロールレバーで調節できます。

！ 注意

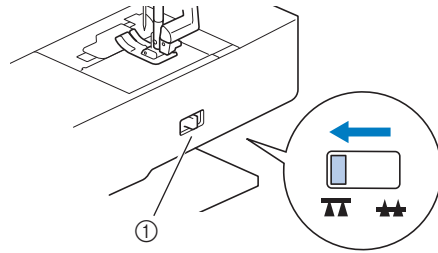
- フリーモーションキルトでは、ぬう速度に合うように布を動かしてください。無理に速く布地を動かすと、針が折れたり、他の損傷が起きるおそれがあります。

フリーモーションキルトをするときは、別売のオープントゥキルト押え＜O＞を使用します。



オープントゥキルト押え＜O＞

- 1 ミシン本体背面下側にあるドロップレバーを背面から見て左側（）にします。



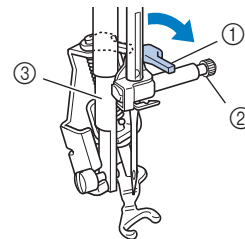
① ドロップレバー（背面から見た図）
→ 送り歯が下がります。

- 2 模様を選択します。

- 3 押えホルダーを取り外します。

- 詳細は、「基本機能編」の「押えホルダーを取り外す／取り付ける」を参照してください。

- 4 オープントゥキルト押え＜O＞のピンを針のとめネジの上に配置して、左下を押え棒に合わせて、オープントゥキルト押え＜O＞を取り付けます。



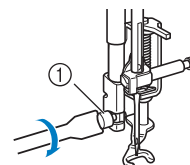
- ① ピン
- ② 針のとめネジ
- ③ 押え棒



お願い

- キルト押えが傾斜していないことを確認してください。

- 5 右手でキルト押えを持ちながら、左手で押えホルダーのネジを付属のドライバーでしめめます。



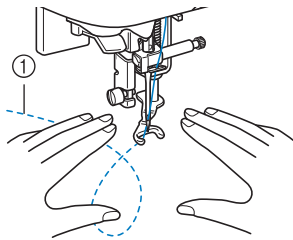
① 押えホルダーのネジ

⚠ 注意



- ネジをしめるときは、必ず付属のドライバーを使用してください。ネジを確実にしめないと針がキルト押えに当たり、曲がったり折れたりするおそれがあります。

- 6** 両手で布地を引っ張り、一定の速度で布地を送り、ぬい目の長さが均一に約 2.0 ～ 2.5mm になるようにぬいます。



① ぬい目

- 7** ぬい終わったら、ドロップレバーを背面から見て右側 (▲▲) にし、プーリーを回して送り歯を上げます。



お知らせ

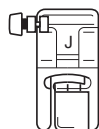
- 最初はきれいに仕上がらないことがありますが、練習を重ねて素敵な作品を作しましょう。

振り幅コントロールを使用したサテンぬい

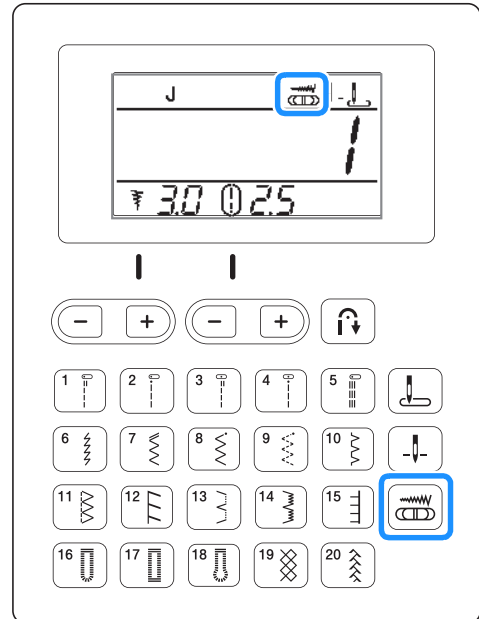
ジグザグ模様の振り幅を変化させて、サテン模様をぬうことができます。スピードコントロールレバーの設定を変更して、振り幅の調節が手もとでできるようにします。この機能が設定されているときは、フットコントローラー (別売) を使用してぬいます。

- 1** フットコントローラーを取り付けます。

- 2** ジグザグ押え < J > を取り付けます。



- 3** を押します。

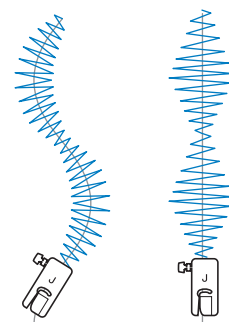


→ 模様の振り幅がスピードコントロールレバーで調節できるように設定されました。

- 4** ジグザグ模様を選択します。

- 5** ぬいながら、スピードコントロールレバーを動かし、振り幅を調節します。

レバーを左に動かすと、振り幅は狭くなり、右に動かすと、振り幅は広がります。



- ぬう速さは、フットコントローラーで調節します。

- 6** ぬい終わったら、 を押して、振り幅コントロールを解除します。



お知らせ

- 仕上がりは、布地の種類や糸の太さによっても変わりますが、ぬい目の長さを 0.3 ～ 0.5mm に設定すると、きれいにぬうことができます。

丈夫にしたいところをぬう

そでぐりや股ぐりなどのぬい目を丈夫にしたり、ポケット口などのあき止まり部分を補強するときに使用します。

名前	ぬい方	模様番号	押え
3 重ぬい		5	J

⚠ 注意

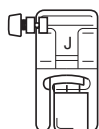


- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

3 重ぬい

そでぐりや股ぐりなど、ぬい目を丈夫にしたいところをぬうときに使用します。

- ジグザグ押え< J >を取り付けます。



- 模様  を選択します。
- ミシンをスタートさせます。

飾りぬいをする

いろいろな飾りぬいができます。

名前	ぬい方	模様番号	押え
スモッキング		19	J
ファゴティング		20	

注意



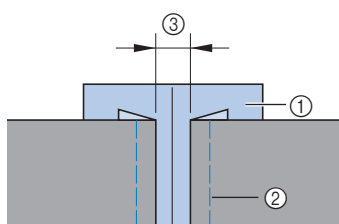
- 押えは、必ず電源を切ってから交換してください。万一、スタート/ストップスイッチまたは他のスイッチが押されると、ミシンが作動してけがをするおそれがあります。

ファゴティング

布地と布地の間を離して糸でかがるぬい方を「ファゴティング」といいます。ブラウスや子供服などに使用します。太い糸を使用するときれいに仕上がります。

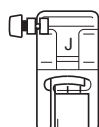
- 1 布地をでき上がり線で折って、アイロンをかけておきます。
- 2 ハトロン紙などの薄い紙（または刺しゅう用接着芯）に 4mm の間隔をあけて、布地をしつけします。

ハトロン紙（または刺しゅう用接着芯）の中央に線を書いておくとうぬいやすくなります。



- ① ハトロン紙（または刺しゅう用接着芯）
- ② しつけ
- ③ 4mm

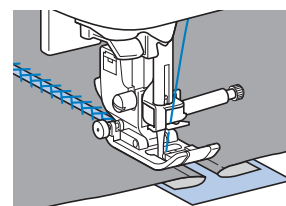
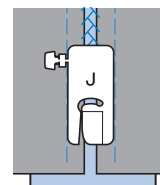
- 3 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。



- 4 模様  を選択します。

- 5 ジグザグの振り幅を 7.0mm に設定します。

- 6 押えの中心を布地と布地の中心に合わせてぬいます。



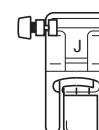
- 7 ぬい終わったら、紙をやぶって取り除きます。

スモッキング

ギャザーの上に飾りぬいまたは刺しゅうをすることを「スモッキング」といいます。ブラウスの胸もとやそで口の飾りなどに使用します。

布地に模様を施すと同時に伸縮性もつけられる、飾りと実用を兼ねたぬい方です。

- 1 ジグザグ押え＜J＞を取り付けます。



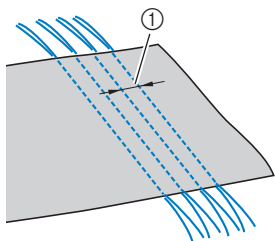
- 2 直線を選択し、ぬい目の長さを 4.0mm、上糸調子を弱めに設定します。

下糸は上に引き出しておきます。

- 詳細は、「基本機能編」の「ぬい目の長さを調節する」「糸調子を調節する」および「下糸を引き出す」を参照してください。

3 1cmの間隔をあけて、平行に数本ぬいます。

ぬい終わりは、糸を5cmほど引き出して切ります。

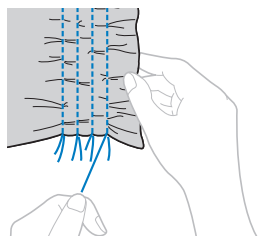


① 1cm

- 返しぬいと糸切りはしないでください。

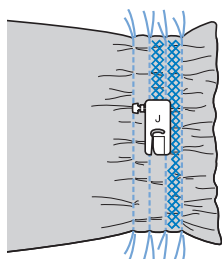
4 下糸を引いてギャザーを寄せます。

アイロンでギャザーを整えておきます。

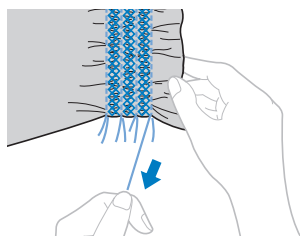


5 模様 または を選択します。

6 直線ぬいの間をぬいます。



7 直線ぬいの糸を抜きます。





付録

ここでは、困ったときのヒントや、本機を長くお使いいただくためのお手入れ方法などを紹介しています。

ページ数は、「A」の記号で始まります。

第 1 章 お手入れ／困ったときには	A-2
--------------------------	-----

第1章 お手入れ／困ったときには

お手入れのしかた

注油に関して

お客様ご自身による本製品への注油は行わないでください。故障の原因となります。本製品の動作に必要な油はあらかじめ十分に塗布されて出荷されていますので、定期的に注油する必要はありません。万一、プーリーを回すと重い、異常な音がするなどの症状が発生した場合は、ただちに使用をやめて、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

ミシンを保管するときのご注意

以下の場所にミシンを保管しないでください。結露によるさびの発生など、故障の原因となります。

- 温度が著しく高くなる場所
- 温度が著しく低くなる場所
- 急激に温度が変化する場合
- 湿気、湯気が多い場所
- 火気や熱器具、冷暖房機器などに近い場所
- 屋外や直射日光の当たる場所
- ほこり、油煙の多い場所



お願い

- 本製品を末永くご愛用いただくために、ときどき電源を入れて、縫製してください。長期間保管したまま使用しない状態が続くと、ミシンの性能を損なうおそれがあります。

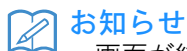
画面の汚れの掃除

画面が汚れた場合は、乾いたやわらかい布などで軽くふきとってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。



お願い

- 湿った布で画面を拭かないでください。



お知らせ

- 画面が結露したり、曇ったりする場合がありますが、故障ではありません。しばらくすると、結露や曇りはなくなります。

ミシンの汚れの掃除

本製品の汚れをふき取るときは、水かぬるま湯を含ませたやわらかい布を、固く絞ってふいてください。ふいた後は、乾いたやわらかい布で水分をふき取ってください。有機溶剤や洗剤は使用しないでください。

⚠ 注意



- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。

かまの掃除

針板カバーの下にあるかまを掃除します。

かまには糸くずやほこりがたまりやすく、縫製不良の原因になる場合があります。定期的に掃除してください。



①（針上下スイッチ）を押して針を上げます。



② 電源を切ります。



③ 電源プラグをコンセントから抜きます。

⚠ 注意



- ミシンの掃除は、必ず電源プラグをコンセントから抜いてから行ってください。けがまたは感電の原因となります。



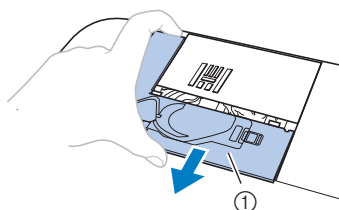
④ 押えを上げて、針と押え、押えホルダーを外します。

- 詳細は、「基本機能編」の「針の交換」「押えの交換」を参照してください。



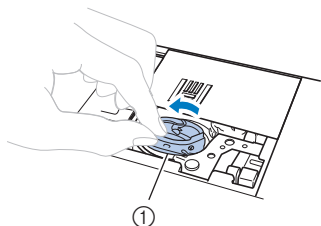
⑤ 補助テーブルを取り付けている場合は外します。

6 針板カバーを手前に引いて外します。



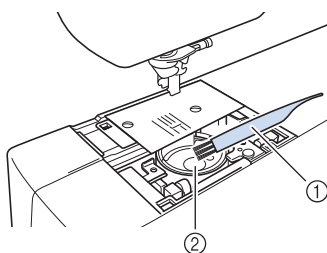
① 針板カバー

7 内かまを取り出します。



① 内かま

8 付属のミシンブラシや掃除機で、外かまの周辺の糸くずやほこりを取り除きます。

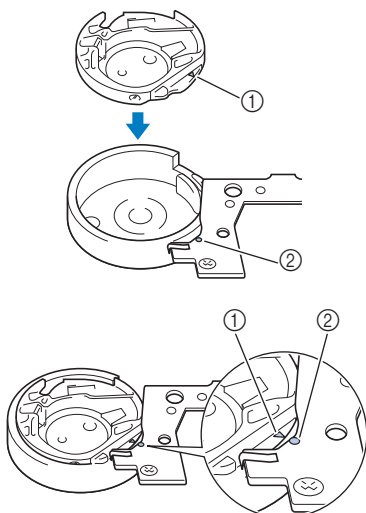


① ミシンブラシ

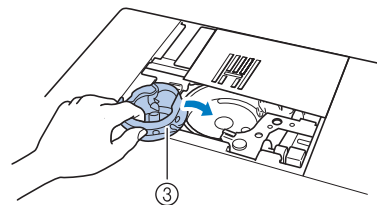
② 外かま

- 内かまに油をささないでください。

9 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。



- ▲印と●印を合わせます。



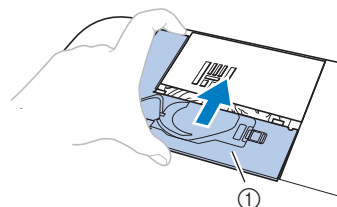
① ▲印

② ●印

③ 内かま

- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

10 針板カバーの突起を針板に差し込み、そのままミシンに取り付けます。



① 針板カバー

! 注意

- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

困ったとき

ミシンが思いどおりに動かないときは、修理を依頼する前に次の項目および弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）（<http://support.brother.co.jp/>）の「よくあるご質問（Q&A）」を確認してください。
それでも改善されない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

よくあるご相談

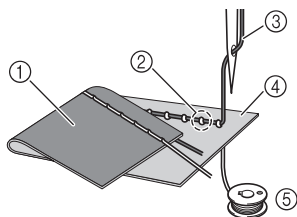
以下のよくあるご相談については、詳しい原因と対処方法を記載しております。お問い合わせの前にご確認ください。

上糸がつる	A-4 参照
布裏で糸がからまる	A-5 参照
糸調子が合わない	A-6 参照
布がミシンに入り込んでとれなくなった	A-7 参照
ボビン受け座の下に糸がからまってしまった	A-10 参照
液晶画面に「E06」が表示される	A-11 参照

上糸がつる

■ こんなとき

- 上糸がピンと一本線になっている。
- 布地の上側の面に下糸がポツポツと出ている（下図参照）。
- 上糸がつっていて、引くと抜けてしまう。
- 上糸がつっていて、布にしわがよってしまう。
- 上糸が強く、糸調子を調節してぬい直してもまったく変わらない。



- ① 布地の下側の面
- ② 布地の上側の面に下糸が出ている
- ③ 上糸
- ④ 布地の上側の面
- ⑤ 下糸

■ 原因

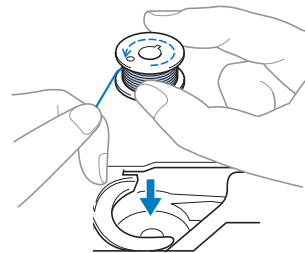
下糸のセットがまちがっている

下糸のセットがまちがっていると、下糸に適正な張力が加わらず、上糸が引き上げられる際に布地まで一緒に引っぱられてしまいます。そのため、布地の上に糸が出てしまいます。

■ 対処方法／確認内容

下糸を正しくセットなおします。

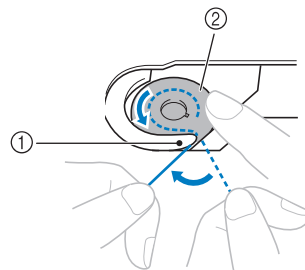
- 1 電源を切ります。
- 2 いったんボビンを内かまから取り出します。
- 3 糸が正しい方向から出るように、ボビンを内かまにセットします。
 - 糸が必ず左巻きになるように、右手でボビンを持ち、左手で糸端を持ちます。そのまま右手でボビンを内かまに入れます。



糸が逆方向から出た状態でボビンをセットすると、正しい糸調子でぬうことができません。

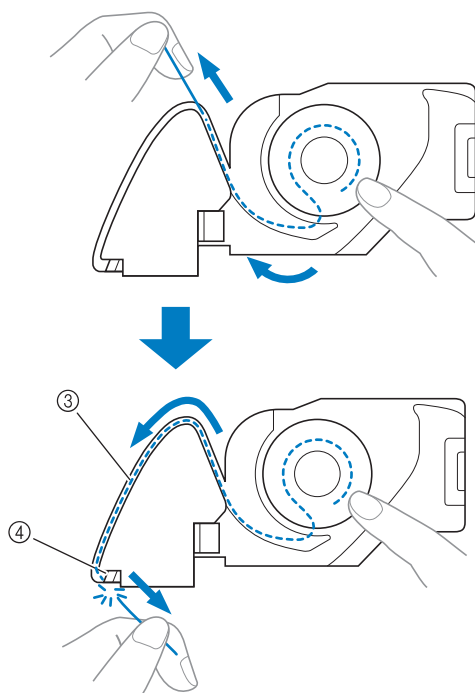
- 4 ボビンを指で押さえながら糸を針板のミゾに通します。

- 右手でボビンを押さえ、左手で巻き終わりの糸をツメに引っかけます。



- ① ツメ
- ② 右手でボビンを押えます。

糸を引っ張りながら針板のミゾにそって糸を通し、最後に手前に引いてカッターで糸を切ります。



③ ミゾ

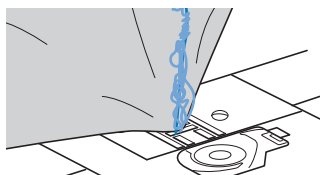
④ カッター

内かまにボビンの糸を正しくセットしなければ、正しい糸調子で縫うことができません。

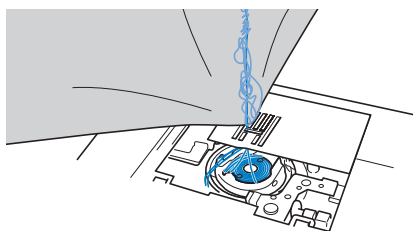
布裏で糸がからまる

■ こんなとき

- 布の下側で糸がグチャグチャにからんでしまう。



- ぬい始めるとすぐにガタガタと音がして進まなくなる。
- 布地の下側を見ると、かまの中まで糸が何重にもからまっている。



■ 原因

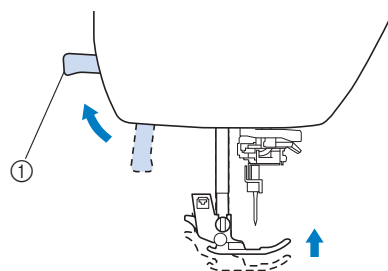
上糸のセットがまちがっている

上糸のセットがまちがっていると、布地を貫通した上糸をしっかり引き上げることができず、かまの中に上糸がたまり、グチャグチャにからんでしまいます。

■ 対処方法／確認内容

からんだ糸を取り除き、上糸をセットしなおします。

- 1 からんだ糸を取り除きます。取れない場合は、はさみで糸を切ります。
 - A-2の「かまの掃除」を参照してください。
- 2 いったん上糸をミシンから取り外します。
 - ボビンを内かまから取り出した場合は、「基本機能編」の「下糸をセットする」、およびA-4の「上糸がつる」の「対処方法／確認内容」を参照して、正しくボビンをセットしてください。
- 3 以下の手順に従って、上糸をもう一度セットしなおします。押えレバーを使って押えを上げます。



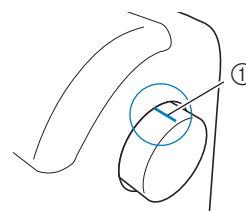
① 押えレバー

→ シャッターが開いて、糸通しできるようになります。

- 押えが上がっていなければ、正しく糸通しできません。

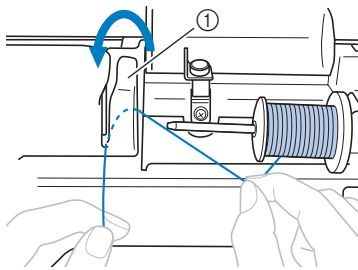
- 4 ⬆ (針上下スイッチ) を1回か2回押して針を上に戻します。

→ 針が確実に上がっているときは、プーリーのしるしが、下の図のように上になります。必ず、プーリーのしるしが上になっていることを確認してください。上になっていない場合は、⬆ (針上下スイッチ) を押して、上にしてください。



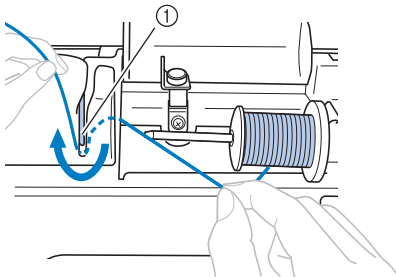
① プーリーのしるし

- 5** 引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、左手で糸案内カバーにかけます。



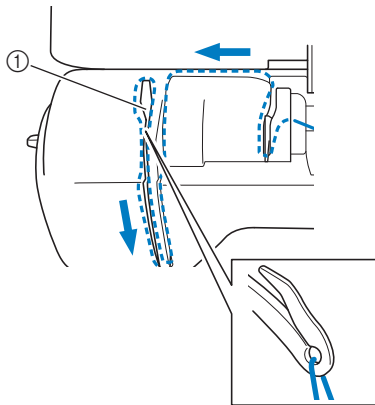
① 糸案内カバー

- 6** 引き出した糸がたるまないように右手で糸を持ち、糸案内板の下から上へ糸をかけます。



① 糸案内板

- 7** 矢印のように、ミゾに沿って糸を通します。

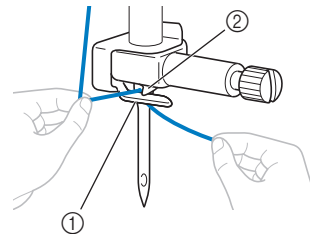


① シャッター

- 8** 電源を切ります。

- 9** 針棒糸かけに糸をかけます。

下の図のように左手で糸を押さえ、右手で糸端を持ってかけるとかけやすくなります。
糸が針棒糸かけの突起の内側に入っていることを確認してください。



① 針棒糸かけ
② 突起

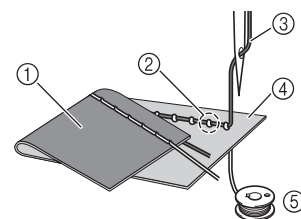
- 10** 糸通しレバーを使って、針に糸を通します。
「基本機能編」の「針に糸を通す」の手順にしたがって、糸を通します。

糸調子が合わない

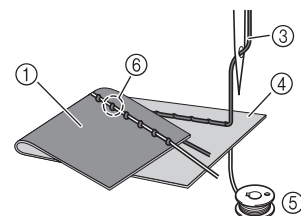
■ こんなとき

- ・ 症状① 布地の上側にポツポツと下糸が出ている。(下図参照)
- ・ 症状② 布地の上側で上糸が直線になる。
- ・ 症状③ 布地の下側にポツポツと上糸が出ている。(下図参照)
- ・ 症状④ 布地の下側で下糸が直線になる。
- ・ 症状⑤ 布地の下側のぬい目がゆるい、またはたるむ。

□ 症状①



□ 症状③



- ① 布地の下側の面
② 布地の上側の面に下糸が出ている
③ 上糸
④ 布地の上側の面
⑤ 下糸
⑥ 布地の下側の面に上糸が出ている

■ 原因／対処方法／確認内容

□ 原因 1

糸が正しくミシンにセットされていない。

＜症状①、②に該当する場合＞

下糸が正しくセットされていません。

上糸調子ダイヤルを「自動」に戻し、A-4 の「上糸がつる」を参照してセットし直します。

＜症状③～⑤に該当する場合＞

上糸が正しく通っていません。

上糸調子ダイヤルを「自動」に戻し、A-5 の「布裏で糸がからまる」を参照して上糸をかけ直します。

□ 原因 2

布地に合った糸や針を使用していない。

ミシン針は布地の種類や糸の太さによって使い分けが必要です。

布地に合った糸と針を使用しないと、糸調子が合わなかったり、布地にしわが寄ったり、目とびの原因になったりします。

- 「基本機能編」の「布地と糸の種類による針の種類と使い分け」の一覧表を参照して、布地に合った糸と針を使用しているか確認してください。

□ 原因 3

上糸調子の設定値が適正でない。

適正な糸調子になるように調節します。

使用する布地／糸の種類やぬい方によって、適正な糸調子は異なります。

「基本機能編」の「糸調子を調節する」を参照してください。

- 実際にお使いになる布地の端切れで試しぬいをし、糸調子を調節してください。

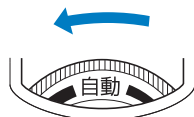


お願い

- 上糸の通し方や下糸のセットが正しくされていない場合は、糸調子の調節が正しく行えません。上糸かけ、下糸セットの確認を先に行ってから、糸調子の調節を行ってください。

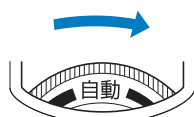
● 布地の上側に下糸が見える場合

糸調子ダイヤルを左に回して、糸調子を弱くします。



● 布地の下側に上糸が見える場合

糸調子ダイヤルを右に回して、糸調子を強くします。



布がミシンに入り込んでとれなくなった

布がミシンに入り込んでとれない場合、糸が針板の下でからんでいることがあります。以下の手順で、布をミシンから取り外してください。操作が手順どおりに進まない場合は、無理に作業を続けず、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ 布をミシンから取り外す

1 直ちにミシンを停止させます。

2 電源を切ります。

3 針を取り外します。

針が布に刺さっている場合は、プーリーを奥側に回して針を布から外してから、針を取り外してください。

- 「基本機能編」の「針の交換」を参照してください。

4 押えと押えホルダーを取り外します。

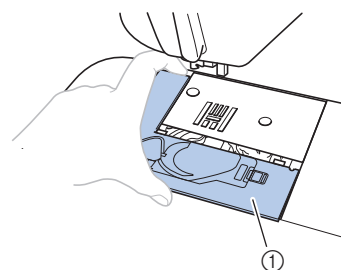
押えに糸がからみついている場合は、からんだ糸を取り除いてから、押えレバーを上げて押えを取り外してください。糸がからんだまま、押えレバーを上げると、押えが破損するおそれがあります。

- 「基本機能編」の「押えを交換する」「押えホルダーを取り外す／取り付ける」を参照してください。

5 布を持ち上げて、布の下糸を切ります。

ここで布を取り外すことができる場合は、取り外してください。次の手順へ進み、かまの掃除をします。

6 針板カバーを外します。



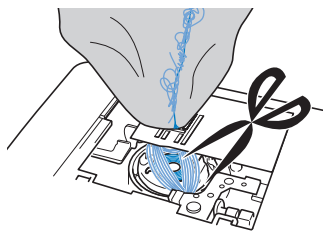
① 針板カバー

- A-2 の「かまの掃除」を参照してください。

A

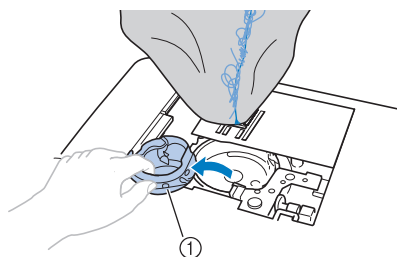
お手入れ／困ったときには

- 7** からんだ糸を切ってボビンを取り出します。



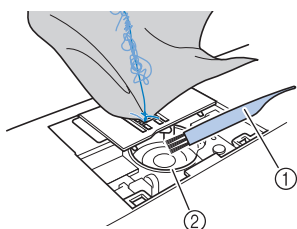
- 8** 内かまを取り出します。

内かまに糸が残っている場合は、取り除いてください。



① 内かま

- 9** 付属のミシンブラシや掃除機で、外かま周辺の糸くずやほこりを取り除きます。



① ミシンブラシ

② 外かま

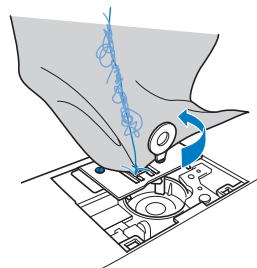
ここまでの手順で布を取り外せた場合	→ 手順 16 に進む
ここまでの手順で布が取り外せない場合	→ 手順 10 に進む



お願い

• エアダスターの使用はおすすめできません。

- 10** 付属のネジ回しを使って、針板の2つのネジを取り外します。

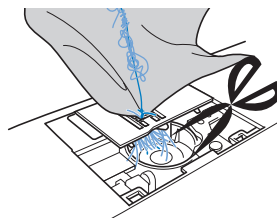


お願い

• 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 11** 針板を少し持ち上げ、絡んだ糸を切って、針板を取り外します。

針板から布と糸を取ります。



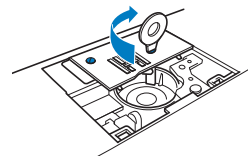
ここまでの手順を終えても布が取り外せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室 (ミシン 119 番)」にご相談ください。

- 12** かまや送り歯のまわりの糸を取り除きます。

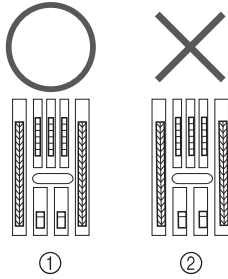
- 13** プーリーを回して、送り歯を上になげます。

- 14** 針板の2つのネジ穴を針板取付け部の2つの穴に合わせながら、ミシンに針板をはめ込みます。

- 15** 針板の右側のネジを手で軽くしめます。次に、左側のネジをネジ回しでしっかりしめます。最後に右のネジもしっかりしめます。



プーリーを回して、送り歯が針板のミゾの端に当たらず、スムーズに動くことを確認してください。



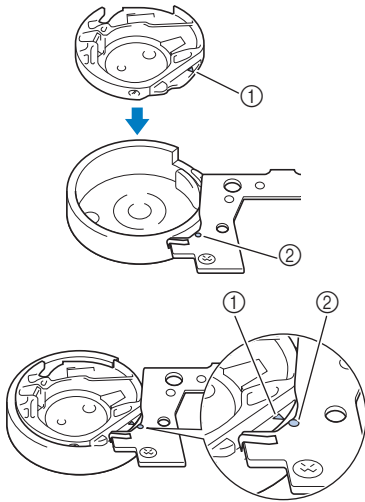
- ① 正しい送り歯の位置
② 正しくない送り歯の位置



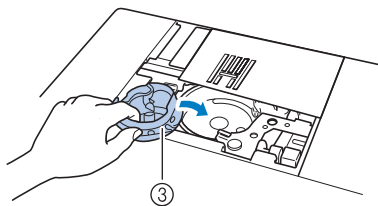
お願い

- 取り外したネジを、ミシンの中に落とさないように注意してください。

- 16** 内かまの ▲ 印とミシンの ● 印が合うように、内かまを取り付けます。



- ▲ 印と ● 印を合わせます。



- ① ▲ 印
② ● 印
③ 内かま

- 合わせる位置を確認してから、取り付けを行ってください。

⚠ 注意



- 傷がついた内かまは使用しないでください。万一使用すると、上糸がからみ、針折れや縫製不良の原因となります。新しい内かまが必要な場合は、最寄りの販売店でお買い求めください。
- 内かまは正しい位置に取り付けてください。針折れの原因となります。

- 17** 針板カバーを取り付けます。(A-2の「かまの掃除」の手順⑩を参照してください。)

- 18** 針の状態を確認して、針をミシンに取り付けます。

曲がっているなど針が悪くなっている場合は、必ず新しい針を取り付けてください。

- 「基本機能編」の「正しい針の見分け方」「針の交換」を参照してください。

⚠ 注意



- 曲がった針は絶対に使用しないでください。針折れの原因になります。



お願い

- ここまでの手順を終えたあとは、ミシンが正しく動くように、以降の「ミシンの動作を確認する」の手順を続けてください。



お知らせ

- 布がミシンに入り込んだ際に、針が損傷しているおそれがありますので、新しい針に交換することをお勧めします。

■ ミシンの動作を確認する

針板を取り外したあとは、正しく取り付けられていることを確認するために、ミシンの動作確認をしてください。

- 1** 電源を入れます。

- 2** 中基線の模様  を選択します。



お願い

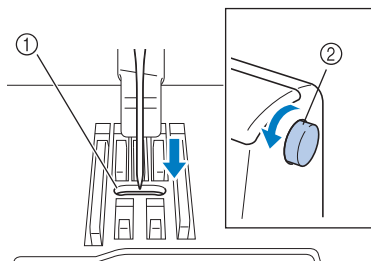
- 押えと糸は、まだミシンにセットしないでください。

A

お手入れ／困ったときには

- 3** プーリーをゆっくりと手前に回し、針が針板の穴の中央に落ちることを左右前後から見て確認します。

針が針板に当たる場合は、もう一度針板を取り外し、A-7の「布をミシンから取り外す」の手順⑬からやり直してください。



- ① 針板の穴
② プーリー

- 4** ジグザグ模様を選択します。このとき、ぬい目の長さとジグザグの振り幅を最大にしてください。

- 設定の変更については、「基本機能編」の「振り幅を調節する」「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

- 5** プーリーをゆっくりと手前に回し、針棒と送り歯が正しく動くことを確認します。

針や送り歯が針板に当たる場合は、ミシンの故障が考えられますので、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

- 6** 電源を切ってから、ボビンと押えをセットします。

押えに傷が付いたり破損した場合は、その押えは使用しないでください。そのまま使用すると、針折れや縫製不良の原因となります。新しい押えをお買い上げの販売店でお買い求めください。

- 「基本機能編」の「下糸をセットする」「押えを交換する」を参照してください。

- 7** 上糸をかけなおします。

- 「基本機能編」の「上糸通し」を参照してください。



お知らせ

- 上糸が正しくセットされていない場合は、糸がらみの原因になります。正しく上糸をセットしてください。

- 8** 普通地で試しぬいをします。

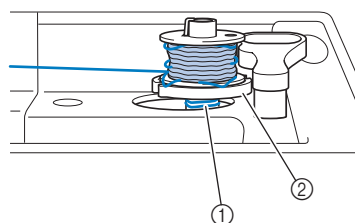


お願い

- 正しくぬえない場合、原因として、上糸が正しくセットされていないことや薄い布地を使用していることが考えられます。試しぬいの仕上がりが良くない場合は、上糸のかけ方やお使いの布地を確認してください。

ボビン受け座の下に糸がからまってしまった

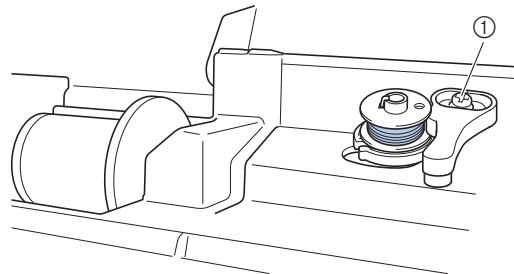
糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていない状態で下糸を巻くと、ボビン受け座の下に糸が巻かれてしまうことがあります。そうなった場合は、以下の手順に従ってボビン受け座の下に巻かれた糸をほどいてください。



- ① 糸
② ボビン受け座

⚠ 注意

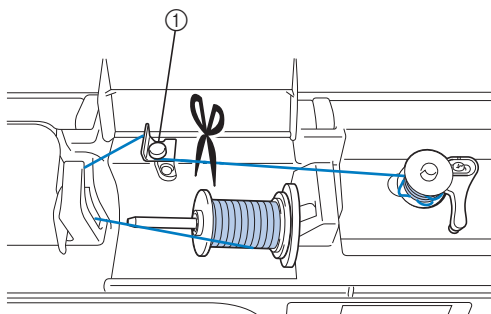
- ボビン受け座の下に糸が巻かれても、ボビン受け座は外さないでください。受け座のカッターでけがをするおそれがあります。
- ボビンホルダーのネジは外さないでください。外すと、ミシンが故障するおそれがあります。ネジを外しても、糸はほどけません。



- ① ボビンホルダーのネジ

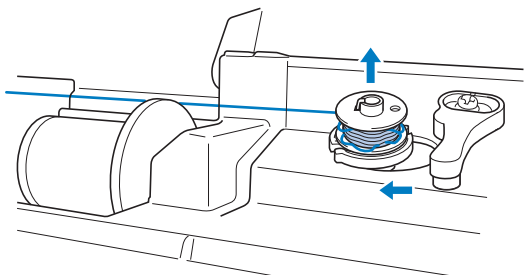
- 1 ボビン受け座の下に下糸がからまり始めたら、スタート/ストップスイッチを1回押して下糸巻きを停止します。
フットコントローラーで操作している場合は、フットコントローラーから足を離します。

- 2 下糸巻き案内側で、はさみで糸を切ります。

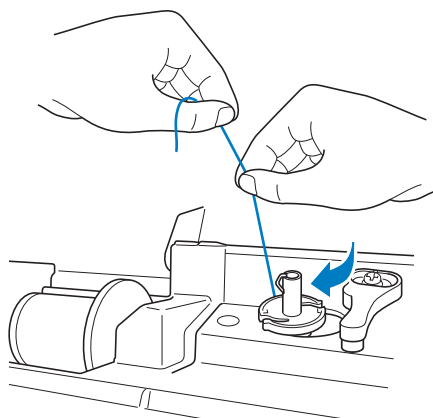


① 下糸巻き案内

- 3 ボビンを左側へ戻し、下糸巻き軸からボビン抜きを抜きます。ボビンと軸の間に糸を切り、ボビンを軸から完全に取り外します。



- 4 図のように左手で糸端を持ち、右手でボビン近くの糸をゆっくりと時計回りに回して、からまった糸をほどきます。



- 5 下糸巻きをやり直します。



お願い

- 糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。

液晶画面に「E06」が表示される

以下の症状とともに、液晶画面にエラーメッセージ「E06」が表示された場合は、手順に従って問題を解決してください。

■ こんなとき

- 症状① ミシンがガタガタと音をたて、ぬい始めてすぐに止まってしまう。
- 症状② 上糸が外かまなどにからまったり、布地がミシン内にひっかかったりしている。
- 症状③ 針が折れたり、曲がったりして、針板に当たっている。
- 症状④ 布が送られない。

■ 症状① ミシンがガタガタと音をたて、ぬい始めてすぐに止まってしまう。

□ 原因

- 上糸のセットが間違っている。
- てんびんに糸がかかっていない。
- ぬい始めてすぐにミシンが止まってしまう場合、上糸のセットが間違っていることがあります。



お願い

- 針が上がっていない場合は、上糸を正しくセットすることはできません。上糸をセットする前に、必ず④(針上下スイッチ)を押して針を上げてください。

□ 対処方法

以下の手順に従って、上糸を正しくセットしなおしてください。

- 1 電源を切ります。

- 2 糸がからまっている場合は、からまった糸を取り除きます。

- A-2の「かまの掃除」と、A-5の「布裏で糸がからまる」を参照してください。

A

お手入れ/困ったときには

③ 上糸をミシンから取り外します。

④ プーリーを手前に回して、スムーズに動くことを確認します。

プーリーがスムーズに動く	→ 手順 ⑩ に進む
プーリーがスムーズに動かない	→ 手順 ⑤ に進む

⑤ 針板カバーを外して、ボビンと内かまを取り外します。

⑥ 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。

- A-2 の「かまの掃除」を参照してください。

⑦ 針板カバーを取り付けます。

- A-2 の「かまの掃除」を参照してください。

⑧ 内かまにボビンをセットします。

- A-2 の「かまの掃除」を参照してください。

⑨ 針が曲がっている場合、新しい針に交換してください。

- 「基本機能編」の「針の交換」を参照してください。

⑩ 電源を入れて、⓪ (針上下スイッチ) を押して針を上げます。

- 「基本機能編」の「上糸通し」を参照してください。

⑪ ミシンに糸を正しくセットします。

- ミシンの糸通しについて詳しくは、「基本機能編」の「上糸通し」を参照してください。

■ 症状② 上糸が外かまなどからまったり、布地がミシン内にひっかかったりしている。

□ 原因

針板の下で糸がからまっている。

□ 対処方法

以下の手順に従って、布を取り除き、上糸と下糸をセットしなおします。

① 電源を切ります。

② ミシンから布地を取り除きます。

- A-7 の「布がミシンに入り込んでとれなくなった」を参照してください。

③ 上糸と下糸を取り除きます。

- A-7 の「布がミシンに入り込んでとれなくなった」を参照してください。

④ 内かまを取り外します。

- A-7 の「布がミシンに入り込んでとれなくなった」を参照してください。

⑤ 内かまに糸くずが残っている場合、取り除きます。

- A-7 の「布がミシンに入り込んでとれなくなった」を参照してください。

⑥ 内かまの▲印とミシンの●印が合うように、内かまを取り付けます。

- A-2 の「かまの掃除」を参照してください。

⑦ 針板カバーを取り付けます。

- A-2 の「かまの掃除」を参照してください。

⑧ 内かまにボビンをセットします。

- A-2 の「かまの掃除」を参照してください。

⑨ 針が曲がっている場合、新しい針に交換してください。

- 「基本機能編」の「針の交換」を参照してください。

⑩ 電源を入れて、⓪ (針上下スイッチ) を押して針を上げます。

- 「基本機能編」の「上糸通し」を参照してください。

⑪ ミシンに糸を正しくセットします。

- ミシンの糸通しについて詳しくは、「基本機能編」の「上糸通し」を参照してください。

■ 症状③ 針が折れたり、曲がったりして、針板に当たっている。

□ 原因

布地と糸、針を正しい組み合わせで使用していない。

□ 対処方法

布地の種類に合った糸、針を選びます。

- 「基本機能編」の「布地と糸の種類による針の種類と使い分け」を参照してください。

■ 症状④ 布が送られない。

□ 原因 1

ぬい目が細かすぎて糸がダメになった。

□ 対処方法 1

ぬい目の長さを長くします。

- 「基本機能編」の「振り幅を調節する」と「ぬい目の長さを調節する」を参照してください。

□ 原因 2

送り歯が下がっている。

□ 対処方法 2

送り歯を上げます。

- 「実用ぬい編」の「フリーモーションキルト」を参照してください。

A

お手入れ／困ったときには

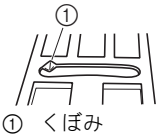
こんなときは

修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。それでも直らないときは、お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ めう前の準備

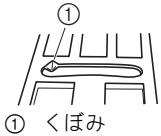
症状	原因	対処	参照ページ
糸通しができない 針穴に糸が通らない	針が正しい位置にない。	針上下スイッチを押して針を上げます。	B-3
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-22
	針が曲がっている。	新しい針に交換します。	B-22
	上糸の通し方がまちがっている。	上糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-16
	糸通しフックが曲がっていて針穴に通っていない。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	糸通し装置が動かない。糸通し装置が戻らない。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—
	9 番の針を使っている。	糸通し装置に対応しない針です。手で糸を針穴に通してください。	B-19
下糸がボビンにきれいに巻けない	下糸巻き案内に糸がしっかりかかっていない。	下糸巻き案内に糸をしっかりとかけます。	B-10
	ボビンの回転が遅い。	スピードコントロールレバーを「はやく」にします。	B-10
	引き出した糸を正しく巻き付けていない。	引き出した糸は、時計回りに 5 ～ 6 回ボビンに巻き付けます。	B-10
	ボビンが下糸巻き軸に正しくセットされていない。	ボビンのミゾと下糸巻き軸のバネの位置を合わせて、ボビンをカチッと音がするまで押し込みます。	B-10
下糸巻き中、ボビン受け座の下に下糸が巻かれた	下糸の巻き方がまちがっている。	受け座の下に巻かれた糸をほどいた後、下糸を正しく巻きます。糸が下糸巻き案内の皿の下に確実に通っていることを確認してください。	B-10, A-10
下糸を引き出すことができない	針が曲がっている。	新しい針に交換します。	B-22
	下糸のセットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-13
液晶画面に何も表示されない	電源スイッチが入っていない。	電源スイッチを入れます。	B-7
	電源プラグがコンセントに差し込まれていない。	電源プラグをコンセントに差し込みます。	B-7
液晶画面がくもる	液晶画面が結露している。	少し待つと、くもりはなくなります。	—
操作キーを押しても動かない	手袋をはめた手でキーを押している。 つめでボタンを押している。 静電容量式に対応していないタッチペンを使っている。	- 操作キーは指で直接押してください。 - 市販のタッチペンを使用するときは、静電容量式に対応したものを使用してください。	B-4
操作キーを押しても動かない、またはキーの反応が強すぎる	操作キーの感度が、使用される方に合っていない。	操作キーの感度を調節します。	B-9
ライトが点灯しない	ライトが故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	—

■ ぬっているとき

症状	原因	対処	参照ページ
ミシンが動かない	スタート/ストップスイッチを押していない。	スタート/ストップスイッチを押します。	B-26
	下糸巻きを行った後、下糸巻き軸が右側のままになっている。	下糸巻き軸を左側に戻します。	B-10
	押えが下がっていない。	押えを下げます。	B-26
	フットコントローラーを接続したままスタート/ストップスイッチを押している。	フットコントローラーを接続しているときは、スタート/ストップスイッチは使用できません。フットコントローラーを使ってミシンを操作してください。スタート/ストップスイッチを使用する場合は、フットコントローラーを取り外してください。	B-28
	スピードコントロールレバーがジグザグの振り幅を調節するように設定されている（「振り幅コントロール」がONになっている）ときに、スタート/ストップスイッチを押している。	スタート/ストップスイッチではなく、フットコントローラーを使って、ミシンを操作します。または、  を押して「振り幅コントロール」を解除します。	B-8, B-28, S-25
針が折れる	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-22
	針のとめネジがゆるんでいる。	とめネジをしっかりとめます。	B-22
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-22
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-21
	模様にあった押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-25
	上糸調子が特に強すぎる。	糸調子を調節します。	B-33
	布地を不当に引っ張っている。	布地を引っ張らないようにします。	—
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまの付け方を確認して、付け直します。	B-10
	針板の穴の周辺にキズがある。 ※ 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。 	針板を交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-7
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	B-24
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。最寄りの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-2
	針が劣化・消耗している。	新しい針に交換します。	B-22
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	B-10
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-16
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-13
	押えの取り付けがまちがっている。	押えを正しく取り付けます。	B-24
	押えホルダーのネジがゆるんでいる。	押えホルダーのネジを確実にしめます。	B-25
	布地が厚すぎる。	ブーリーを手で回して針が布地に通ることを確認してください。	B-21, S-4
	厚い布地などを縫製中に布地を押しこんでいる。	無理に布地を押しこまないようにしてください。	S-4
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目をあらくします。	B-32
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-10

A

お手入れ/困ったときには

症状	原因	対処	参照ページ
上糸が切れる	上糸の通し方がまちがっている（糸こまが正しくセットされていない、糸こま押えの大きさが合っていない、糸が針棒糸かけから外れているなど）。	糸を正しく通します。	B-16
	糸にこぶや結び目がある。	糸のこぶや結び目を取り除きます。	—
	針に比べて糸が太すぎる。	針と糸の組み合わせを確認します。	B-21
	上糸調子が強すぎる。	糸調子を調節します。	B-33
	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-5
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-22
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-22
	針板の穴の周辺にキズがある。 ※ 針板の穴の左端には、くぼみが設けられています。この部分はキズではありません。  ① くぼみ	針板を交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-7
	押えの穴の周辺にキズがある。	押えを交換します。お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	B-24
	内かまにキズがある。	内かまを交換します。最寄りの販売店または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-2
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-21
	糸が結ばれたり、からんだりしている。	上糸と下糸を通しなおします。	B-10, B-16
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	B-10
布裏で糸がからまる	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-16, A-5
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-21
上糸がつる	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-13, A-4
下糸が切れる	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-13
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-10
	ボビンにキズがあり、回転がなめらかでない。	ボビンを交換します。	B-13
	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-7
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	B-10
布地にしわがよる	上糸の通し方、または下糸のセットのしかたがまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。または、下糸を正しくセットします。	B-13, B-16
	糸こまが正しくセットされていない。	糸こまの付け方を確認して、付け直します。	B-11
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-21
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-22
	薄地に対してぬい目があらずすぎる。	ぬい目を細かくします。	B-32
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-33
	模様合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-25

症状	原因	対処	参照ページ
ぬい目がとぶ	糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-16
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-21
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-22
	針の取り付け方がまちがっている。	針を正しく取り付けます。	B-22
	針が劣化・消耗している。	新しい針に交換します。	B-22
	針板の下にゴミがたまっている。	ミシンブラシなどでゴミを取り除きます。	A-2
	薄い布地や伸びる布地をぬっている。	布地の下に薄い紙をしいてぬいます。	S-4
ぬい目ができない	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-22
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸を正しくセットします。	B-13
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-16
ぬい音が高い ガタガタと音がする	送り歯にゴミがたまっている。	ゴミを取り除きます。	A-2
	かまの部分に糸くずが巻きこまれている。	かまの掃除をします。	A-2
	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-16
	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。 本機純正ボビンを使用してください。	B-10
	内かまに針が刺さった穴やスリキズがある。	内かまを交換します。最寄りの販売店または 「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-2
布地を送らない	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	B-2
	ぬい目が細かすぎる。	ぬい目の長さを長くします。	B-32
	模様にあった押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-25
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-22
	糸がからまっている。	かまなどにからんだ糸をはさみなどで切って取り除きます。	A-7
	ぬい始めに段差があって、ジグザグ押えが傾いている。	ジグザグ押え<J>の押え固定ピンで押えを水平にしてぬいます。	S-4
布地が逆方向に送られる。	送り機構が故障した。	お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	-
針が針板に当たる	針のとめネジがゆるんでいる。	針のとめネジをしっかりとめます。針が曲がっている場合や針先がつぶれている場合は新しい針に交換します。	B-22
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-22
布がミシンに入り込んでとれない	糸が針板の下でからんでいる。	布を持ち上げて、布の下糸を切ります。次にかまの掃除をします。	A-7
折れた針がミシンの中に落ちた	-	ミシンの電源を切ってから、針板を外します。ミシンの中に落ちた針が見える場合は、ピンセットなどで取り出します。針を取り出したら、針板を元に戻します。 電源を入れる前に、プーリーを手でゆっくり手前に回してなめらかに回るか確認してください。プーリーがなめらかに回らない場合やミシンの中に落ちた針を取り出せない場合は、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。	A-7
プーリーを回したときに重い	糸がかまなどにからんでいる。	かまにからんだ糸を取り除きます。内かまを正しい位置に取り付けなおします。	A-5, A-7
模様が正しくぬえない	模様にあった押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-25
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-33, A-6
	内かまなどで糸がからまっている。	からまった糸を取り除きます。内かまにからんでいる場合は、かまを掃除します。	A-7
	送り歯が下がっている。	ドロップレバーを右（▲▲）に動かします。	B-2

A

お手入れ／困ったときには

■ 仕上がり

症状	原因	対処	参照ページ
糸調子が合わない	上糸の通し方がまちがっている。	糸を通す順序を確認して、通し直します。	B-16
	下糸セットのしかたがまちがっている。	下糸をセットし直します。(針板を取り外した場合は、針板を取り付けし直し、内かまを取り付ける前に針板のネジを確実にしめます。)	B-13, A-2
	布地に合った針・糸を使っていない。	布地と糸と針の組み合わせ表を見て確認します。	B-21
	押えホルダーが正しく取り付けられていない。	押えホルダーを正しく取り付けます。	B-25
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-33, A-6
	下糸が正しく巻かれていない。	下糸を正しく巻きます。	B-10
	針が曲がっていたり、針先がつぶれている。	新しい針に交換します。	B-23
模様がかくずれる	本機純正のボビンを使用していない。	厚みの違うボビンでは正しく動作しません。本機純正ボビンを使用してください。	B-10
	模様に合った押えを使用していない。	指定の押えを取り付けます。	B-25
	薄地や伸びる布地をぬうときに、布地の下に刺しゅう用水溶性シート（不織布タイプ）などをしている。	布地の下に刺しゅう用水溶性シート（不織布タイプ）などをし、布地と一緒にぬいます。	S-4, S-5
	糸調子が合っていない。	糸調子を調節します。	B-33, A-6
	ぬっている途中で布地を引っ張ったり押さえたり、布地がずれたりしている。	布地がまっすぐ送られるように、布に手を軽く添えてぬいます。	B-26
	糸がからまって、かまなどに詰まっている。	からんだ糸を取り除きます。かまに詰まっていた場合は、掃除します。	A-7

エラーメッセージ

ミシンを正しく準備する前にスタート/ストップスイッチを押した場合や、誤った操作をした場合は、液晶画面にエラーメッセージが表示されます。表示に従って対処してください。エラーメッセージが表示されている間に、いずれかの操作キーを押すとメッセージが消えます。

	エラーメッセージ	原因	対処
1	E01	押えが上がっているときに、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押した。	押えを下げてから操作してください。
2	E02	ボタン穴かがりレバーが下がっているときに、ボタン穴かがり以外の模様を選択して、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押した。	ボタン穴かがりレバーを上げてから操作してください。
3	E03	ボタン穴かがりレバーが上がっているときに、ボタン穴かがり模様を選択して、スタート/ストップスイッチなどのスイッチを押した。	ボタン穴かがりレバーを下げてから操作してください。
4	E04	下糸巻き軸を右に移動させているときに、返しぬいスイッチなどのスイッチを押した。	下糸巻き軸を左に移動させてから操作してください。
5	E05	フットコントローラーを取り付けた状態で、スタート/ストップスイッチを押した。	フットコントローラーを外して、スタート/ストップスイッチを操作してください。または、フットコントローラーをつけたまま足で操作してください。
6	E06	上糸がかまにからんだり、針が曲がって針板に当たったなどでミシンが停止した。	かまの掃除をして、からまった糸を取り除いてください（A-2 参照）。 針を確認して、もし針が曲がったり折れたりしている場合は、交換してください。詳細は、「基本機能編」の「正しい針の見分け方」と「針の交換」を参照してください。 どちらの方法でも対処できない場合は、A-11 の「液晶画面に「E06」が表示される」を参照してください。

	エラーメッセージ	原因	対処
7	E08	振り幅コントロールが有効になっている状態で、スタート/ストップスイッチを押した。	振り幅コントロールキー  を押して、振り幅コントロールの設定を解除してください。操作パネルに表示されていた  が消え、スタート/ストップスイッチで操作できるようになります。(S-25)
8	E10	直線針板を取り付けた状態で、直線ぬい（中基線）以外の模様でぬおうとしている。	電源を切り、針板を交換してから操作してください。
9	E11	電源が入った状態で針板カバーを取り外した。	電源を切り、針板カバーを取り付けてから操作してください。
10	F**	液晶画面に「F**」が表示された場合は、ミシンが故障していることが考えられます。	お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」にお問い合わせください。

電子音

キーを操作しているときや、誤った操作をしたときなどに、電子音が鳴ります。

■正しい操作をしたとき

「ピッ」と鳴ります。

■誤った操作をしたとき

「ピッピッ」または「ピッピッピッピッ」と鳴ります。

■糸がからむなど、ミシンがロックしたとき

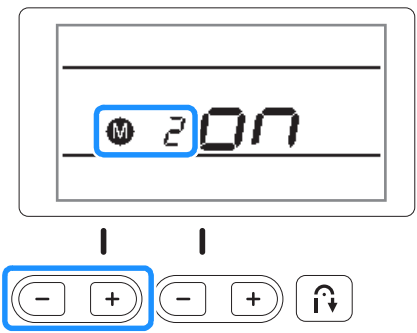
「ピッピッピッ・・・」と4秒間鳴り続け、ミシンは自動的に止まります。
必ず原因を確認して改善してから、縫製を再開してください。

■電子音を消したいとき

- 1
- 電源を切ります。
- 2
- ⓪(止めぬいスイッチ)を押しながらミシンの電源を入れてください。

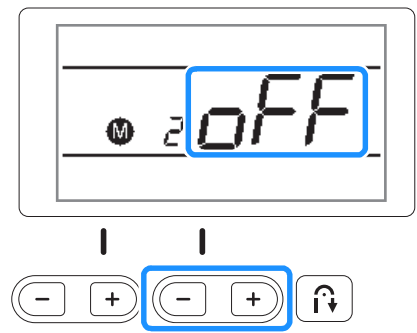
- 3
- +

を押して、「M 2」を選択します。



- 4
- +

を押して、「OFF」に設定します。



- 5
- 電源を切り、もう一度電源を入れ直します。

仕様

項目	仕様
本体寸法	CPH03/CPH13 シリーズ：44.4cm (幅) ×24.0cm (奥行き) ×30.0cm (高さ) CPJ13/CPJ16 シリーズ：44.4cm (幅) ×24.7cm (奥行き) ×30.0cm (高さ)
製品質量	CPH13 シリーズ：8.5kg CPH03/CPJ13 シリーズ：8.4kg CPJ16 シリーズ：8.6kg
ぬい速度	毎分 70 ～ 850 針
針	家庭用 ミシン針 (HA×1)
定格電圧／消費電力	100V (50-60Hz) /55W
ライト	白色 LED

* 仕様は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。

索引

あ

厚い布地をぬう	S-4
アップリケ	S-21

い

糸案内板	B-2
糸切り	B-2, B-28
糸切りスイッチ	B-3
糸こま押え	B-2, B-11
糸こまネット	B-11
糸たて棒	B-2, B-10, B-17
糸調子	B-33, A-6
糸調子ダイヤル	B-2
糸通し	
上糸通し	B-16
手で針に糸を通す	B-19
針に糸を通す	B-18
糸通し装置	B-18
糸通しレバー	B-2, B-18

う

上糸	B-16
上ふた	B-2
ウォーキングフット	S-5, S-23
薄い布地をぬう	S-4
内かま	B-3
セット	A-2
取り外し	A-2

え

液晶画面	
掃除	A-2
見方	B-8
エラーメッセージ	A-18

お

送り歯	B-3
押え	
交換	B-24
種類	B-25, B-34
押え圧ダイヤル	S-3
押えホルダー	
押えホルダーのネジ	B-3
取り付け	B-25
取り外し	B-25
押えレバー	B-2
お手入れ	A-2

か

カーブをぬう	S-2
返しぬい／止めぬい	B-29
返しぬいスイッチ	B-3, B-29
各部の名称とはたらき	B-2
かま	A-2
換気口	B-2

き

基本のぬい方	B-26
キルティング	S-23

く

クレイジーキルト	S-22
----------	------

こ

コツ	S-2
困ったとき	A-4

さ

サテンぬい	S-25
皿	B-12, A-10
3重ぬい模様	S-6, S-26

し

ジグザグの振り幅	B-32
ジグザグ模様	S-11, S-21
下糸	
引き出す	B-20
巻く	B-10
下糸巻き案内	B-2, B-10
下糸巻き装置	B-2
自動糸切り	B-31
丈夫にしたいところをぬう	S-26

す

すそ上げ	S-7
スタート／ストップスイッチ	B-3
スピードコントロールレバー	B-3, S-25
ズボンのすそ	S-2
スモッキング	S-27

せ

設定	
自動返しぬい／止めぬい	B-29
操作キーの感度	B-9
模様	B-32

そ

操作キー	B-4
操作スイッチ	B-3
操作パネル	B-2, B-4
掃除	
かま	A-2
画面の汚れ	A-2
ミシンの汚れ	A-2

た

台皿	S-13
たち目かがり	S-10, S-11
試しぬい	S-2

ち

直線模様	S-6, S-15
------	-----------

つ

筒もの	S-2
-----	-----

て

手で針に糸を通す	B-19
----------	------

電源コード	B-2, B-7
電源スイッチ	B-2, B-7
電子音	A-20

と

止めぬいスイッチ	B-3, B-29
トラブルシューティング	A-4
ドロップレバー	B-2, S-24

に

ニット用針	B-21
-------------	------

ぬ

ぬい方	
いろいろなぬい方	S-6
基本のぬい方	B-26
ぬいしろの幅をそろえる	S-3
ぬい目の長さ	B-32
ぬう方向を変える	S-2

の

伸びる布地をぬう	S-5
----------------	-----

は

パッチワーク	S-21, S-22
針	
糸通し	B-18
交換	B-22
正しい針の見分け	B-22
使い分け	B-21
針位置	S-6
針板	B-3
目盛り	S-3
針板カバー	B-3
針板ふた	B-3, B-13
針上下スイッチ	B-3
針棒糸かけ	B-3
ハンドル	B-2

ひ

ピーシング	S-22
ビニールや皮革をぬう	S-5

ふ

ブーリー	B-2
ファゴティング	S-27
ファスナーつけ	S-15
片返し	S-16
つき合わせ	S-15
ブザー	A-20
付属品	B-5
付属品収納スペース	B-4
フットコントローラー	B-28
フットコントローラージャック	B-2, B-28
フリーモーションキルト	S-24
振り幅	B-32

へ

別売品	B-5
-----------	-----

ほ

補助テーブル	B-2, B-4
ボタン穴かがり	S-12
ボタン穴かがりレバー	B-3, S-13
ほつれ止め	S-10

ボビン	
純正品	B-10
セット	B-13

み

ミシンの汚れ掃除	A-2
----------------	-----

め

メッセージ	A-18
-------------	------

も

模様	
設定	B-32
設定値	B-34
選択	B-26

り

リップパー	S-14
-------------	------

アフターサービス

修理を依頼するときや部品を購入するときは、お買い上げの販売店、または「お客様相談室（ミシン 119 番）」にお問い合わせください。

■ 保証書について

- ご購入の際、保証書にお買い上げ日、販売店名などが記入してあるかご確認の上、販売店で受け取ってください。保証書の内容をよくお読みいただき、大切に保管してください。
- 当社はこのミシンの補修用性能部品を、製造打ち切り後最低 8 年間保有しています。性能部品とは、その製品の機能を維持するために必要な部品です。
- 修理については、お買い上げの販売店、または下記の「お客様相談室（ミシン 119 番）」にご相談ください。

■ お客様相談室（ミシン119番）

本製品の使い方やアフターサービスについてご不明の場合は
お買い上げの販売店または「お客様相談室（ミシン119番）」までお問い合わせください。

〒467-8577 愛知県名古屋市瑞穂区苗代町15-1

お客様相談室（ミシン119番） Tel: 0570-061-134

お問い合わせ窓口 <https://s.brother/crgka/>

受付時間: 月曜日～金曜日 9:00～12:00 13:00～17:30

休業日: 土曜日、日曜日、祝日およびブラザー販売株式会社の休日

- お客様相談室（ミシン119番）は、ブラザー販売株式会社が運営しています。
- 機能および操作方法が機種によって異なるため、お問い合わせの際に「機種名」と「機械番号」をご連絡いただきますと、スムーズにお答えすることができます。
- ミシン背面の定格ハリマーク（銀色シール）の下記部分をご確認ください。



- ブラザー製品についてのご意見、ご要望は、お買い上げの販売店、または上記「お客様相談室（ミシン119番）」にご連絡ください。
- 上記の電話番号、住所および受付時間は、都合により変更する場合がありますので、ご了承ください。

■ ホームページ

ブラザーのホームページでは、製品に関する様々な情報を掲載しております。

<http://www.brother.co.jp/>

弊社サポートサイト（ブラザーソリューションセンター）では、製品に関するサポート情報を掲載しております。

<http://support.brother.co.jp/>

